

成田市多文化共生指針 策定に向けた調査報告書

**令和3年12月
成田市**

目 次

1. 市政モニターアンケート調査結果	1
2. 「多文化共生について考えるワークショップ」実施報告書	14
3. 外国人アンケート調査結果	20
4. 区・自治会・町内会長アンケート調査結果	50
5. 各種学校・企業等ヒアリング調査結果	65

市政モニターアンケート調査結果

市政モニターアンケート調査結果

目 次

第1部 調査概要

1. 調査目的	3
2. 調査対象・抽出方法	3
3. 調査方法	3
4. 調査実施期間	3
5. 回答状況	3
6. 分析・表示について	3

第2部 調査結果

○ 回答者プロフィール.....	4
問1 あなたのお住まいの地域では、外国人住民が増えたと感じますか？	4
問2 日常生活の中で、外国人住民と接する機会がありますか？	5
問3 これまでに、お住まいの地域で、日本人住民と外国人住民との間にトラブルがあった ことはありますか？	5
問4 それは、どのようなトラブルでしたか？	6
問5 日本人住民と外国人住民との間に、トラブルが起きる原因は何だと思えますか？	6
問6 外国人住民が日本で生活するうえで、特に必要な情報は何だと思えますか？	7
問7 外国人住民に情報を適切に伝えるために、有効な手段は何だと思えますか？	8
問8 外国人住民が増えることについて、どう思えますか？	9
問9 多文化共生を促進するために、外国人住民ができることは何だと思えますか？	9
問10 多文化共生を促進するために、日本人住民ができることは何だと思えますか？	10
問11 多文化共生に関し、どのような活動であれば協力、参加したいと思えますか？ ...	10
問12 国際都市として、成田市はどのような取り組みを行う必要があると思えますか？ ...	11
問13 そのほか、外国人住民と共生していくことに関するご意見をお聞かせください。 ...	12

第1部 調査概要

1. 調査目的

この調査は、成田市多文化共生指針の策定にあたり、市民から外国人に関する施策に対する評価や意見、新しい市への提案を求め、基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査対象・抽出方法

成田市が運営する登録制のアンケート制度「成田市インターネット市政モニター制度」を用いて実施しました。

市内在住、在勤、在学する16歳以上の方で、日本語でインターネットや電子メールの利用が可能な方が本制度の対象者となっています。

3. 調査方法

市政モニターに登録されたメールアドレスにアンケートの依頼を配信し、メール本文、リンク先のアンケートフォームにより入力。

4. 調査実施期間

令和2年1月17日（金）～ 令和2年1月27日（月）

5. 回答状況

配信数	830 件
回答数	586 件
回答率	70.6 %

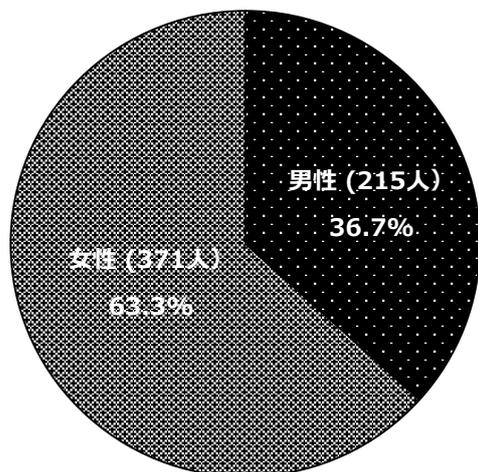
6. 分析・表示について

- ①割合は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならないこともあります。
- ②複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、割合算出を行っています。このため、割合の合計が100.0%を超えることがあります。
- ③報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。

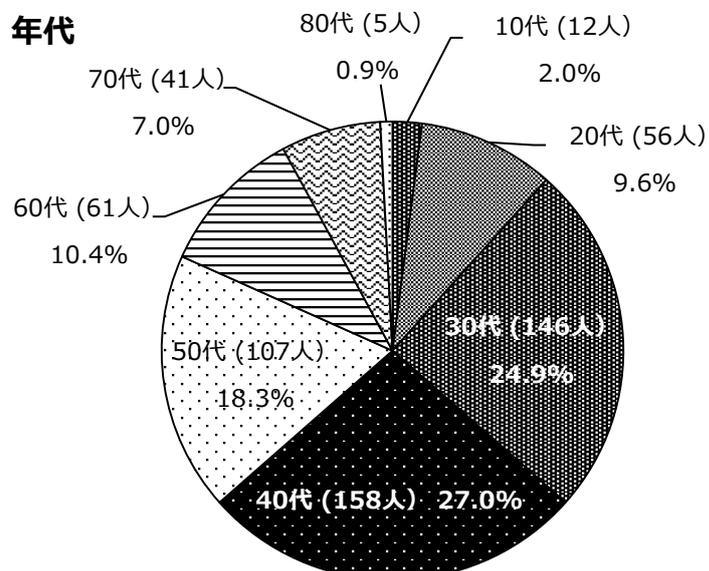
第2部 調査結果

○ 回答者プロフィール

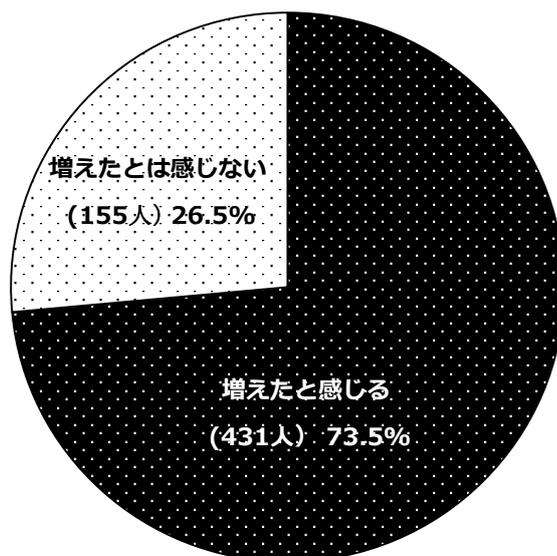
性別



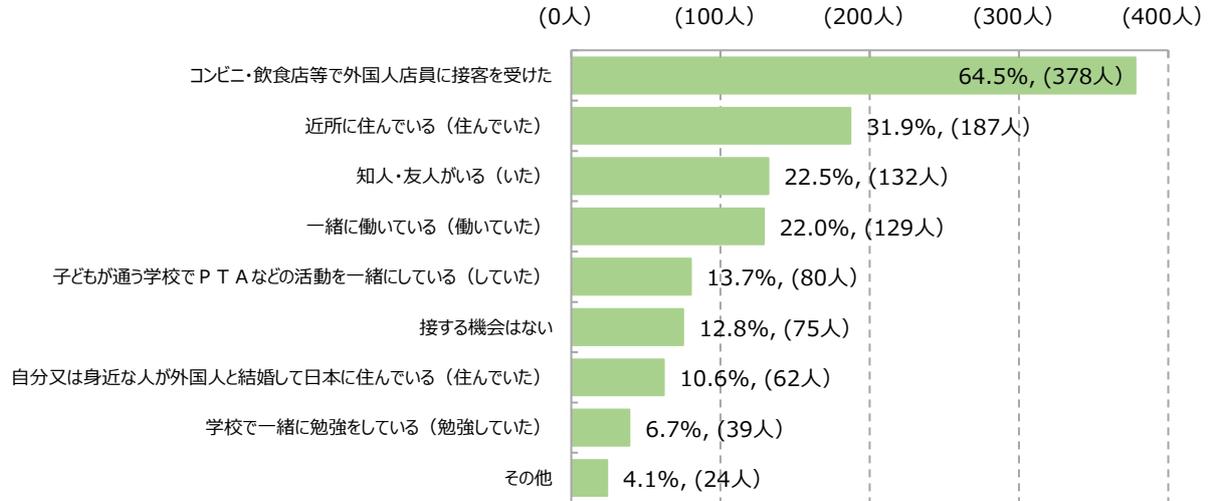
年代



問1 あなたのお住まいの地域では、外国人住民が増えたと感じますか？



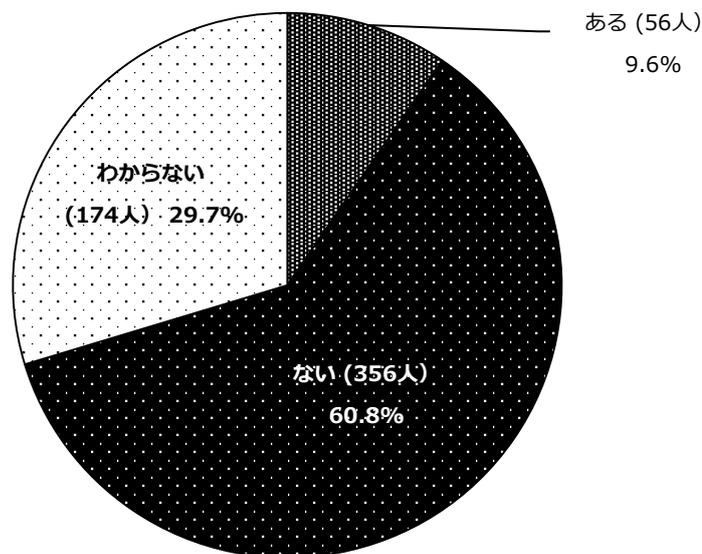
問2 日常生活の中で、外国人住民と接する機会がありますか？（複数選択可）



その他

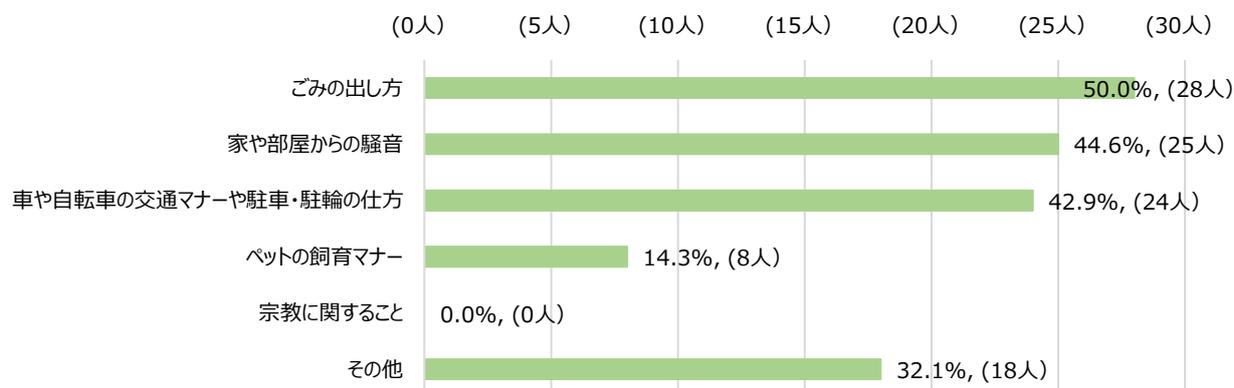
- ・子どもの学校や塾で外国人の先生がいる。
- ・勤務している病院に患者として入院、通院してくる。
- ・散歩をしていると自転車で乗る多くの外国人をよく見かける。
- ・孫の保育園で顔をあわせる。 など

問3 これまでに、お住まいの地域で、日本人住民と外国人住民との間にトラブルがあったことはありますか？



「問 3」で「①ある」を選択した方にお伺いします。

問 4 それは、どのようなトラブルでしたか？ (複数選択可)



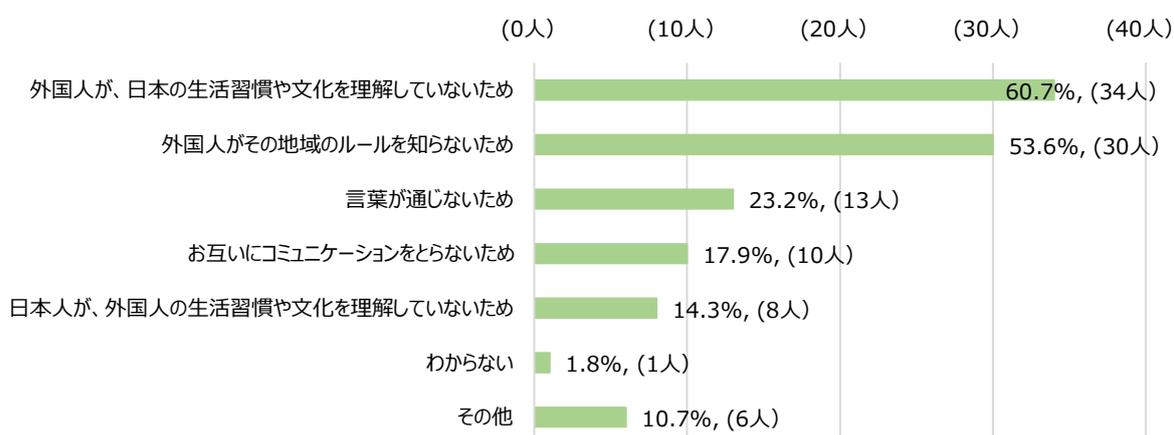
その他

- ・タクシーに並ばないこと。アパートに多人数で住んでいること。
- ・ものを盗まれたこと。
- ・町内会の仕組みについて理解がないこと。
- ・価値観、時間感覚のズレなど。
- ・生活習慣の違いから、日本の習慣になじもうとしないこと。
- ・子どもが通学途中に無断で写真を撮られたこと。
- ・子どもの部活動費の滞納 など

「問 3」で「①ある」を選択した方にお伺いします。

問 5 日本人住民と外国人住民との間に、トラブルが起きる原因は何だと思えますか？

(2つまで選択可)

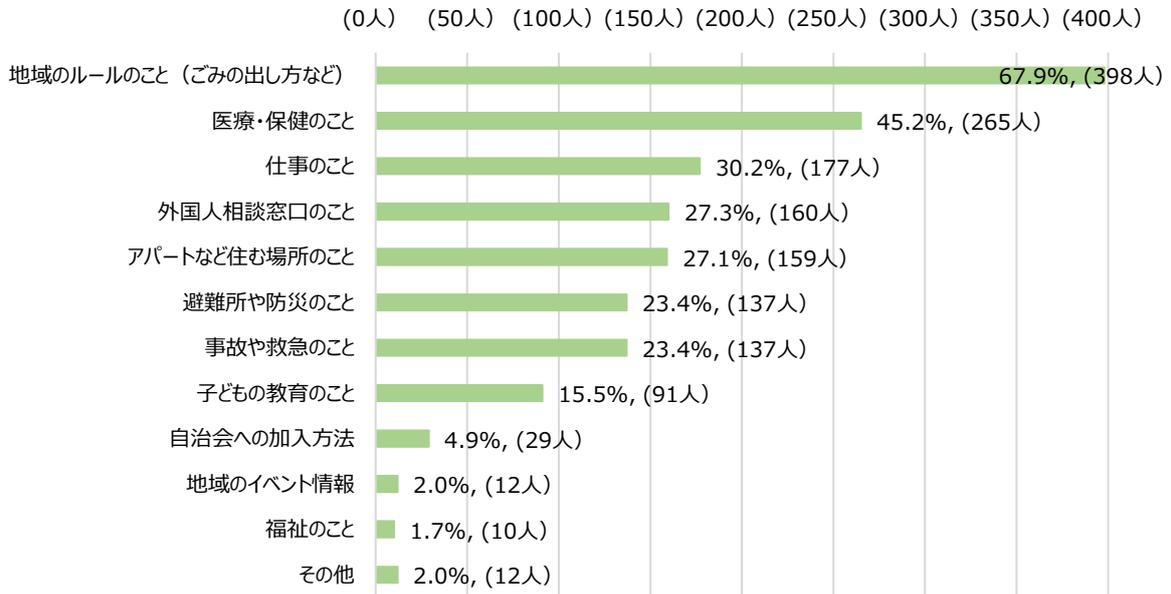


その他

- ・自分の国の習慣やルールを最上のものと考え、日本に合わせる気持ちの無さ。
- ・生活習慣や文化を理解していない以上に、根本的な考え方が違うこと。
- ・経済的なこと。
- ・生まれ育った環境の違い。
- ・一方ではなく、相互理解の不足 など

問 6 外国人住民が日本で生活するうえで、特に必要な情報は何だと思えますか？

(3つまで選択可)

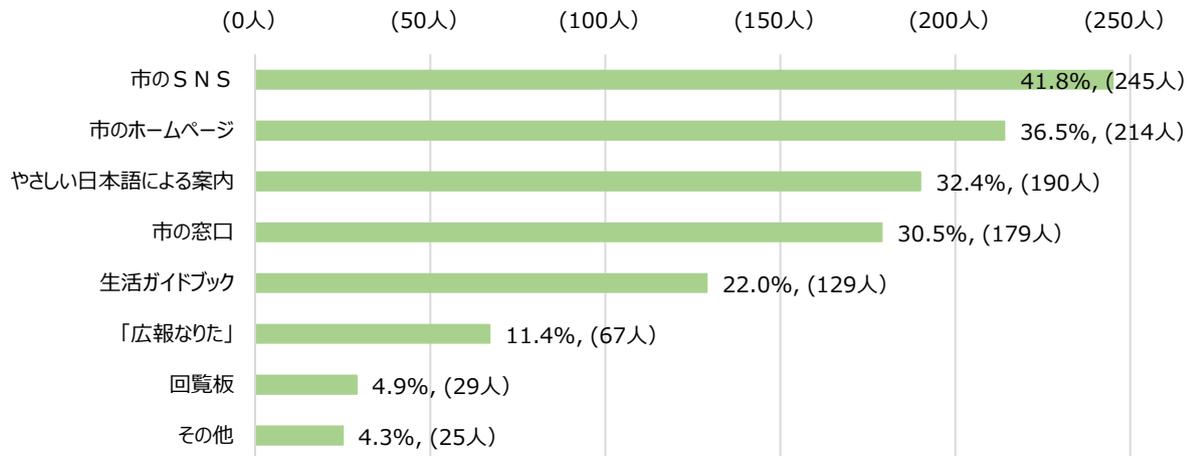


その他

- ・ 言語
- ・ 生活する上での講習
- ・ 地域の住民との付き合い方を知るための説明会
- ・ 日本の法律のこと。 など

問 7 外国人住民に情報を適切に伝えるために、有効な手段は何だと思いますか？

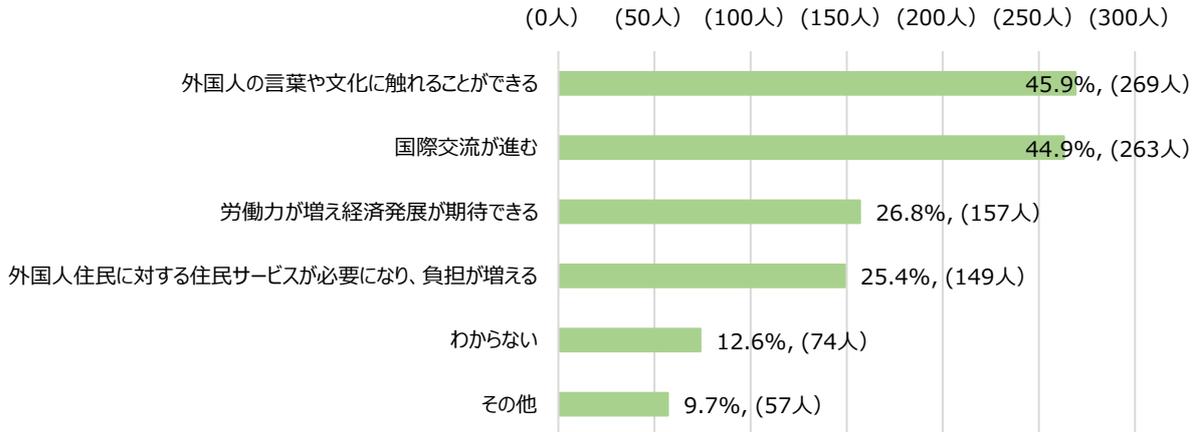
(2つまで選択可)



その他

- ・身近な場所での相談窓口
- ・情報が分かる場所やホームページ情報の街中への掲示
- ・自治会内の世話人による連絡
- ・外国人住民のリーダー的で身近な存在の人物による対応
- ・訪問ボランティア
- ・ゴミ集積所への複数外国語での説明表記
- ・外国人専用のツイッター
- ・外国人向けのHP
- ・市職員と連携した外国人による窓口
- ・市役所での個別対応 など

問 8 外国人住民が増えることについて、どう思いますか？ (複数選択可)

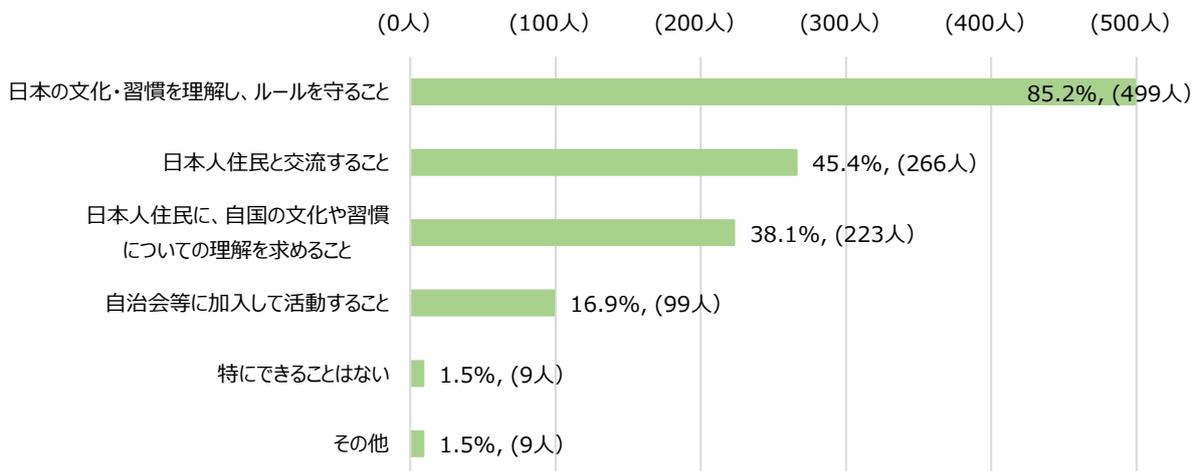


その他

- ・日本が開かれた社会になる。また、不足の労働力を補ってくれる。
- ・治安が悪くなる。
- ・文化の相違や意思疎通の困難により、トラブルが増加する。
- ・ルールを守らない人がいて困る。
- ・ゴミ出し等のルールがわかりづらく乱れるのではないかと不安になる。
- ・仕事が減る。
- ・時代の流れだと思う。 など

問 9 多文化共生を促進するために、外国人住民ができることは何だと思いませんか？

(複数選択可)

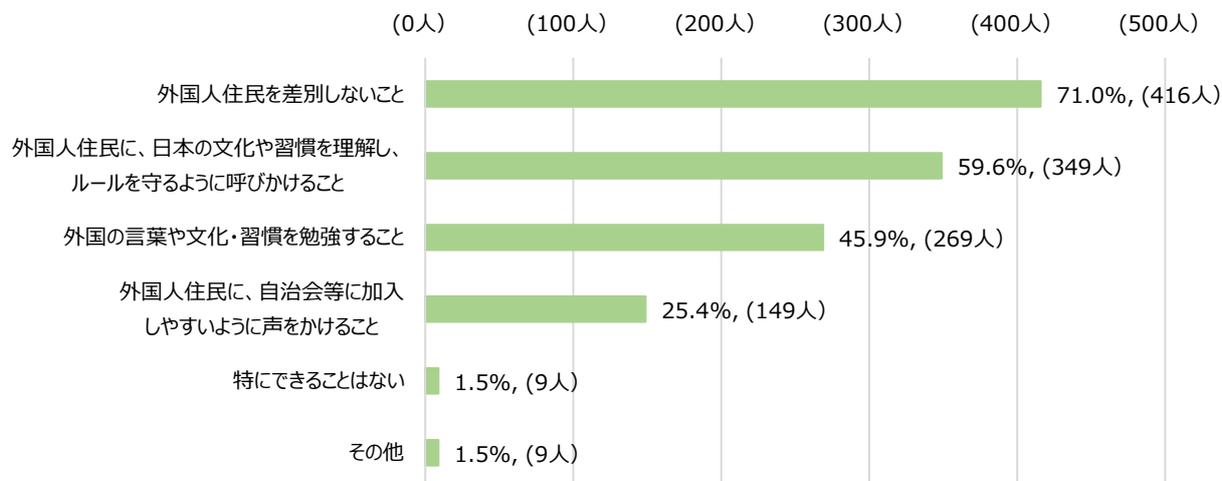


その他

- ・日本人が隣人と交流することが必要であるのと同様に、外国人も隣人と交流すること。
- ・人間として、一緒に社会を支えることができると評価を高めること。
- ・住民の意識を変えていくための系統立てた文化共生教育
- ・最低限の日本語(やさしい日本語)を理解すること。
- ・人間として、一緒に社会を支えることができると評価を高めること。 など

問 10 多文化共生を促進するために、日本人住民ができることは何だと思えますか？

(複数選択可)

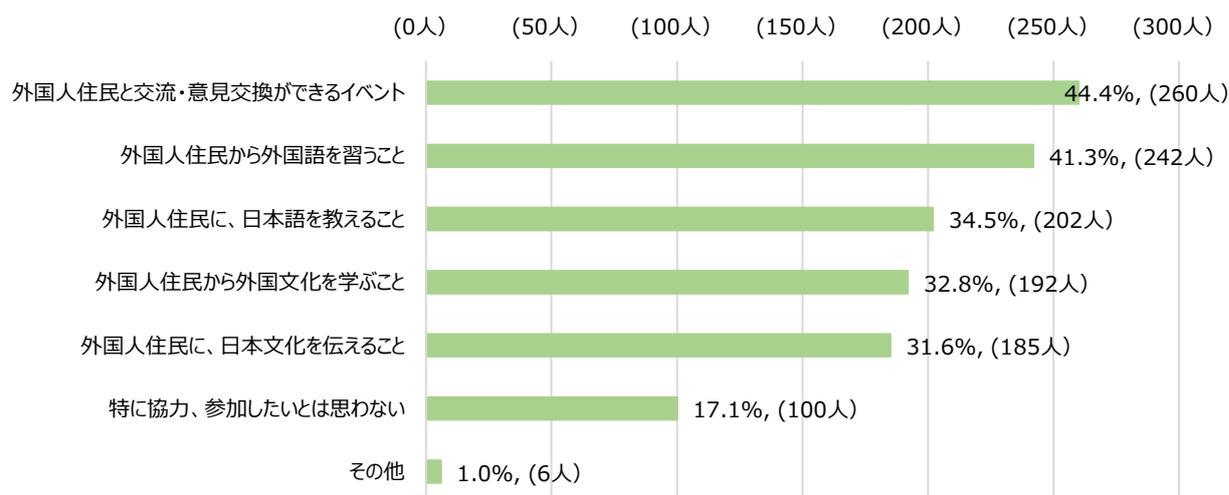


その他

- ・その人やその国に興味をもつこと。
- ・地域活動への参加を促し、日本語と外国語を相互に理解するように努めること。
- ・友好関係が築けるよう配慮すること。
- ・毎日の生活に必要な知識を教えてあげることによって、親しくなりそこから一緒にその地域で楽しく暮らすためにお互いが理解し合うこと。
- ・多文化コミュニティの形成
- ・外国人の住む街のルールを外国人用に作ること。
- ・行政や住民自ら意識を変える運動を計画的に行うこと。 など

問 11 多文化共生に関し、どのような活動であれば協力、参加したいと思いますか？

(複数選択可)

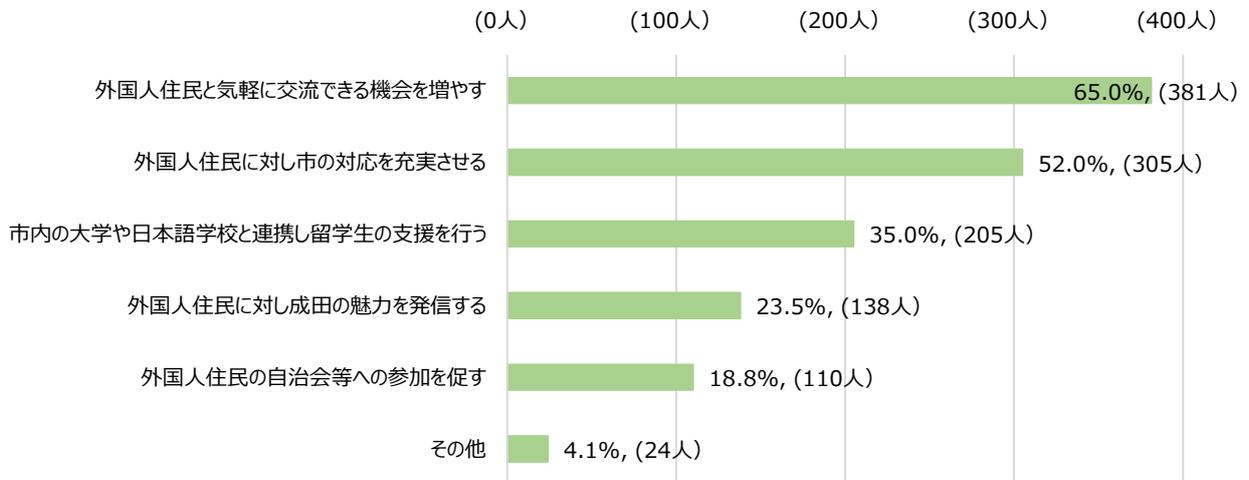


その他

- ・日本のマナーを教えること。
- ・各地域における交流地点づくり など

問 12 国際都市として、成田市はどのような取り組みを行う必要があると思いますか？

(複数選択可)



その他

- ・ 交通ルールをよく教える。
- ・ 日本語教育パンフの作成配布及び市役所サイトで多言語翻訳・音声サイトを新設する。(出来れば、モバイル版が望ましい。)
- ・ ホームページの多言語対応を視覚的に分かりやすくする。
- ・ レジャー施設を整備する。
- ・ 犯罪を抑止する。
- ・ 基本的なマナーを教育する。
- ・ 自治会と外国人との橋渡し役を派遣して問題があるときに素早く対応できるようにする。
- ・ キャッシュレスとフリーWi-Fiを充実させる。
- ・ 市民の英語力(特に会話)を教育する機会を拡充させる。
- ・ 外国人が成田で活躍及びボランティア活動できる場所を作る。 など

問 13 そのほか、外国人住民と共生していくことに関するご意見をお聞かせください。

- ・彼らも仕事をしたり学校に行ったり、どこかに属しているであろうから、その職場なり学校なりで、マナーについて伝える機会があればよい。
- ・表面だけのイベントや交流会なら予算と努力の無駄なのでやめた方がよい。私生活で交流しあえる状況をつくらない限り進歩しない。
- ・必要以上に特別な存在と意識することなく、隣人の1人として接することが当たり前になってほしい。
- ・文化の違う外国人に日本のルールや習慣を理解してもらうのは難しいと思うが、まずはそれが第一歩だ。そうすれば日本人住民にとっても外国人住民が今より身近に感じられるのでは。日本での生活に馴染んでいる外国人は応援したくなる。
- ・国際都市と言うからにはその強みを生かして、小学校や中学校でももっとこの成田に住む外国人と触れ合う機会を増やし、文化の違いを認め合う交流ができれば、子どもたち、親にとっても安心して住みやすい成田になる。
- ・日本に住むのなら最低限の日本のマナーを理解してほしい。また、市はマナーを守るよう啓蒙活動に積極的に取り組むべきでは。
- ・日本人より謙虚で学びに対して頑張っている外国人もたくさんいることを知り、日本で受けられるサービス、対等な仕事、楽しい日本の生活になるように SNS で情報発信していくのが大切。
- ・積極的に日本を知りたいと求めている人がいれば、その窓口を用意しているし、またそれを日本人住民が知っていて、求めている外国人に教えられる状況があればよい。
- ・市役所が休みの時にも外国人が問い合わせできるような窓口があるとよい。生活を始めるための支援だけでなく仕事なども日本人目線で支援（アドバイス）があればよい。
- ・子どもたちが多様な価値観に触れ、一人の日本人としてのアイデンティティを確立するために、外国人が身近にいることは大変好ましい。国の違いによって当たり前には違いはあるが、色眼鏡で見ることでなく、色々な角度からお互いを知り、認め合い、尊重し合うことは、人格形成の上で重要。つまり、外国人にとって住み良い成田を作るとは、私達日本人の成田市民の質的向上にとってもとても大事なことだ。
- ・外国人住民が増えると、治安やゴミ処理の問題、自転車などの窃盗など、懸念される問題があるが、グローバル化が加速される中で避けては通れない現実だ。この問題に対しては、日本社会のルール、常識を身につけてもらうことが必須であり、来日外国人への日本人社会としての教育の場を増やすことだ。そのための交流の場や相談窓口を増やし、日本人との接触・交流の機会を増やすことだ。同時に各国の情報発信の場を増やすことも有効だ。
- ・昨年の台風の際、海外の方に対するアナウンスが少ないように感じた。今後は海外の方に対するアナウンスももっと充実した方がよい。
- ・日本人とか外国人とか考えるよりも、日本に住む人は日本人というように意識を変えていく必要がある。
- ・外国人のお客さんが集まりやすいお店、飲食店があるので、市から情報を直接発信することも大事だが、お店を通じて情報を発信することも検討した方がよい。
- ・身近に住んでいる外国人の現状は、所得層も低く、コミュニティ形成などの余裕が無い方が多いように見受けられる。共生（共に生きていく）の前に支援が必要ではないか。

- ・ 以前から住んでいて、地域性を良く知っている外国人を、サポーターとして協力してもらい、一緒に相談を気軽に受けられるようにする。
- ・ 保育園でも外国人のお子さんが増えている。保育士の負担も増えているように思われるため、外国語ができる補助スタッフを増やすなどしてはどうか。小中学校に配置されているALTを市立保育園にも派遣し、一緒に英語を学ぶ機会などがあるとよい。
- ・ 日本人と外国人で、市民サービスで差別をしないことが大事だ。そして、日本文化に不慣れな人には、より丁寧な案内や説明が求められる。
- ・ 引っ越してきて最初に訪ねるところが市役所だと思うので、市役所の担当者から自治会に入るよう勧めてくれるとよい。

成田市×国際医療福祉大学

「多文化共生について考えるワークショップ」実施報告書

開催概要

国際医療福祉大学の外国人留学生と日本人学生を対象に、若い世代の目線・立場から、本市において外国人との共生をしていくための意見や要望をお伺いするため、次のとおりワークショップを開催しました。

リラックスした雰囲気の中でオープンに会話し、自由にネットワークを築くことができる空間で生み出された知識やアイデアを、多文化共生指針を策定する際の参考とさせていただきました。

内 容：成田市×国際医療福祉大学 「多文化社会について考えるワークショップ」

日 時：令和2年2月15日（土） 12：00 - 15：30

会 場：国際医療福祉大学成田キャンパス WA棟 2階 TBL室

出席者：31名（日本人学生14名、外国人留学生17名）



○実施方法

4つにグループ分けをし、事前に用意したテーマについて話し合いを行いました。

話し合いの中で出た意見やアイデアを付箋に書いていただき、グループ内で情報共有し、各グループで出た意見を全体に向けて発表しました。

○話し合いのテーマ

- ・成田に住んでみて・来てみて感じたことは何ですか？
- ・日本人住民と外国人住民が共生するにあたり大事なことは、何だと思いませんか？
- ・皆さんが望む「多文化共生のまち成田」はどんなまちですか？

○各グループの意見発表

【A グループ】

- ・市内に海外の専門料理店や食材が購入できる店の出店。また、海外の食材を扱ったフェスティバルを開催するなどがあると外国人住民にとっては母国の味が楽しめ、日本人にとっても海外に親しむことができる。
- ・学校で学ぶ世界史だけでなく、アジアの国々の地理や歴史も教養として学ぶことが必要であり、外国人と直接交流しながら、学べる機会があれば、お互いに共生に向けた理解が進む。
- ・留学生は、日本について学ぶ機会がたくさんあるが、労働者として在住している外国人に対し、日本のことを知っていただくセミナーなどの開催があるとよいのではないか。

【B グループ】

- ・成田市は、物価が高く、路線バス、電車の本数が少なく、生活しづらい。
- ・外国人の方が、成田市の情報を共有できるシステムとして、出身国のコミュニティや外国人が交流できる場があればいいと思う。
- ・市内に遊園地がほしい。

【C グループ】

- ・留学生の意見として、成田市の印象は、きれいで過ごしやすく、交通の整備もされている。
- ・外国人労働者は、日本社会に貴重な人材であるにも関わらず、互いの文化や言語についての理解が追いついていない。
- ・雇用側に、外国人に対する理解が足りていない。市で、国・年齢・文化に関係なく交流できるコミュニティやイベントがあれば、小さなきっかけかもしれないが、雇用側の理解も深まるのではないか。

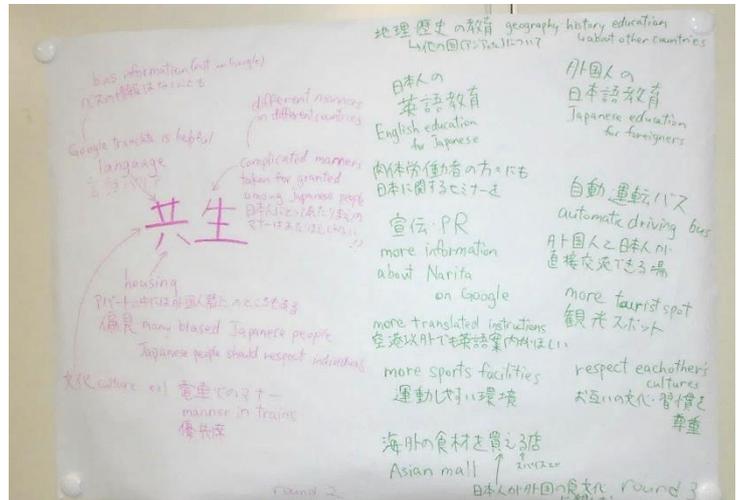
【D グループ】

- ・留学生の意見として、成田市はきれいな街だが、買い物が不便である。また、坂が多くて自転車に乗るのが大変である。
- ・外国人と日本人の相互理解でいうと、文化フェスティバルなどを開催し、在住外国人も自ら参加して日本文化に慣れるように努力が必要だと思う。
- ・外国人が住みやすくするため、バスの時刻表や地名また市の観光スポットの情報などについて、もっと英語での表記が必要だと思う。
- ・テーマパークがあるといい。
- ・中華街のような多文化タウンがあると外国人も母国を感じることができる。

○各グループの模造紙内容

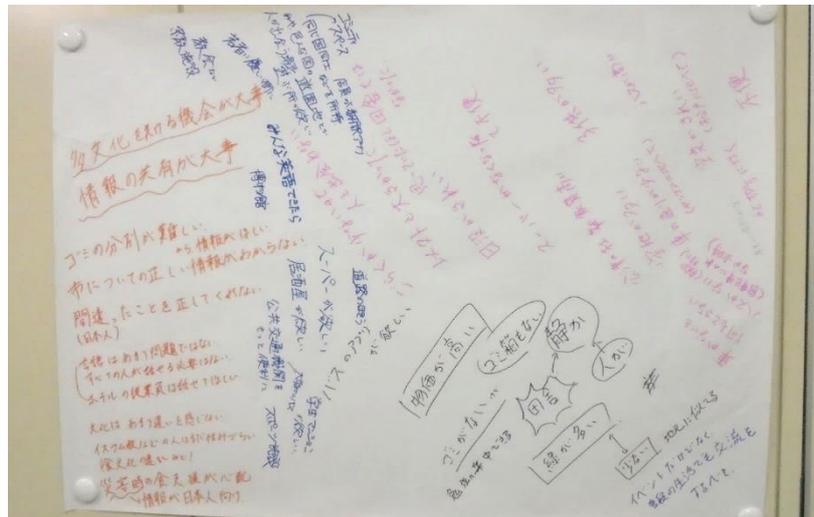
【A グループ】

- ・言語のバリアがある。
- ・バスの情報がないことがある。
- ・国が違えばマナーも違う。
- ・日本人にとってあたりまえのマナーはあたりまえじゃない。
- ・アパートの中には外国人禁止のところもある。
- ・電車でのマナー
- ・地理・歴史の教育、ほかの国について。
- ・日本人の英語教育
- ・外国人の日本語教育
- ・宣伝 PR
- ・自動運転バス
- ・観光スポット
- ・外国人と日本人が直接交流できる場
- ・空港以外でも英語の案内が欲しい。
- ・運動しやすい環境
- ・お互いの文化・習慣を尊重



- ・海外の食材を買い取る店（スパイス等）
- ・日本人が外国の食文化を楽しむ。

【B グループ】



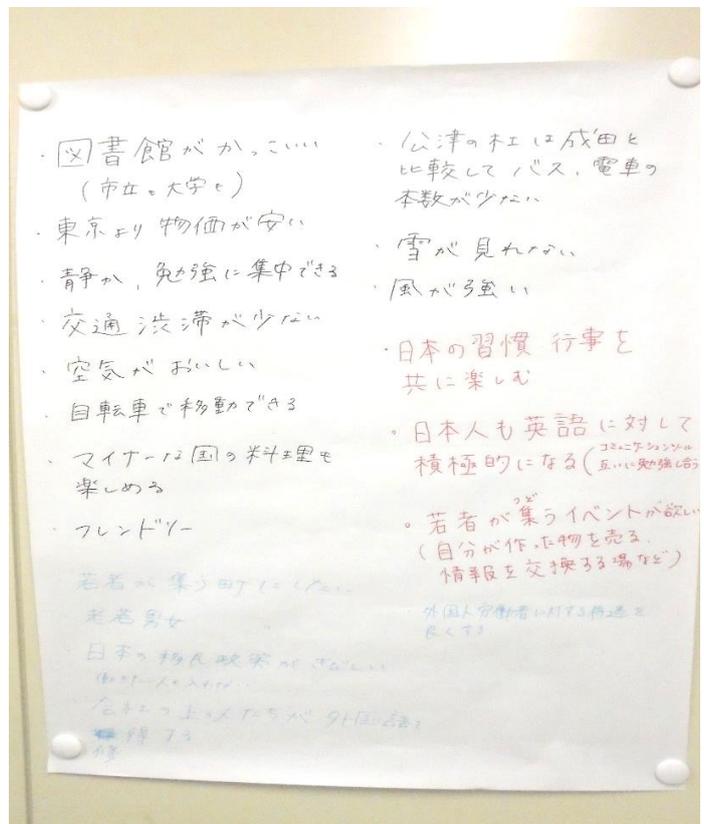
- ・多文化を知る機会が大事
- ・情報の共有が大事
- ・ゴミの分別が難しいから情報が欲しい。
- ・市についての正しい情報がわからない。
- ・間違ったことを正してくれない。（日本人）
- ・言語はあまり問題ではない。
- ・すべての人が話せる必要はない。
- ・ホテルの従業員は話せてほしい。
- ・文化はあまり違いを感じない。
- ・イスラム教などの人はまだ住みづらい。（食文化の違いなど）
- ・災害時（情報が日本人向け）の食支援が心配。

- ・物価が高い。
- ・ゴミがないけど、ゴミ箱もない。
- ・田舎で静か。
- ・人が静か。
- ・勉強が集中できる。
- ・緑が多い。
- ・自分の地元似ている。
- ・イベントだけでなく普段の生活でも交流するべき
- ・バスのアプリが欲しい。
- ・店員が翻訳アプリなどを所持。
- ・同じ国同士や色々な国の人が出会う場所→コミュニティスペース
- ・遊園地など遊ぶ所が欲しい。
- ・若者に優しい街に。
- ・教会など宗教施設
- ・みんな英語ができれば。
- ・博物館
- ・道路の舗装
- ・スーパーが欲しい。
- ・居酒屋が欲しい。

- ・学生マンションが欲しい。
- ・スポーツ施設
- ・大学までのバス
- ・公共交通機関をもっと便利に。
- ・娯楽が少ないので人と出会わない。
- ・意外と大きかった。
- ・思っていたほど田舎ではなかった。
- ・日没がきれい。
- ・スーパーがなくなって不便。
- ・公津の杜は家賃高い。
- ・空地が多い。
- ・車の通りが少ない。(ヤンゴンに比べて。)
- ・子どもが多い。
- ・バスの運賃が高い。
- ・空気がきれい。(松戸に比べて)
- ・不便
- ・遊ぶ場所がないので TDL (TDS) に行く。
- ・車がないと何もできない。
- ・バスがない。(祝日、特に自転車に乗れなかった時)

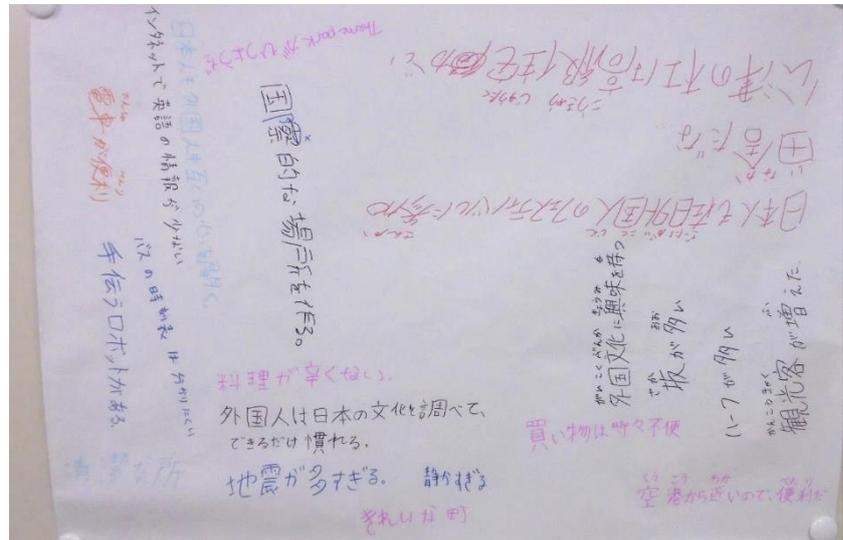
【Cグループ】

- ・図書館がかっこいい。(市立も大学も)
- ・東京より物価が安い。
- ・静か、勉強に集中できる。
- ・交通渋滞が少ない。
- ・空気がおいしい。
- ・自転車での移動ができる。
- ・マイナーな国の料理も楽しめる。
- ・フレンドリー
- ・若者が集う街にしたい。
- ・日本の移民政策が厳しい。働きたい人も入れない。
- ・会社の上の人たちが外国語を修得する。
- ・公津の杜は成田と比較してバス、電車の本数が少ない。
- ・雪を見ることができない。
- ・風が強い。
- ・日本の習慣、行事を共に楽しむ。
- ・日本人も英語に対して積極的になる。(コミュニケーションツール、互いに勉強しあう。)
- ・若者が集うイベントが欲しい。(自分が作ったものを売る。情報を交換する場など。)
- ・外国人労働者に対する待遇をよくする。



【Dグループ】

- ・電車が便利。
- ・インターネットに英語の情報が少ない。
- ・日本人も外国人もお互いの心を開く。
- ・バスの時刻表はわかりにくい。
- ・手伝うロボットがある。
- ・清潔な所
- ・地震が多すぎる。
- ・きれいな町
- ・静かすぎる。
- ・外国人は日本の文化を調べて、できるだけ慣れる。
- ・料理が辛くない。
- ・国際的な場所を作る。
- ・テーマパークが必要だ。
- ・公津の杜は高級住宅街
- ・田舎だな。
- ・日本人も在日外国人のフェスティバルに参加。
- ・外国文化に興味を持つ。
- ・坂が多い。



- ・ハーフが多い。
- ・観光客が増えた。
- ・空港から近いので便利だ。
- ・買い物に不便な時がある。

外国人アンケート調査結果

外国人アンケート調査結果

目次

第1部 調査概要

1. 調査目的	23
2. 調査対象・抽出方法	23
3. 使用言語	23
4. 調査方法	23
5. 調査実施期間.....	23
6. 回収状況	23
7. 分析・表示について	23

第2部 調査結果

1. 回答者プロフィール.....	24
(1) 国籍・地域	24
(2) 性別	24
(3) 年齢	24
(4) 日本に来た時の在留資格	25
(5) いまの在留資格.....	25
(6) 住んでいる家.....	26
(7) 世帯	26
(8) 一緒に住んでいる人.....	27

2. 成田市での暮らしについて

問1. これから、どのくらい成田市に住み続ける予定ですか。	28
問2. あなたが生活で困っていることや不安なことは何ですか。	29
問3. あなたは近くに住む日本人とつきあいはありますか。	30
問3-1. それはどのようなつきあいですか。	30
問3-2. 日本人とつきあいがいないのはどうしてですか。	31
問4. 自治会（または区、町内会）を知っていますか。	31
問4-1. 自治会に入っていますか。	32
問4-2. 自治会になぜ入ったのですか。	32
問4-3. 自治会に入っていないのはなぜですか。	33

3. 言葉について

問5. あなたは日本語で困ることはありますか。	34
問5-1. それはどんなことですか。	34
問6. これから日本語を勉強したいと思いますか。	35

問 6-1. どのように勉強していますか。また、どのように勉強したいですか。	35
問 6-2. 日本語を勉強したいとは思わない、または勉強をしていない理由は何ですか。	36
4. 乗り物について	
問 7. あなたは電車やバス、タクシーを使いますか。	37
問 7-1. どの乗り物を使いますか。	37
問 7-2. 電車やバス、タクシーに乗る時、困ったことはありますか。	38
5. あなたの仕事について	
問 8. 今、あなたは働いていますか。	39
問 8-1. 今の職場で、どれくらい働いていますか。	39
問 8-2. あなたの仕事の立場は何ですか。	40
問 8-3. 生活費はどこから得ていますか。	40
問 9. 医療保険に入っていますか。	41
問 10. 公的年金に入っていますか。	41
6. 情報について	
問 11. 日常生活で、どんな情報が必要ですか。	42
問 12. どうやって、生活に必要な情報を手に入れていますか。	43
問 13. 生活情報を手にいれるために、成田市にどんなことをしてほしいですか。	44
問 14. 成田市への意見、要望.....	45

第1部 調査概要

1. 調査目的

成田市多文化共生指針の策定にあたり、外国人住民の多文化共生に関する基礎的データの収集を目的として実施しました。

2. 調査対象・抽出方法

市内在住の満18歳以上70歳未満の男女それぞれ250人、合計500人の外国人住民を対象に、住民基本台帳より無作為に抽出したものに加え、市役所に来庁された外国人住民及び、各種学校等に在籍する外国人を対象としました。

3. 使用言語

英語、スペイン語、中国語（簡体）、ポルトガル語、やさしい日本語

4. 調査方法

調査票の郵送配布及び間接配布・回収（自記式）

5. 調査実施期間

令和2年8月5日（水）～ 令和2年10月30日（金）

6. 回収状況

郵送配布と間接配布の合計有効回収数126票、有効回収率22.5%となっています。

	郵送配布	間接配布	合計
総発送数	500 件	70 件	570 件
宛先不明等	9 件	0 件	9 件
白票	0 件	1 件	1 件
有効回収数	102 件	24 件	126 件
有効回収率（%）	20.8 %	34.3 %	22.5 %

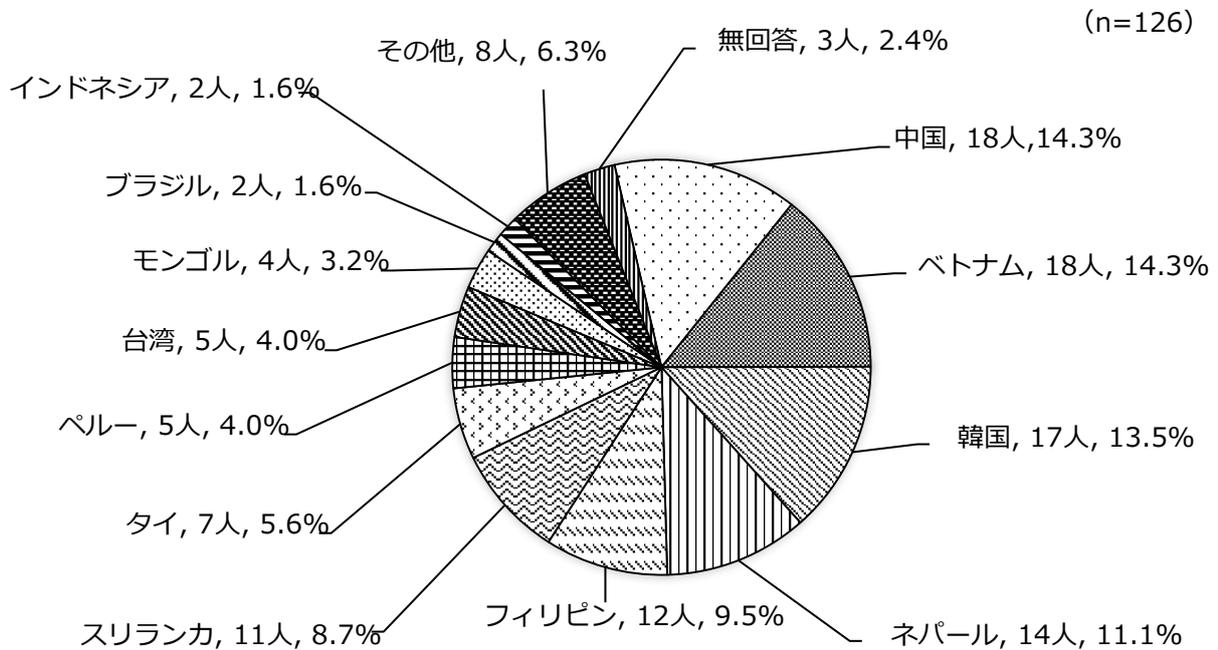
7. 分析・表示について

- ①割合は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならないこともあります。
- ②複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、割合算出を行っています。このため、割合の合計が100.0%を超えることがあります。
- ③調査結果内の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ④グラフ中の（n=〇〇）という表記は、その項目の有効回答者数で、割合算出の基礎となります。

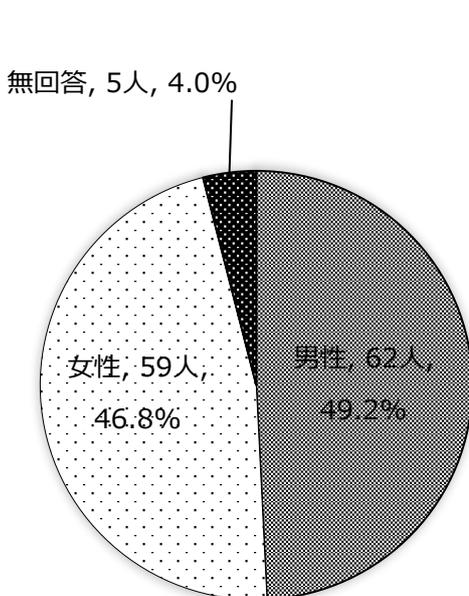
第2部 調査結果

1. 回答者プロフィール

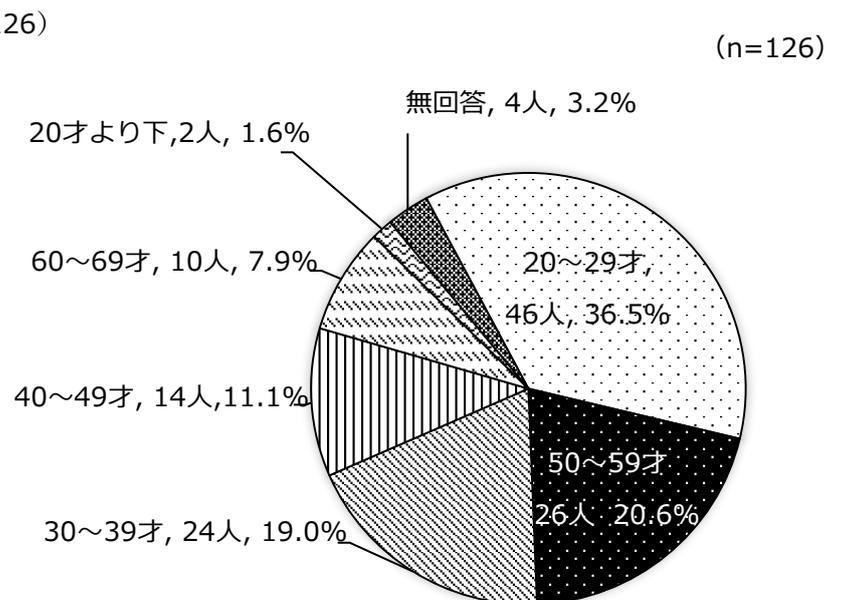
(1) 国籍・地域



(2) 性別) 年齢

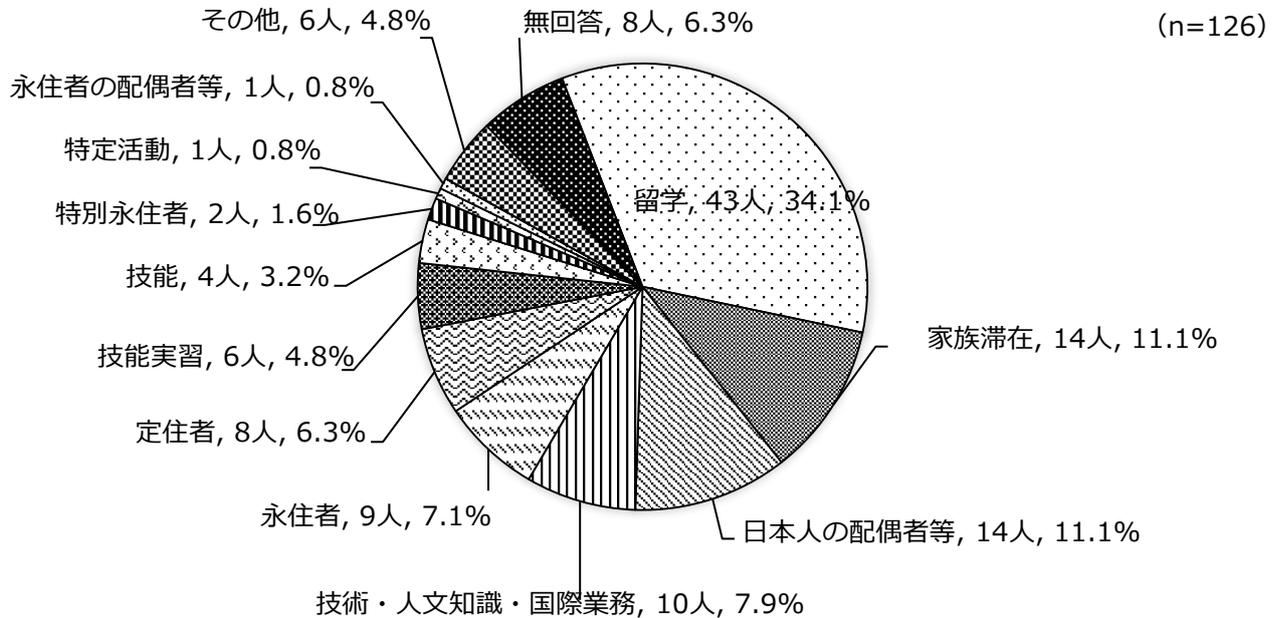


(3) 年齢



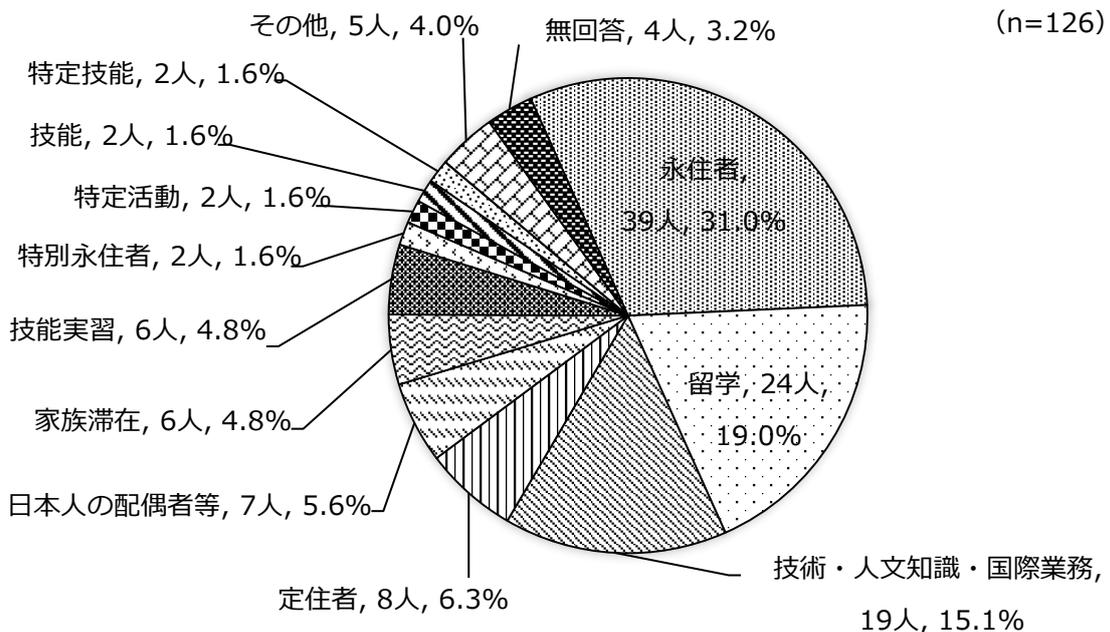
(4) 日本に来た時の在留資格

日本に来た時の在留資格を調査したところ、「留学」が34.1%と最も多く、次いで、「家族滞在」と「日本人の配偶者」がそれぞれ11.1%、「技術・人文知識・国際業務」が7.9%と続いています。



(5) いまの在留資格

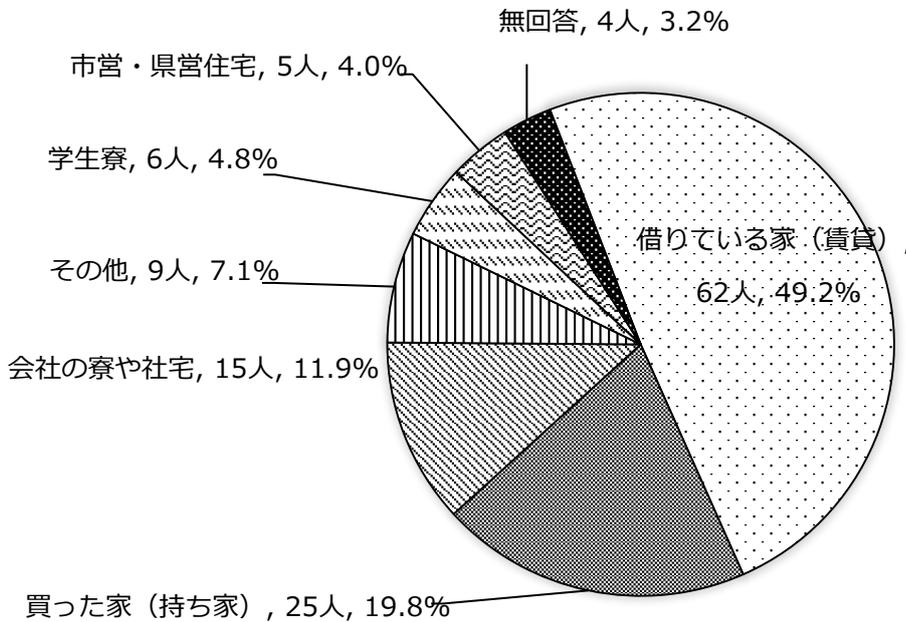
現在の在留資格は、「永住者」が31.0%と最も多く、次いで「留学」が19.0%、「技術・人文知識・国際業務」が15.1%となっています。



(6) 住んでいる家

外国人は「賃貸住宅（公営住宅含む）に住む」のが最も多く 53.2%、「寮や社宅に住む」のは 16.7%、一方で「持ち家に住む」のは 19.8%となっています。

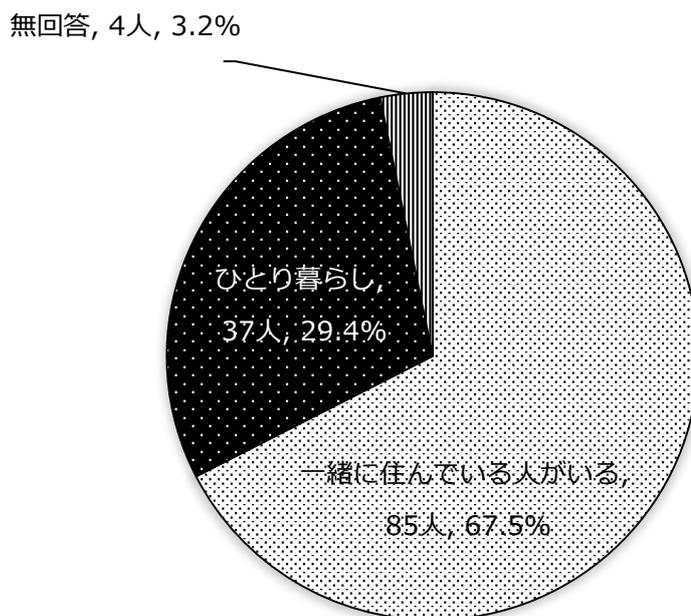
(n=126)



(7) 世帯

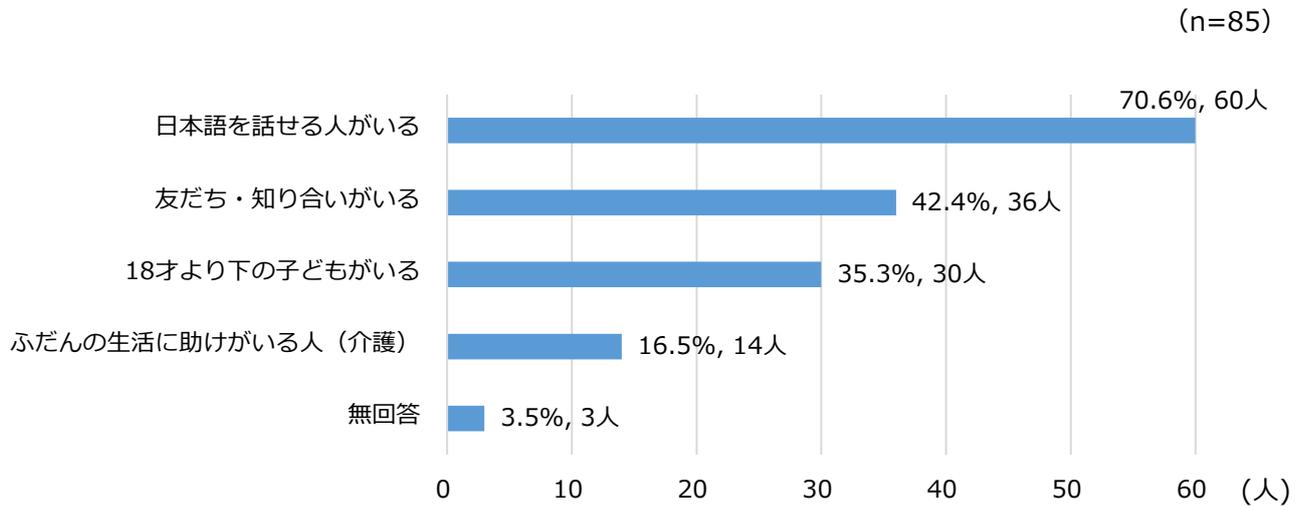
世帯構成は「一緒に住んでいる人がいる」が最も多く 67.5%、「ひとり暮らし」は 29.4%となっています。

(n=126)



(8) 一緒に住んでいる人 ((7) 世帯で「一緒に住んでいる人がある」を選択した方・複数選択可)

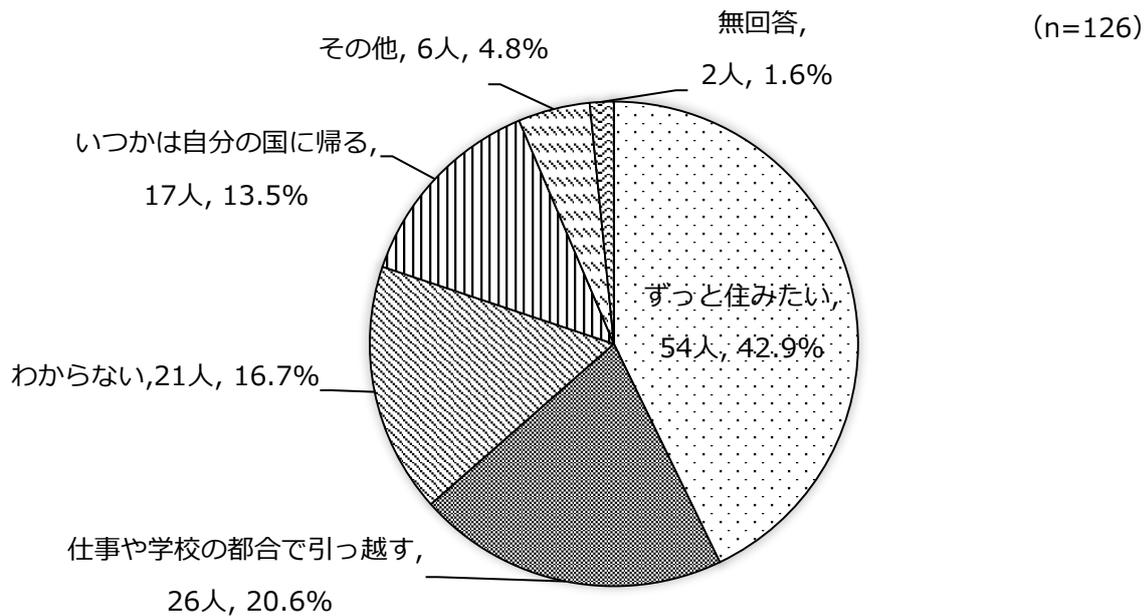
外国人住民は「日本語を話せる人と住んでいる」と答えた方が70.6%と最も多く、次いで多いのは「友人・知人と共に住んでいる」が42.4%となっています。



2. 成田市での暮らしについて

問1. これから、どのくらい成田市に住み続ける予定ですか。

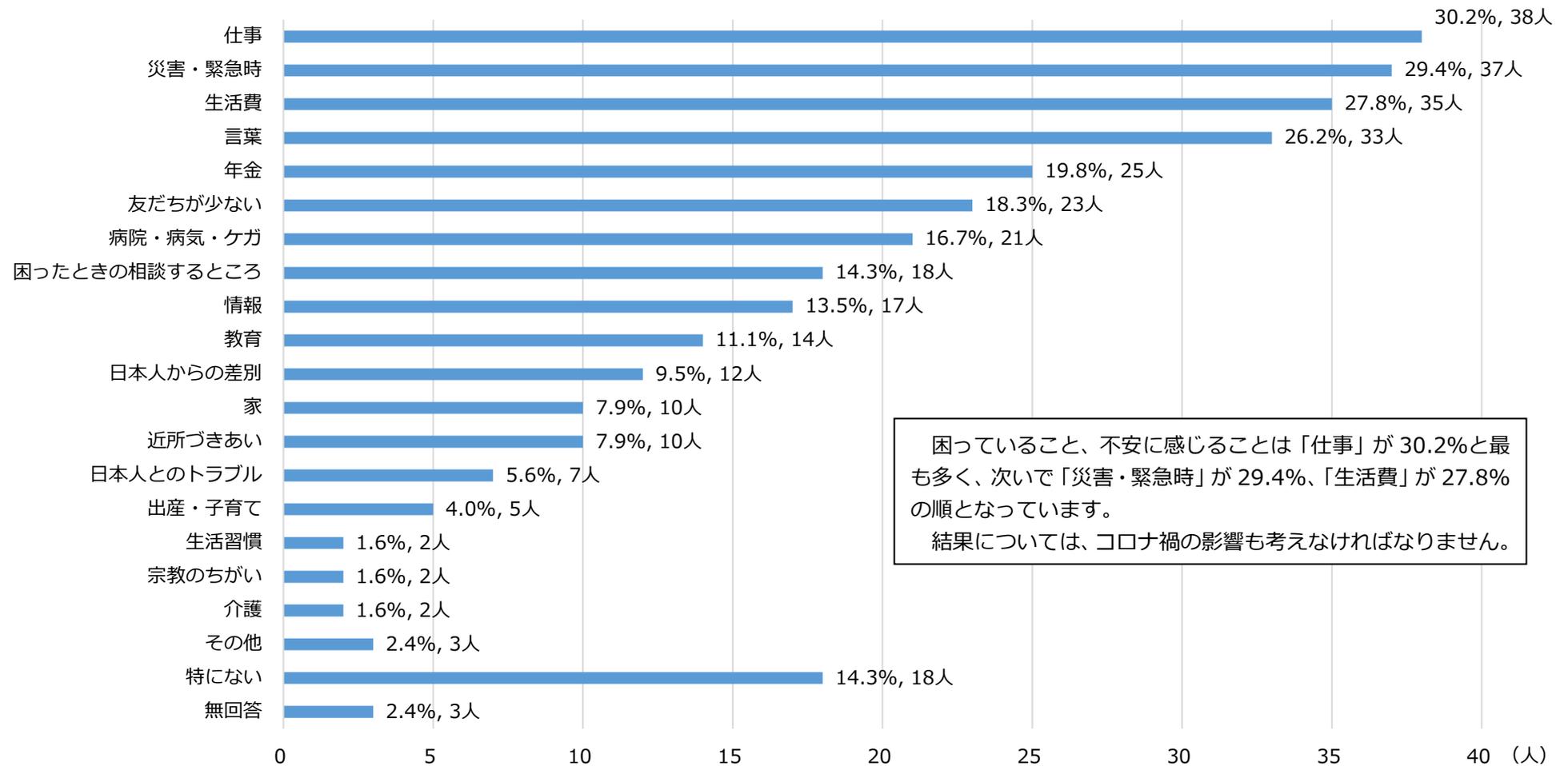
成田市への居住希望については、「ずっと住みたい」と回答したのは全体の42.9%と最も多く、一方で「いつかは自分の国に帰る」と答えたのは13.5%にのびりました。「ずっと住みたい」の在留資格別内訳をみると、「永住者」55.6%、「留学生」11.1%、「技術・人文知識・国際業務」が9.3%となっています。



いまの在留資格	①ずっと住みたい	②仕事や学校の都合で引っ越す	③いつかは自分の国に帰る	④わからない	⑤その他	無回答
	%	%	%	%	%	%
①永住者	55.6%	0.0%	11.8%	28.6%	16.7%	0%
②家族滞在	1.9%	7.7%	0%	14.3%	0%	0%
③定住者	3.7%	3.8%	11.8%	9.5%	0%	50.0%
④特別永住者	0%	0%	0%	0%	33.3%	0%
⑤留学	11.1%	34.6%	35.3%	14.3%	0%	0%
⑥技術・人文知識・国際業務	9.3%	26.9%	11.8%	14.3%	33.3%	0%
⑧特定活動	0%	3.8%	0%	4.8%	0%	0%
⑨技能実習	1.9%	3.8%	17.6%	4.8%	0%	0%
⑩技能	0%	0%	0%	4.8%	0%	50.0%
⑪特定技能	1.9%	0%	5.9%	0%	0%	0%
⑫日本人の配偶者等	5.6%	7.7%	5.9%	4.8%	0%	0%
⑮その他	3.7%	7.7%	0%	0%	16.7%	0%
無回答	3.7%	3.8%	0%	0%	0%	0%
(空白)	1.9%	0%	0%	0%	0%	0%
総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

問2. あなたが生活で困っていることや不安なことは何ですか。(複数選択可)

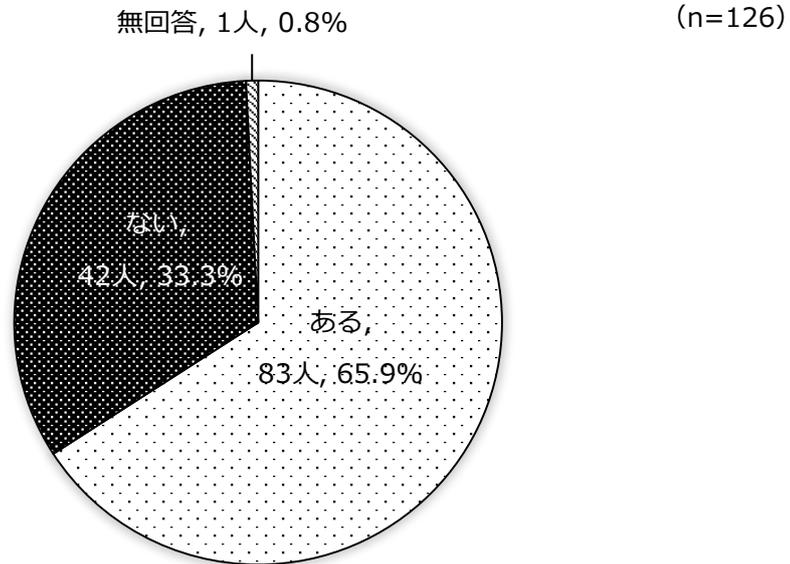
(n=126)



困っていること、不安に感じることは「仕事」が30.2%と最も多く、次いで「災害・緊急時」が29.4%、「生活費」が27.8%の順となっています。
結果については、コロナ禍の影響も考えなければなりません。

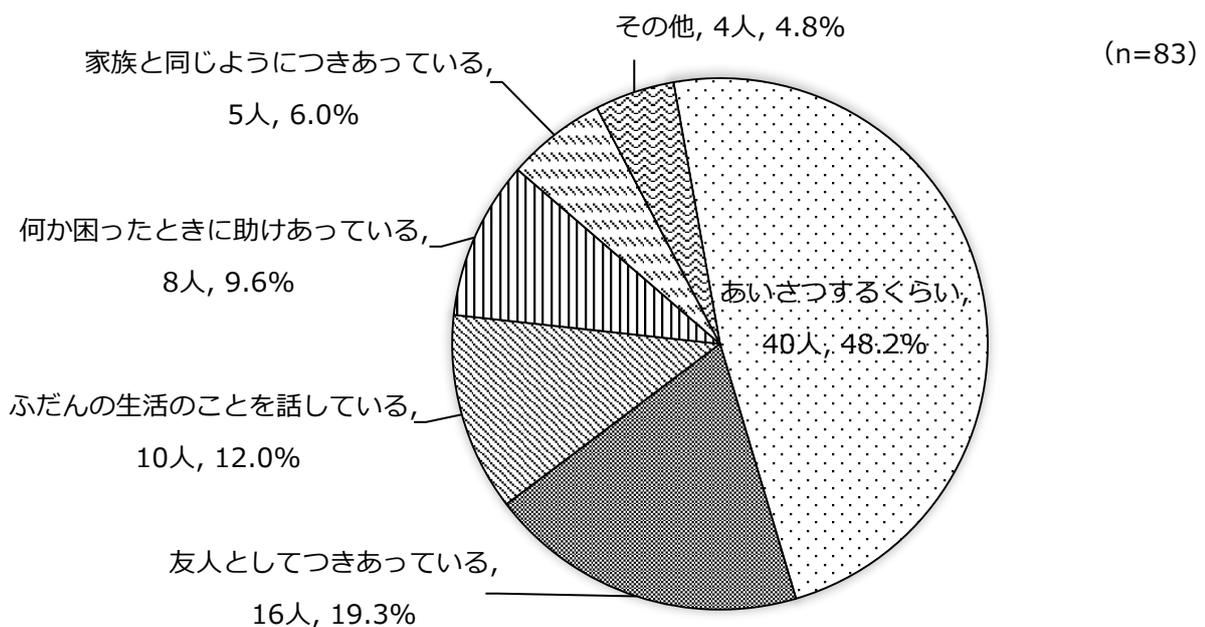
問3. あなたは近くに住む日本人とつきあいはありますか。

近くに住む日本人とつきあいが「ある」と答えたのは全体の 65.9%、「ない」と答えたのは 33.3%となっています。



問3-1. それはどのようなつきあいですか。(問3で「ある」を選択した方)

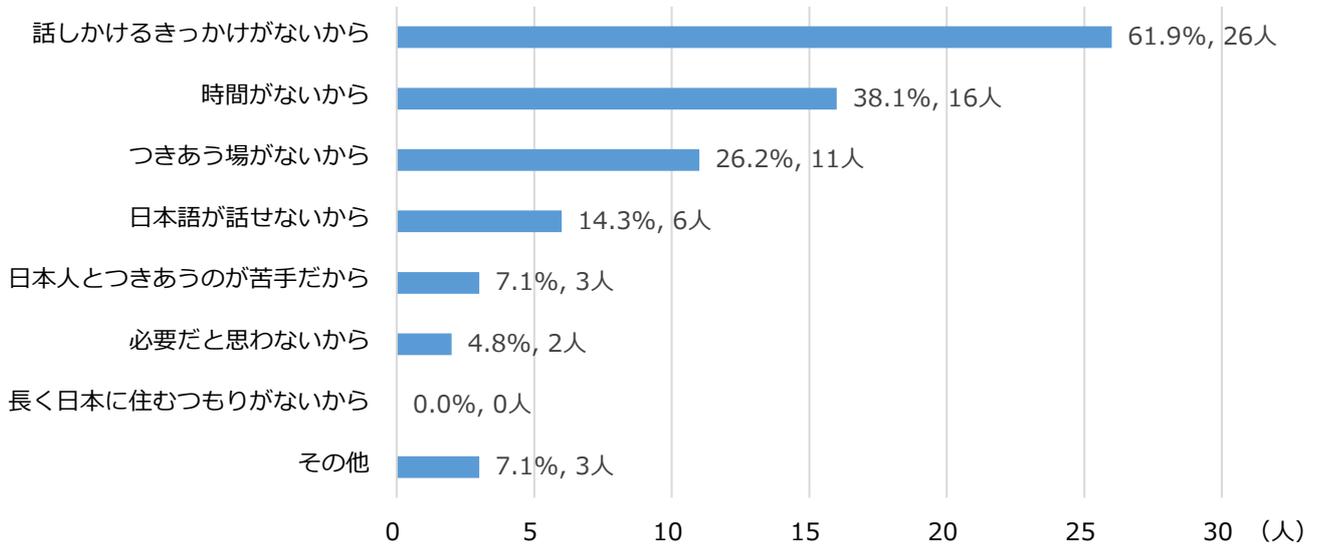
問3で日本人とつきあいが「ある」とされた人のつきあいの程度については、「あいさつをするくらい」が 48.2%、次いで「友人としてつきあい」が 19.3%と続いています。



問3-2. 日本人とつきあいが無いのはどうしてですか。(問3で「ない」を選択した方・複数回答)

問3で日本人とつきあいが無いとした人の理由は、「話しかけるきっかけがない」が61.9%と最も多く、次いで「時間がない」が38.1%、「つきあう場がない」が26.2%と続いています。

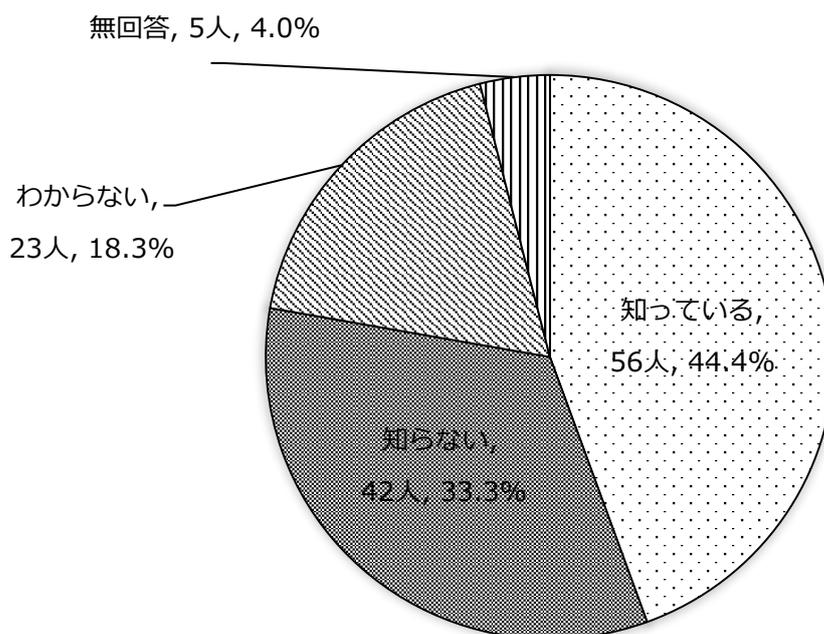
(n=42)



問4. 自治会（または区、町内会）を知っていますか。

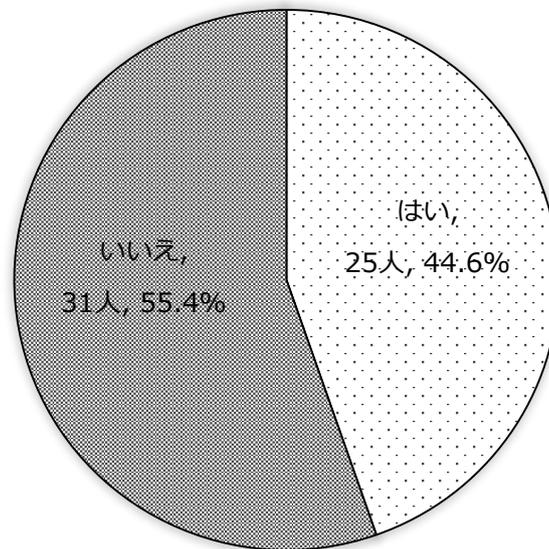
自治会の認知度は、「知っている」が44.4%、次いで「知らない」「わからない」をあわせて51.6%となり、地域社会の制度や仕組みへの理解がまだ十分には浸透していないためと推察されます。

(n=126)



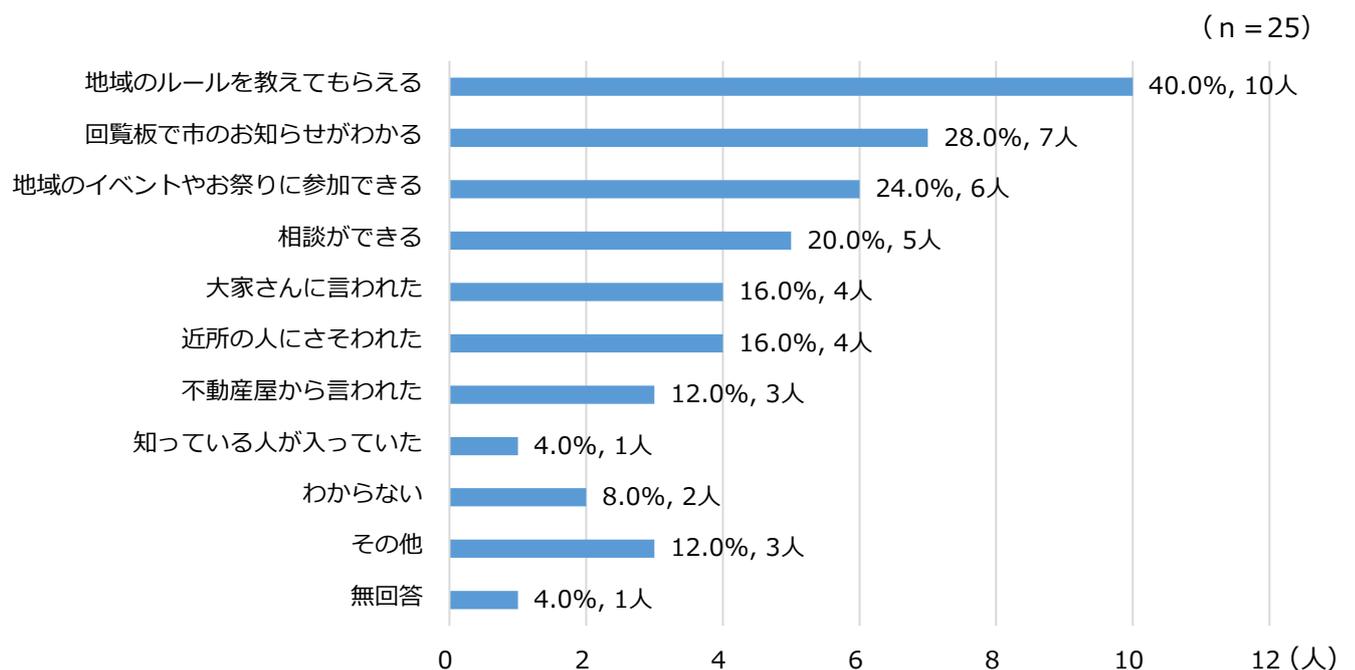
問4-1. 自治会に入っていますか。(問4で「知っている」を選択した方)

問4で自治会を知っていると答えた人の中で、自治会に加入しているのは44.6%、未加入は55.4%でした。



問4-2. 自治会になぜ入ったのですか。(問4-1で「はい」を選択した方・複数選択可)

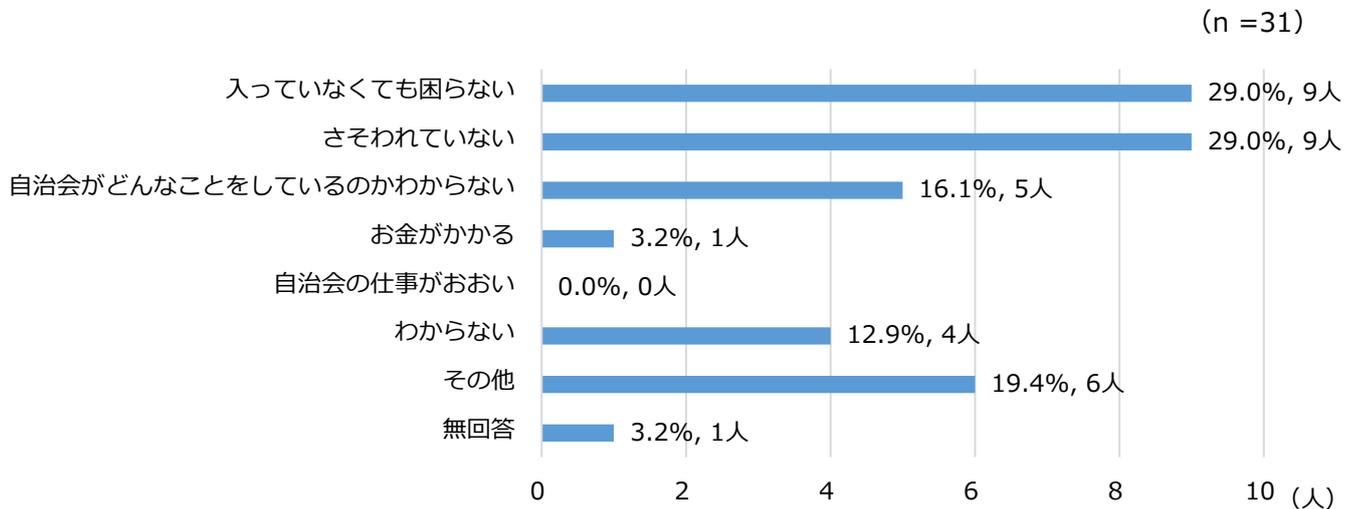
自治会に入った理由について、「地域のルールを教えてもらえる」と答えたのは40.0%と最も多く、次いで「回覧板で市のお知らせがわかる」が28.0%、「地域のイベントやお祭りに参加できる」が24.0%と続きます。このことから、外国人住民は地域の情報を得ることが自治会加入のメリットと感じていることが伺えます。



問4-3. 自治会に入っていないのはなぜですか。

(問4-1で「いいえ」を選択した方・複数選択可)

自治会に入らなかった理由について、「入ってなくても困らない」と「さそわれていない」が共に29.0%と最も多い回答となりました。



【その他の主な記述】

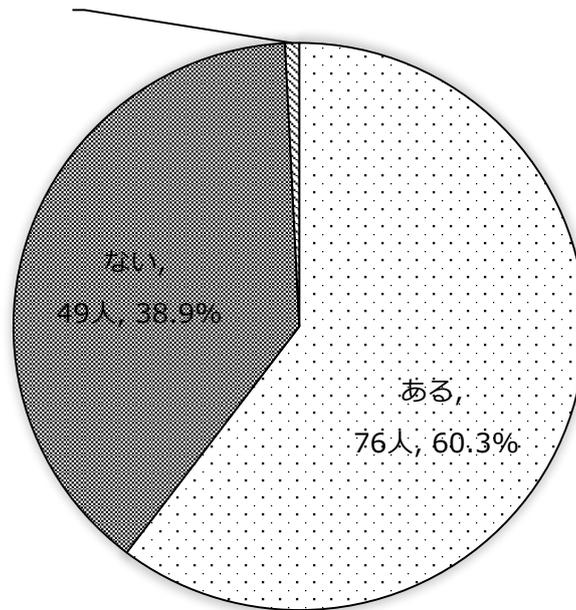
- 仕事の関係で自治会の仕事はできない。
- 賃貸住宅居住で、加入する必要がないため。
- 自治会の体質や運営が古いので、入っていても意味がない。
- 付き合いが苦手だから。
- 自治会がないから。

3. 言葉について

問5. あなたは日本語で困ることはありますか。

日本語で「困ることがある」と答えたのは、60.3%にのぼり、「困らない」は38.9%でした。

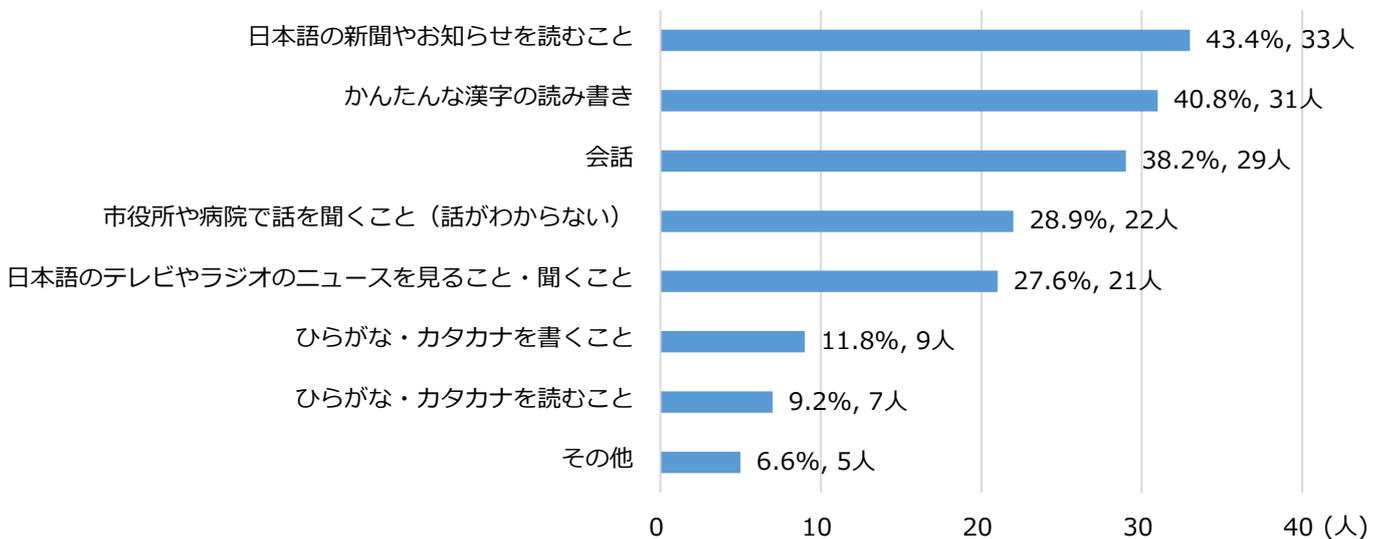
無回答,1人, 0.8% (n=126)



問5-1. それはどんなことですか。(問5で「ある」を選択した方・複数選択可)

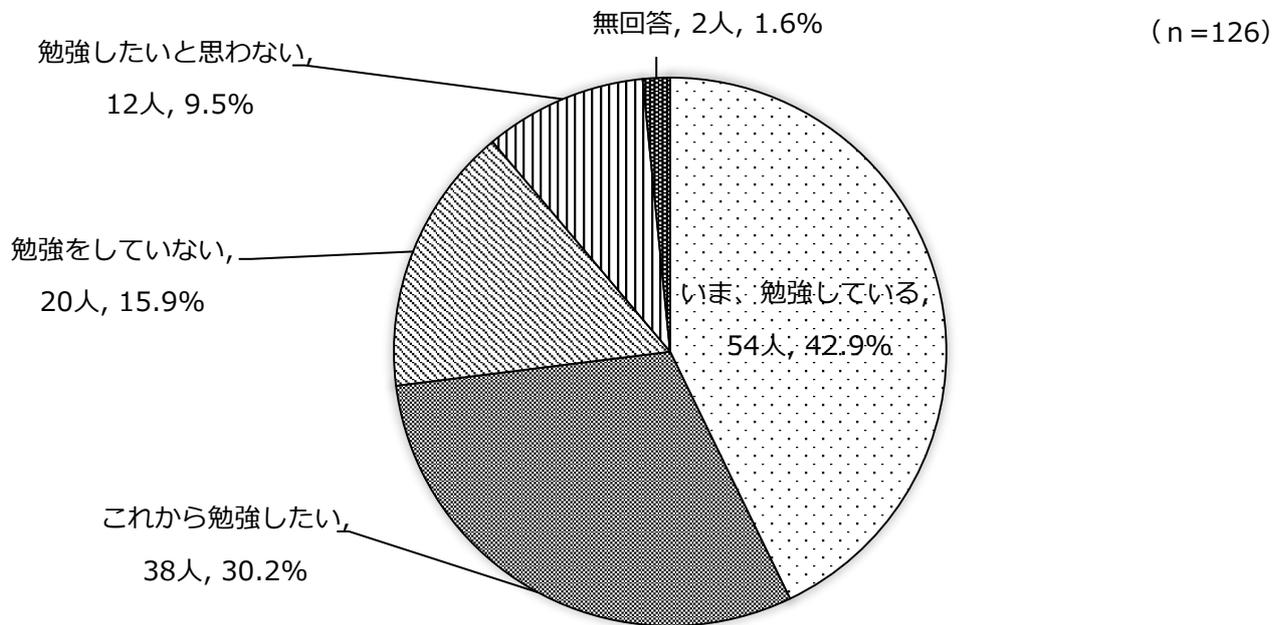
前問で日本語で困ることがあるとした人の理由は、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」43.4%と最も多く、次いで「かんたんな漢字の読み書き」が40.8%、「会話」が38.2%となっています。

(n=76)



問6. これから日本語を勉強したいと思いますか。

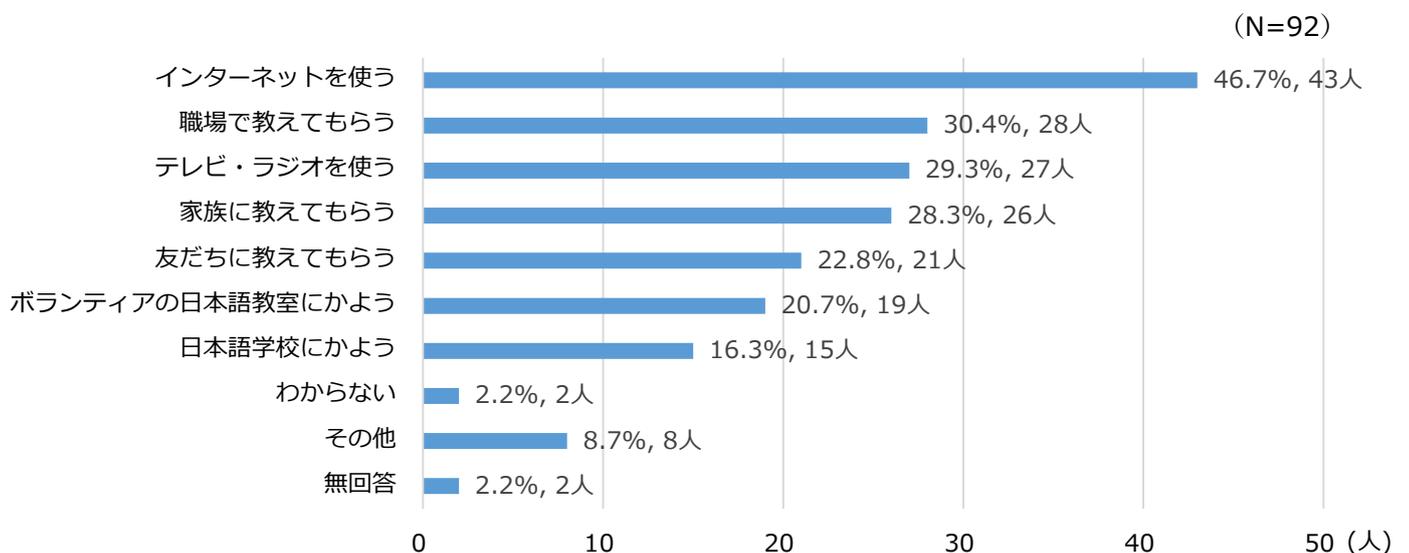
日本語の学習意欲については、「いま、勉強している」が42.9%と最も多く、次いで「これから勉強したい」が30.2%、「勉強をしていない」が15.9%と続いています。大半の方が日本語を学ぶことに意欲的です。



問6-1. どのように勉強していますか。また、どのように勉強したいですか。

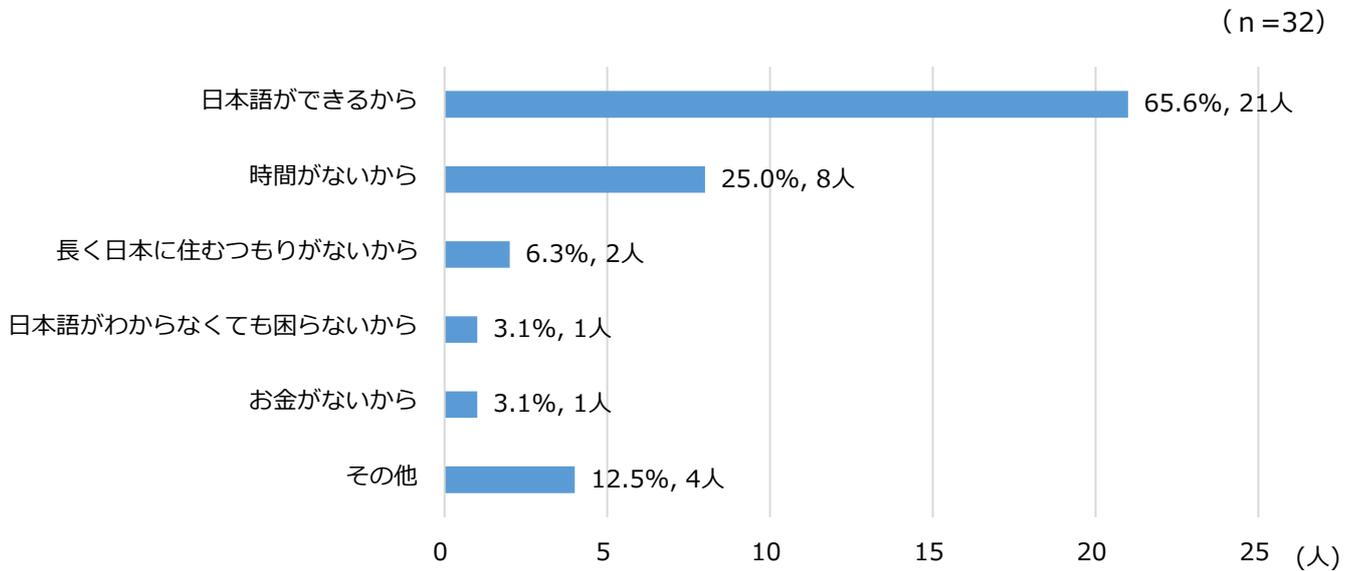
(問6で「いま、勉強している」または「これから勉強したい」を選択した方・複数選択可)

希望を含めた日本語の勉強方法については、「インターネットを使う」が46.7%と最も多く、次いで「職場で教えてもらう」30.4%、「テレビ・ラジオを使う」29.3%となっています。



問6-2. 日本語を勉強したいとは思わない、または勉強をしていない理由は何ですか。**(問6で「勉強したいとは思わない」または「勉強をしていない」を選択した方・複数選択可)**

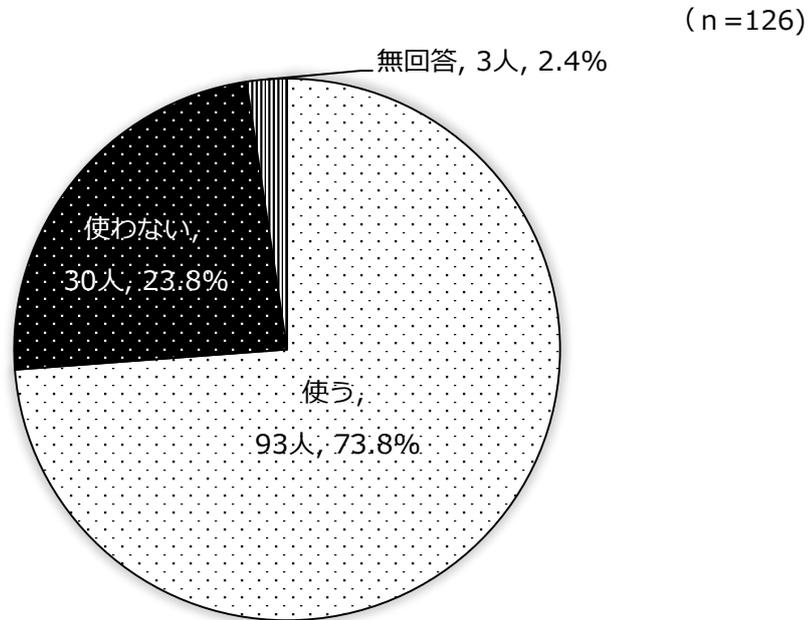
6つの選択肢のうち最も多かったのは「日本語ができるから」65.6%です。次いで多いのは「時間がないから」25.0%となっています。



4. 乗り物について

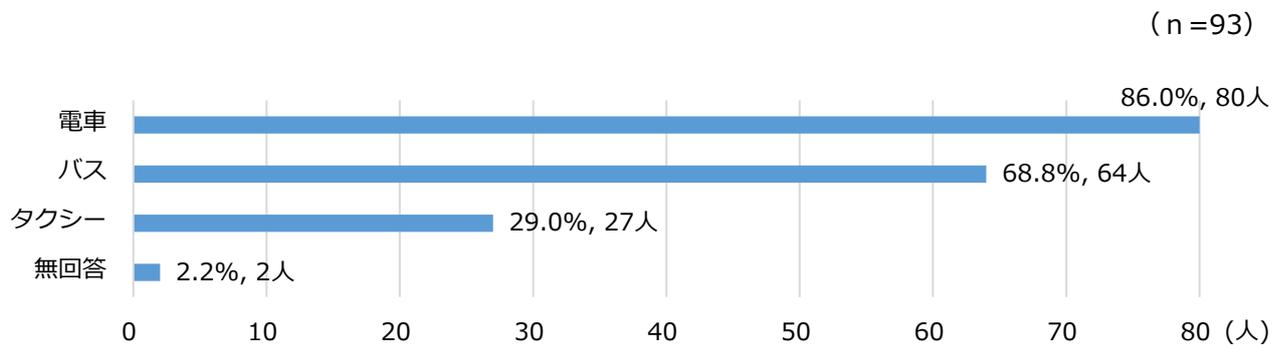
問7. あなたは電車やバス、タクシーを使いますか。

公共交通機関の利用について「使う」が73.8%と最も多く、「使わない」は23.8%でした。



問7-1. どの乗り物を使いますか。(問7で「使う」を選択した方・複数選択可)

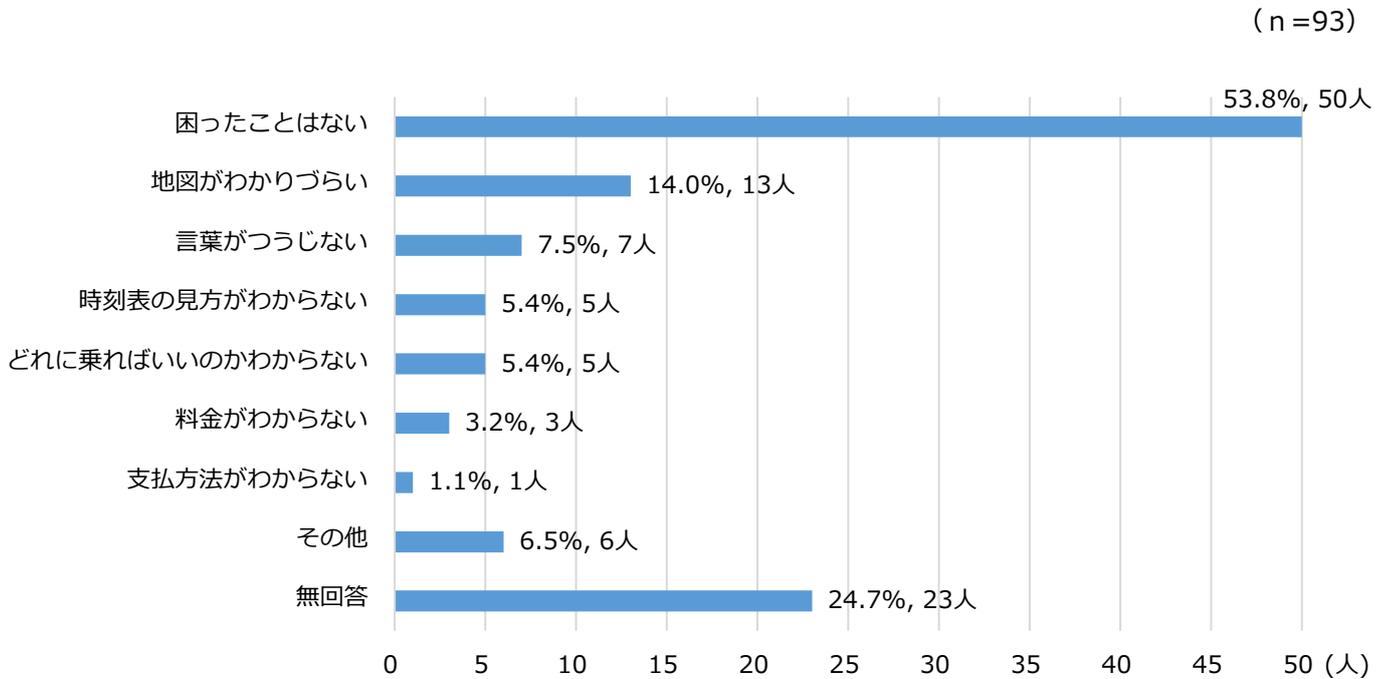
使う公共交通機関で最も多いのは「電車」86.0%で、次いで「バス」68.8%、「タクシー」が29.0%と続いています。



問7-2. 電車やバス、タクシーに乗る時、困ったことはありますか。

(問7で「使う」を選択した方・複数選択可)

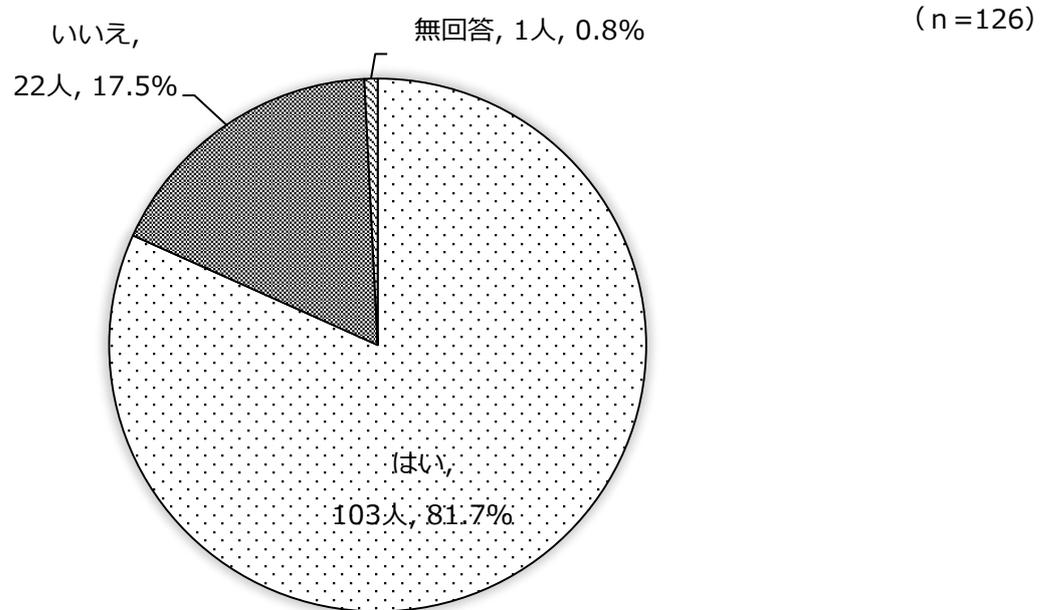
公共交通機関を利用する時に困ったことについて、「困ったことはない」は53.8%と最も多く、次いで「地図がわかりづらい」14.0%、「言葉がつうじない」7.5%と続いています。



5. あなたの仕事について

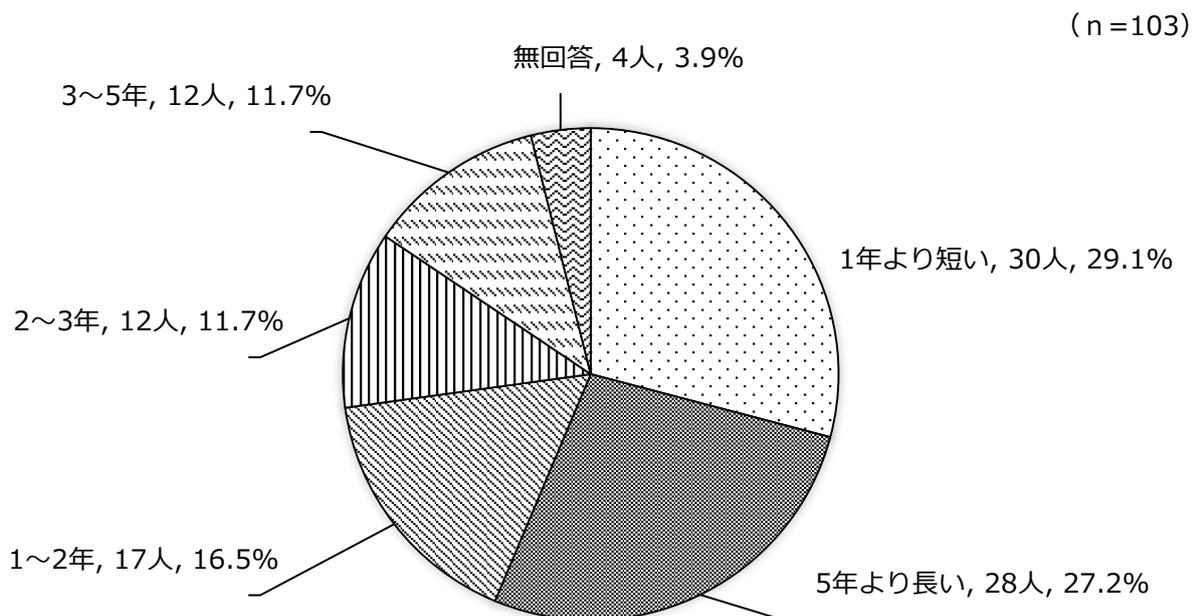
問8. 現在、あなたは働いていますか。

就労状況については「はい（働いている）」が81.7%、「いいえ（働いていない）」が17.5%でした。成田市に住む外国人住民の8割は働いているということになります。



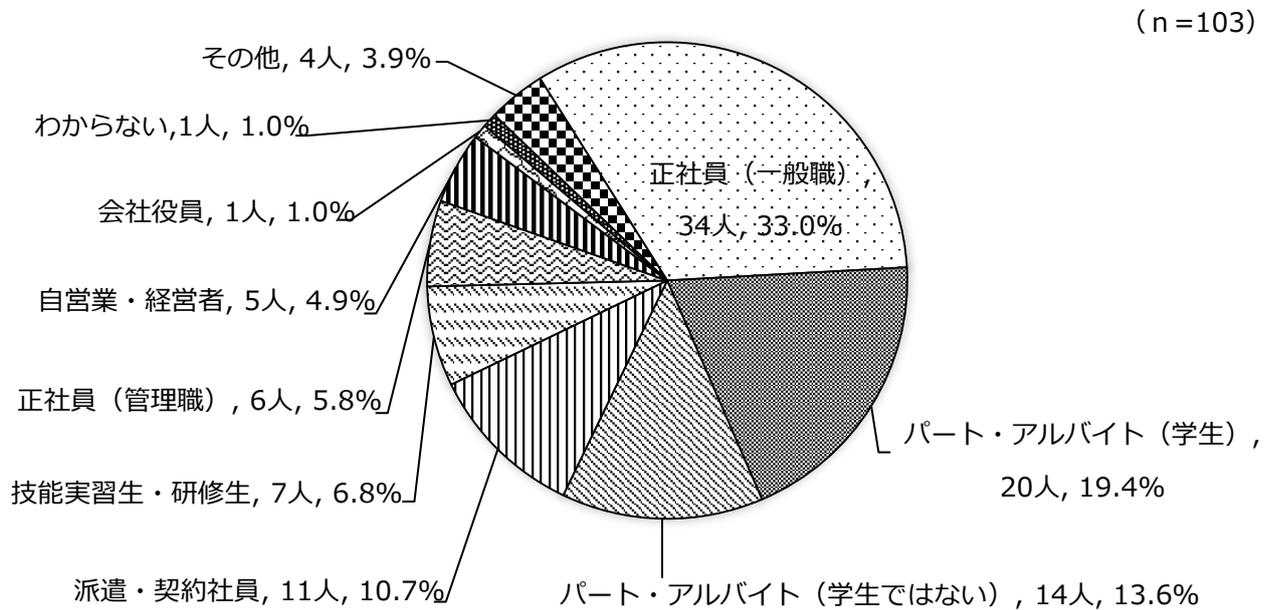
問8-1. 今の職場で、どれくらい働いていますか。(問8で「はい」を選択した方)

前問で「働いている」とした人の現在の職場での勤続年数で最も多いのが「1年より短い」29.1%、次いで「5年より長い」27.2%、「1～2年」16.5%と続きます。



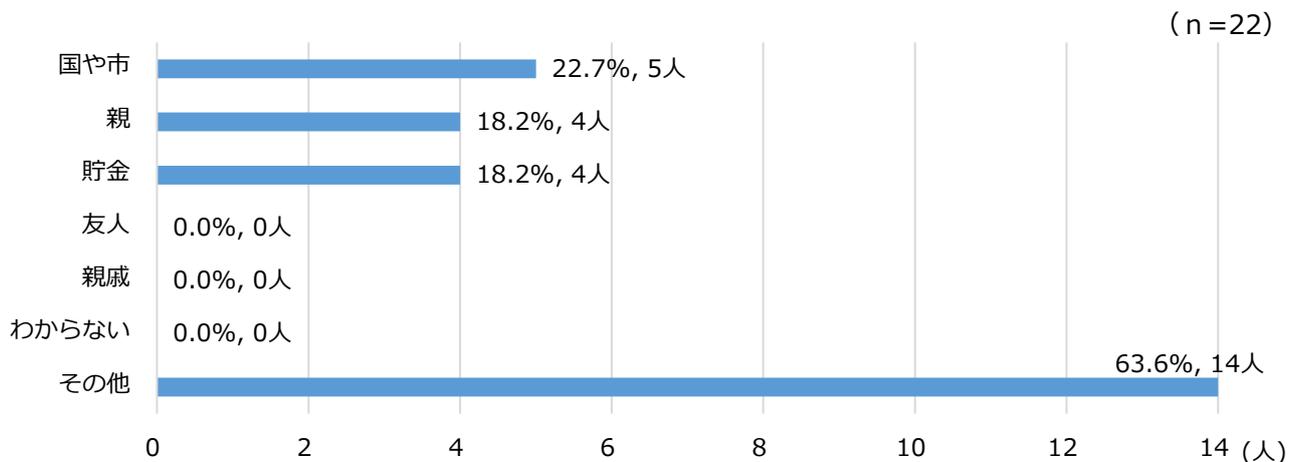
問 8-2. あなたの仕事の立場は何ですか。(問 8 で「はい」を選択した方)

問 8 で「働いている」とした人の職場での地位について、「正社員」は管理職と一般職を含めると 38.8%と最も多く、「パート・アルバイト」は学生とそれ以外を含めると 33.0%と次いで多くなっています。



問 8-3. 生活費はどこから得ていますか。(問 8 で「いいえ」を選択した方・複数選択可)

問 8 で「働いていない」と回答した人の収入源について、「国や市」からが 22.7%、「親」や「貯金」がそれぞれ 18.2%となっています。「その他」では「大学からの奨学金」や「年金」、「配偶者から」という意見が目立ちました。

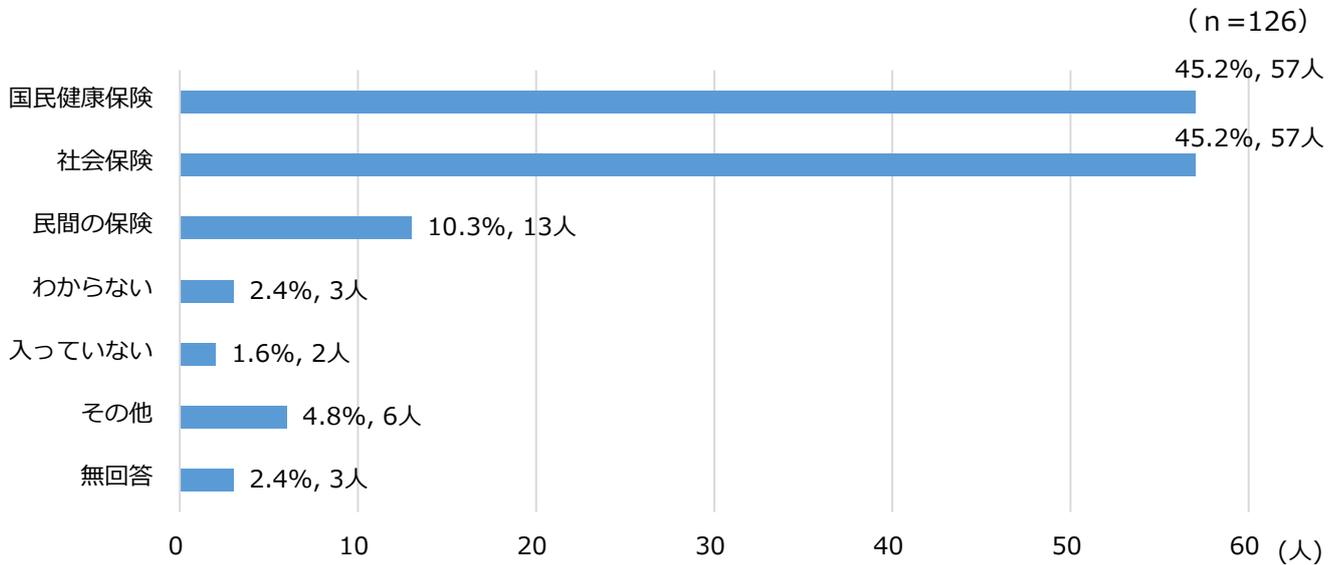


その他の主な記述

- 大学の奨学金
- 夫と生活している。
- 年金
- 家族
- 今年 3 月まで仕事有、今は無。会社からの 6 割手当て給付金
- コロナのため、会社が閉鎖

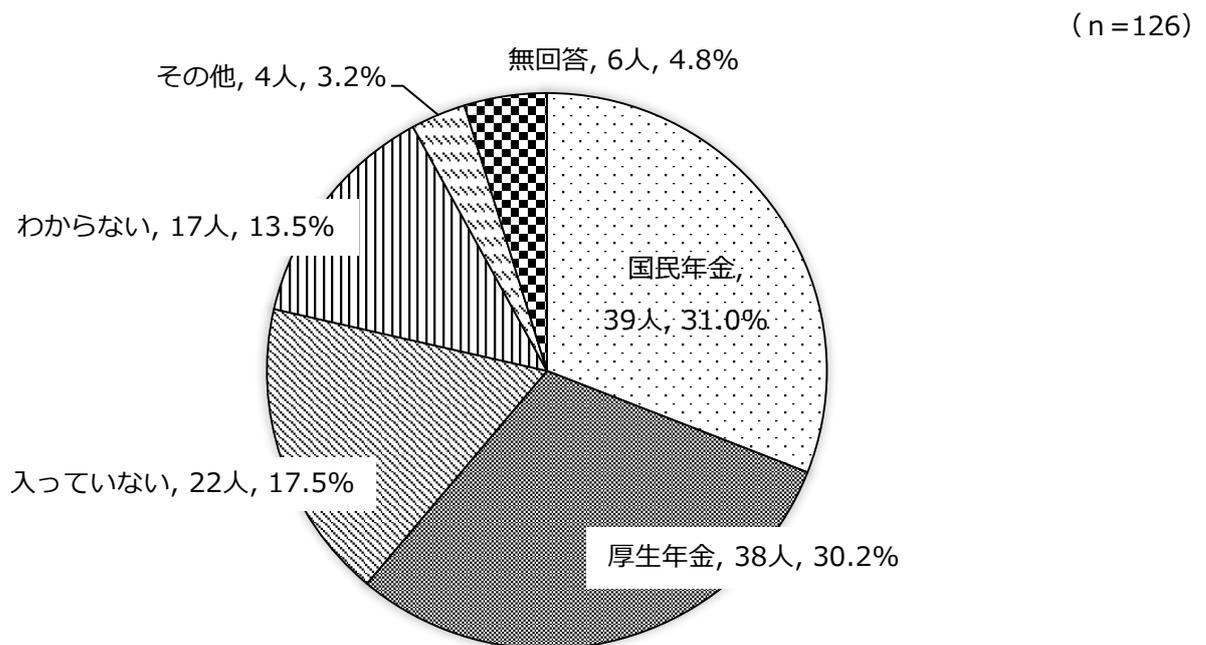
問 9. 医療保険に入っていますか。(複数選択可)

加入している医療保険について、「国民健康保険」と「社会保険」がそれぞれ 45.2%と同じ割合で最も多く、次いで「民間の保険」が 10.3%となっています。成田市に住む外国人の 9 割は医療保険に入っていることがわかります。



問 10. 公的年金に入っていますか。

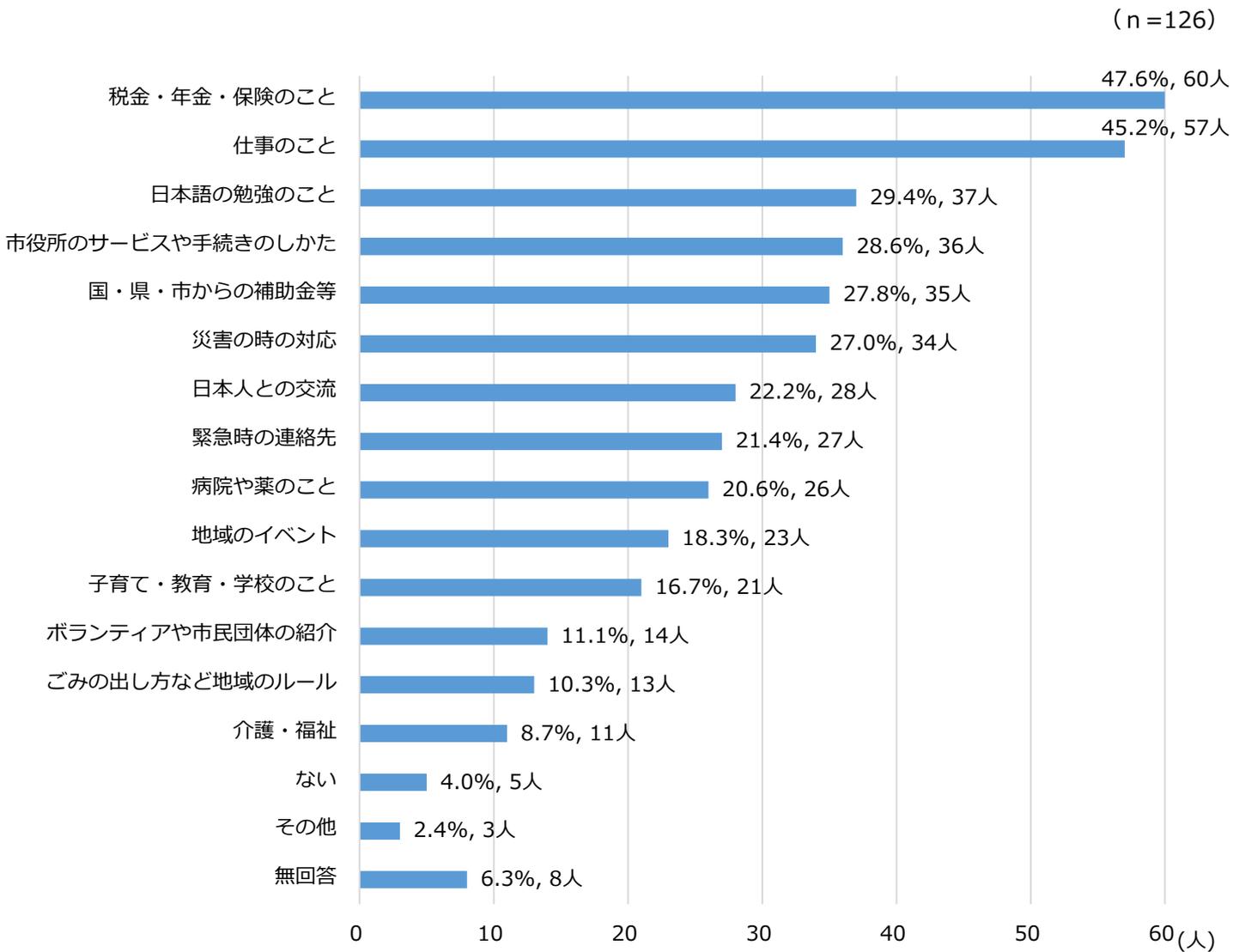
公的年金の加入状況は「国民年金」31.0%が最も多く、「厚生年金」30.2%となっています。また、「入っていない」「わからない」を含めると、非加入の割合は 31.0%と比較的高い数値となっています。医療保険と比べて、公的年金の加入割合は低いことがわかります。



6. 情報について

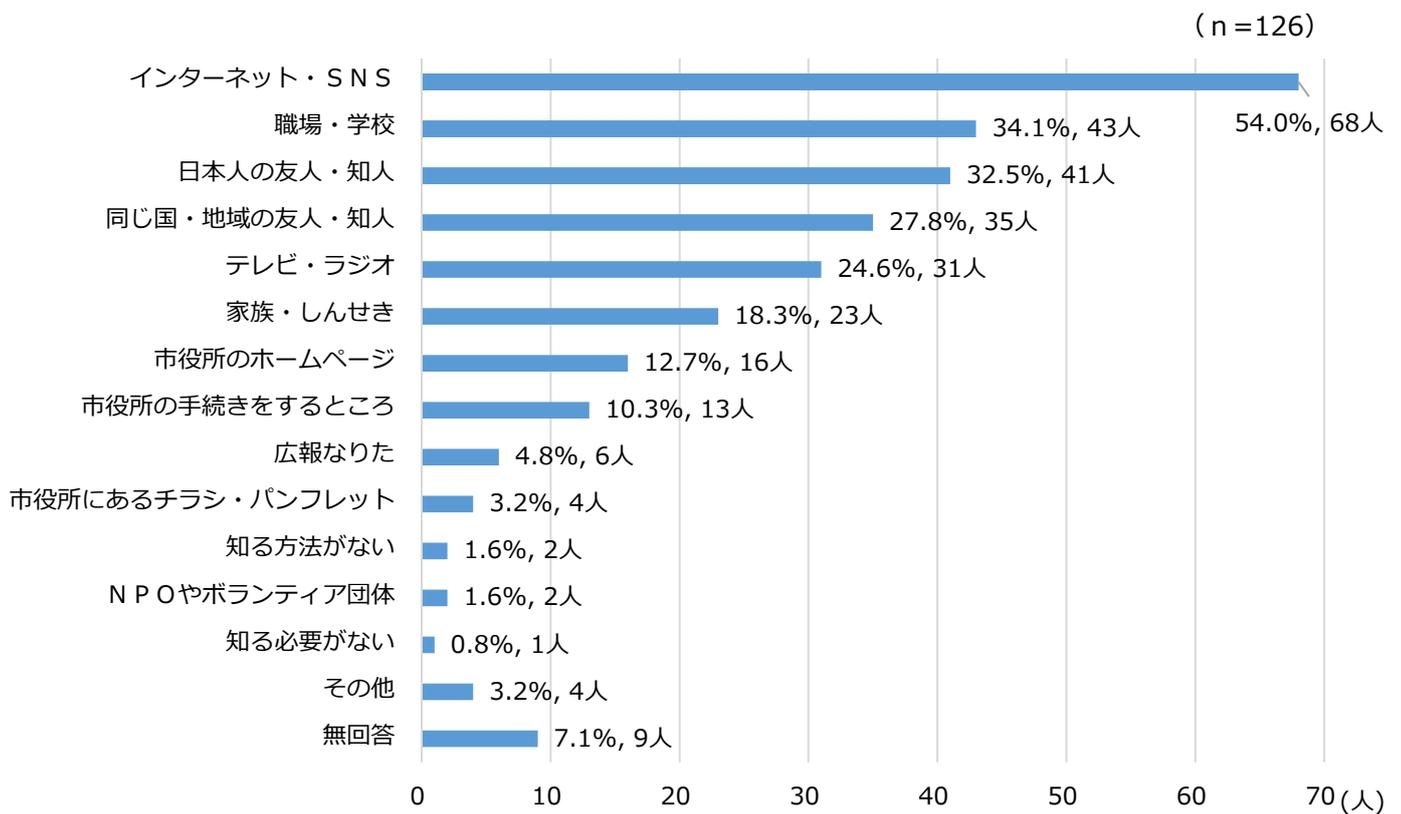
問 1 1. 日常生活で、どんな情報が必要ですか。(複数選択可)

どのような情報が日常生活で必要とされているのかについて、最も多いのが「税金・年金・保険のこと」47.6%、次いで「仕事のこと」45.2%、「日本語の勉強のこと」29.4%と続きます。



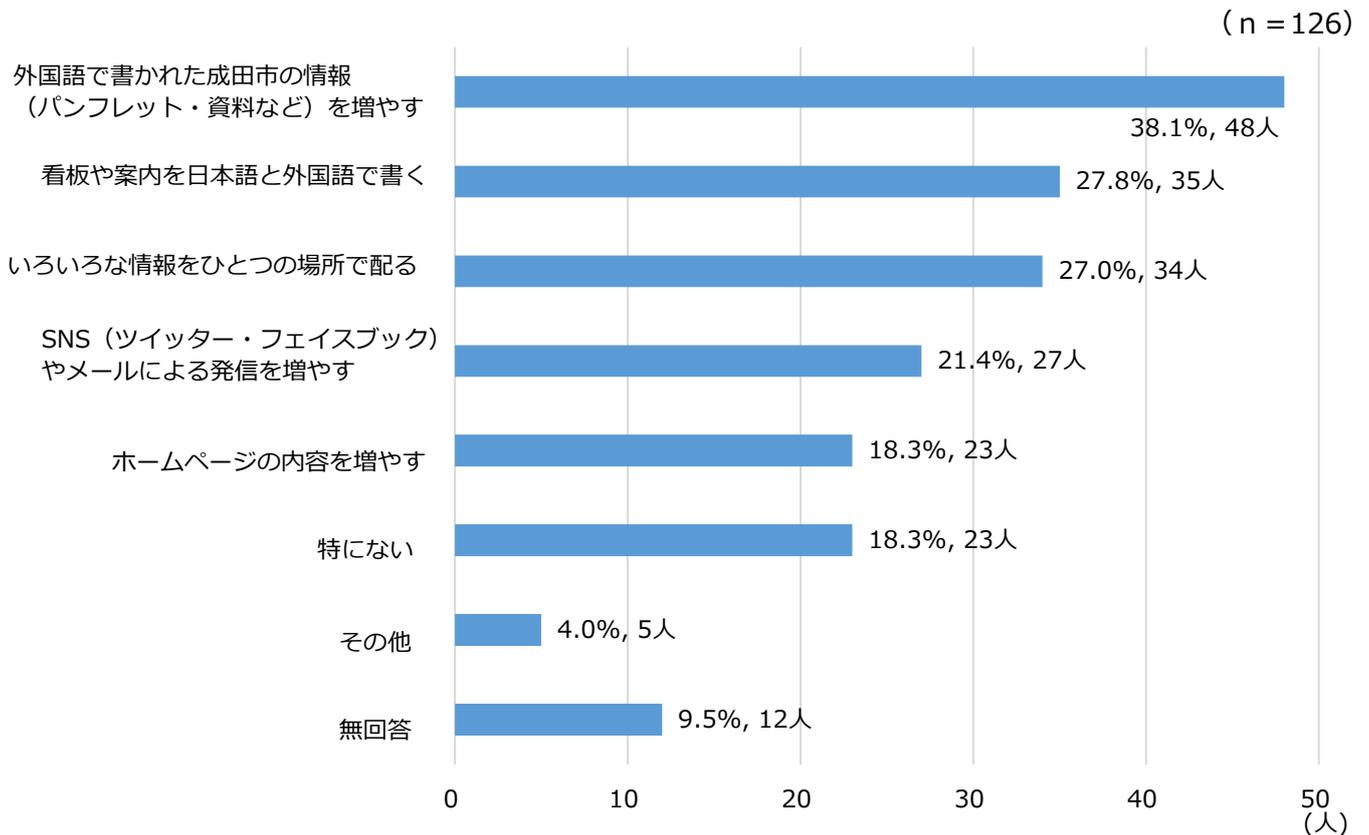
問12. どうやって、生活に必要な情報を手に入れていますか。(複数選択可)

情報の入手方法について、「インターネット・SNS」が54.0%と最も多く、「職場・学校」と「日本人の友人・知人」と「同じ国・地域の友人・知人」を合わせると94.4%となっています。インターネットやSNSを活用している人がとても多い中、友人関係、職場・学校が情報入手に果たしている役割が大きいと考えられます。



問 1 3 . 生活情報を手にいれるために、成田市にどんなことをしてほしいですか。**(複数選択可)**

情報の入手のために市に求めるものとして「外国語で書かれた成田市の情報を増やす」が 38.1%と最も多く、次いで「看板や案内を日本語と外国語で書く」27.8%、「いろいろな情報をひとつの場所で配る」27.0%と続いており、外国語による情報提供の必要性が伺えます。



問 1 4 . 成田市への意見、要望

言 葉

- ・ 日本語の教室を開催してほしい。可能であればオンラインで、日本語レベルによってクラスを分けてほしい。
- ・ きれいな市でいい経験もしていますが、スペイン語が通じない。
- ・ インフォメーションは少なくとも英語にしてほしい。
- ・ 小学校から英語勉強したほうがいいです。
- ・ 外国人に分かりやすい日本語で説明してください。
- ・ 街の歴史は日本語、英語、その他の言語でもっとうまく教えられると思います。

情 報

- ・ 体育館や、祭りなどの情報がもっと見つけやすいところにあればと思います。(私の場合、成田駅の掲示板をいつもに見ています。)
- ・ 私が市役所に望むことは、外国人のためのオフィスの設立です。そこで生活に必要な情報の発信、市民として守らなければならないルール、法律など成田市民として知らなければならないことを説明して欲しい。

交流、イベント

- ・ 定期的にオンラインで日本人とお話する。お友達を作りたい。
- ・ 日本人と交流できる場所が欲しい。
- ・ 母国の人々との交流イベントがあってほしい。
- ・ 上記二点が同時にかなうようにイベントを実施してほしい。

インフラ、設備

- ・ 街の街灯を増やしてほしい。
- ・ 私は障がい者で歩くのに、少々問題があります。名古屋に住んでいるときは、色々と助けてもらっていました。歩いてバス停まで行くのに大変苦労します。成田に障がい者用のバス停が出来たらいいなと願っています。
- ・ 道の冠水対策をもっとやってほしいです。去年の台風で、私の車が水没したので、とても残念でした。
- ・ 有名なお寺に近い駅が汚くて古い。伝統的な成田のお寺と対照的に近代化することである。外国人観光客向けの土産物店だけでは不便である。JR 駅はとても古いので、通勤者や通行人は西口のトイレを利用しない。
- ・ 成田市役所周辺及び旧大栄町の大栄インター周辺の渋滞解消に向けて北千葉道路の東側区間の早期開通、国道 51 号の大栄インター～桜田権現前～旧東総有料入口までの片側 2 車線化の早期実施、成田市役所周辺の信号制御を変更し、国道 51 号を走行する車両がスムーズに通行できるようになることを希望します。
- ・ 交通の便が悪い。(バスの本数が少ない。)

- ・ 空港に通じる国道 51 号はいつも修理されていないのはなぜ。要するに成田市は近代化に大変遅れているし、整備されていない。ただ一つ、よいことは JR 駅に通じる沿道に季節に合わせた植物や花を植えていること。車道は修理されるべき。歩道、特に JR 駅の天井が汚い。私たちは税金を払っています。市では長年改善がなされていない。

商業施設

- ・ 都心からやや離れているものの、都内まで直通の電車もあり、駅周辺が整備されている公津の杜は住みよい街だと感じる。病院はそれなりにあるが商業施設がユアエルムのみとやや乏しい印象もあるので、魅力ある人気テナントの誘致を実施してもらえると良い。(大学もあるので若者向けの店があればよい。)
- ・ 歩いて買い物に行くお店が少ない。

住居

- ・ 外国人が住宅を探す時、なかなか外国人 OK の物件がないので、外国人でも OK の物件が多いほど、より外国人には魅力的だと思います。
- ・ アパートの家賃も高いです。
- ・ 気になる点は、住宅が高くて（特にマンション）ずっと住みたいと思っても、住宅のことで悩んでしまいます。
- ・ 成田市に 16 年住んでいますが、いまだに家を買うことができません。ビザの関係で銀行のローンを組むことができません。

納税

- ・ 住民税、健康保険税などの支払いに関して、このコロナ禍の状況下で仕事も少なくなり、給料も減っています。そして私たち外国人の多くが自国に住んでいる家族に仕送りをしています。病気の家族もいるし、コロナで亡くなってる者もいます。
- ・ 税金の仕組みが難しい。
- ・ 住民税が高いと思います。

市職員対応

- ・ 市役所には相手の状況、立場に配慮した対応をしっかりとってほしい。
- ・ 市役所の方々はとても親切ですが、たまにタメ語で対応する方がいて嫌な気分になったことがあります。ストーカーがいて困ったとき、交番に伝えても特に何もしてもらえなかったです。住民税が高いところ？ぐらいですかねー。
- ・ 役所の方々にかぎらず、コミュニケーションがうまくとれない外国人に対する対応がすごく悪く感じる場合があります。皆ではありません。思っている以上に外国人の方々は傷ついています。もう少し笑顔を増やすことや、口調を優しくするなどしていただくと嬉しいです。
- ・ 市役所の印象について少々外国人には冷たい感じでした。

手続き

- ・ 再入国の手続きやパスポートの更新の手続きなど市役所で出来たらいいと思います。マイナンバーも持っていますので、可能なら市役所の窓口でお願いしたいです。

その他

- ・ コロナがあるから、結婚するつもりがキャンセルになりました。本当は結婚するため、帰国することができず、また日本に戻ることができません。だから、今まで日本の政府からの許可が出るまで、ずっと待っています。コロナいつまでなのか分からないから、いつまで許可を待っているのかもわかりません。帰国したいけど、仕事があるから帰国できません。
- ・ 足元では成田空港関連施設の固定資産税収入が潤沢であると思われ、当面は財政に困ることはなさそうだが、政府の方針による羽田空港の国際線枠拡張、さらにはコロナウイルスによる航空需要の大幅減などにより旅客空港としての成田空港の存在意義が問われかねない状況になるのではと危惧している。対外的に成田空港の必要性を引き続きアピールいただき、安定的な税収を確保しつつ、新たな財政確保なども模索しながら高いレベルの市民サービスを継続願いたい。
- ・ 私は成田市に住むのが好きです。成田の行政サービスに大変感謝しております。他国の人々が、よい収入と良い仕事を得られるよう助けてください。
- ・ 市役所にしてほしいこと、ボランティア活動を増やしてください。
- ・ 都内の外国人患者と違い、低収入の方が多いし、日本語ができていない方が大勢います。それに対して、彼たちの医療サービスは限られているようです。「日本語ができないから、病院に行かない。」「お金がないから。」などさまざまな経緯があるようです。「どうやったら日本語が出来なくても日本人と同じく医療サービスを受けられるか？」とぜひ取り組んでいただきたいと思います。
- ・ 成田市周辺には興味深い遺跡がいくつもあります。標識状態があまり良くないか、そもそも標識自体がないです。街の歴史は日本語、英語、その他の言語でもっとうまく教えられると思います。

良い点

- ・ すべてがいいです。成田市が大好きです。
- ・ 安全で落ち着いていて、住むには便利な場所です。
- ・ 人々は素晴らしく、友好的です。
- ・ 将来的にはもっと多くの観光スポットがあることを望みます。
- ・ 単身の為、市民サービスを享受できる機会は少ないが、それでも財政の豊かさからなる充実した市民サービスの提供は成田市に住んでよかった点だと感じる。(市役所の日曜営業、一部サービスのキャッシュレス支払対応、粗大ごみ無料引き取り等)
- ・ まあいいと思います。成田市が好きだと思います。
- ・ 成田市に住む理由は、旅行が好きなので、空港に近い成田市を選んだ。
- ・ 年齢も 60 才ということで静かなところを希望します。
- ・ 成田は田園に囲まれた田舎で、空気もとても良い。
- ・ 成田を終の棲家としたい。

- ・ すごく良い所ですが、地震が多くて怖いです。
- ・ 私はここが好きです。公津には忘れられない経験がたくさんあります。みんな親切で心地よいです。
- ・ 私は成田市に住んで大変幸せです。素敵な市、人々、毎年親戚に会いにスイスに帰りますが、いつも成田に帰りたいです。私にとって成田は故郷のようです。
- ・ とてもいい街です。成田市の市役所、みんなとてもいい人。ほんとお世話になってます。
- ・ 成田市はいい所です。
- ・ 成田は美しく、人々は大変親切でよく助けてくれます。成田地区は他の地区より清潔で美しい。助力と協力ありがとうございます。
- ・ 一般的に住むには良い。
- ・ いつもよくしていただいております。感謝しております。日本人はとてもやさしいです。
- ・ 成田市大好き。
- ・ 成田市は大きな町です。交通機関が便利です。人が優しいです。何かあった時すぐ助けてくれます。
- ・ 私は成田市に住むことが大好きです。それは成田が静かで平和な環境にあるためです。人はだいたい親切で心が広いです。私はALTとして様々な小学校で子どもたちに英語を教え、多くの先生たちと一緒に働くことを楽しんできました。成田は住むのに素晴らしいまちだと思います。
- ・ 成田は本当に素敵な市です。
- ・ 成田—最初にその名前を聞いたときは田舎に思えました。成田市での生活はとても安全で簡易で静かであると思います。空港に近いのでいつも旅行に出かけている私にとっては便利です。
- ・ 成田市は住むにあたって色々と提供してくれます。たとえば、静かで安全な暮らし、よいルール。このようなシステムに合わせて生活できることは本当に幸せに感じます。
- ・ 2階にある税務課の対応はとても丁寧で外国人、日本人問わず、迅速でいいです。
- ・ 私が感じる成田は、とても整備されていて、静かで安全、そして何よりも学校の質がいい。私の子どもたちもとても良い教育を受けています。ありがとうございました。私の要望が届きますように。
- ・ 私は大抵の看板や掲示板が外国語、特に英語に翻訳されていること、また市役所のスタッフや福祉の人々がすべて親切であることが、どれだけ幸せかわかりません。外国人であるにも関わらず、私たちがここ成田で受け入れられていることを感じる事ができて感謝します。成田は外国人にとって最高の場所で偏見も少ない方です。
- ・ 成田での生活は平和で安全でリラックスしています。
- ・ 私は1年前から現在まで成田に住んでいます。ここに滞在するものはとても心地いいものです。言語以外はなにも問題ありません。
- ・ 成田は住みやすいです。電車もJR、京成、湯川と行く場所に合わせて電車に乗れること。家から駅までは遠いですが、のどかで良い所に住んでいます。私は家族と一緒にここに住めて幸せです。私と家族はここ、成田に長く住みたい。
- ・ 成田市は外国人が住むには最高の街です。

- ・ 子どもの教育に適切な学校が見つかりました。
- ・ 自由で平和な市です。
- ・ 日本が好きです。成田が大好きです。
- ・ 成田市は最高です。
- ・ 成田市に住んでいてよかったと思います。公園などが多くて自然に恵まれて子育てにはよさそうです。スーパーなども充実していて買い物も便利です。
- ・ 楽しいです。
- ・ 成田市のフレンドリーな環境に感謝しています。
- ・ 良い所だと思います。
- ・ 成田市役所はいいところです。自分たちのことを早めにやってくれます。
- ・ 自然なところで暮らしやすいです。
- ・ 成田市役所のみなさんはとても親切だと思います。うちの家は成田市の北の方のイオンのあたりで、生活上は結構便利です。
- ・ 成田大好きです。これからもよろしくお願いします。
- ・ 成田市はきれいな町です。周辺の方は優しくて親切だし、市役所は外国人の問題に関心を持ってくれました。ありがとうございました。
- ・ 成田市はきれいで安全なところです。人々は規律正しく、とても丁寧で親切です。

区・自治会・町内会長アンケート調査結果

区・自治会・町内会長アンケート調査結果

目次

第1部 調査概要

1. 調査目的	52
2. 調査対象・抽出方法	52
3. 調査方法	52
4. 調査実施期間	52
5. 回収状況	52
6. 分析・表示について	52

第2部 調査結果

Q1 貴区・自治会・町内会の区域内に外国人住民は住んでいますか。	53
Q1-1 貴区・自治会・町内会の会員と外国人住民はどの程度の交流がありますか。	53
Q1-2 貴区・自治会・町内会に外国人住民は加入していますか。	54
Q2 外国人住民の貴区・自治会・町内会への加入について、どのようにお考えですか。	54
Q2-1 それはどうしてですか。	55
Q3 外国人住民に関する内容で、地域住民から何か意見や苦情等がありますか。	55
Q3-1 それはどのような内容ですか。	56
Q3-2 問題解決のために貴区・自治会・町内会では何か対応をされていますか。	56
Q4 地域の外国人の方と理解しあい、共に生きていく街づくりを進めるために、ご意見をお聞かせください。	57
【成田市に対して】	57
【外国人住民に対して】	61

第1部 調査概要

1. 調査目的

成田市多文化共生指針の策定にあたり、区・自治会・町内会における多文化共生に関する基礎的データの収集を目的として実施しました。

2. 調査対象・抽出方法

令和2年7月1日現在、成田市に届出をしている区・自治会・町内会の全ての長

3. 調査方法

調査票の郵送配布・回収（自記式）

4. 調査実施期間

令和2年7月31日（金）～ 令和2年8月26日（水）

5. 回収状況

有効回収数 213 票、有効回収率 74.0%となっています。

総発送数	288 件
回収数	214 件
白票	1 件
有効回収数	213 件
有効回収率（%）	74.0 %

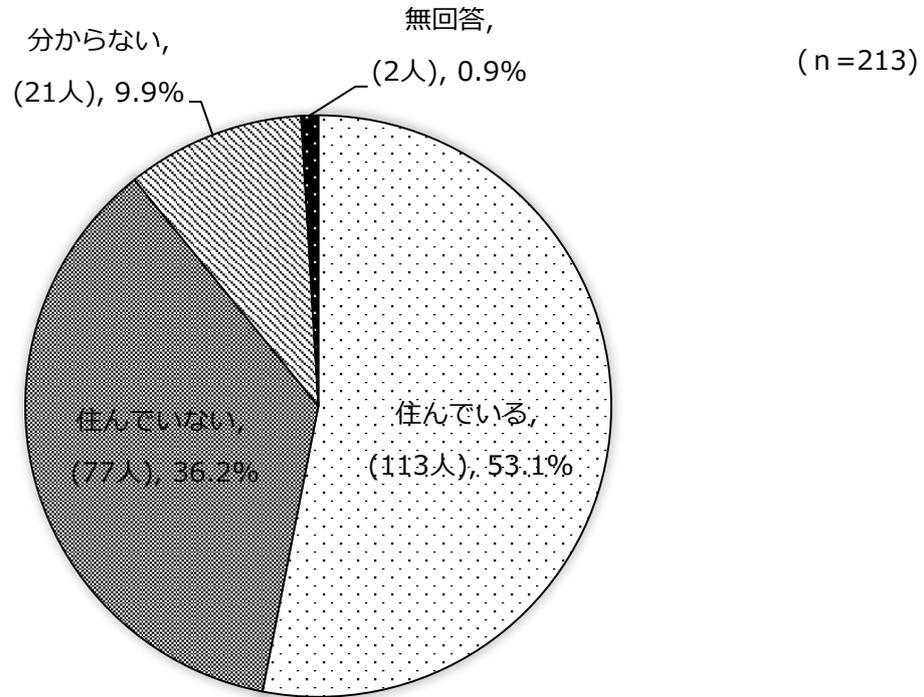
6. 分析・表示について

- ①割合は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならないこともあります。
- ②複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、割合算出を行っています。このため、割合の合計が100%を超えることがあります。
- ③報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ④グラフ中の（n=〇〇）という表記は、その項目の有効回答者数で、割合算出の基礎となります。

第2部 調査結果

Q1 貴区・自治会・町内会の区域内に外国人住民は住んでいますか。

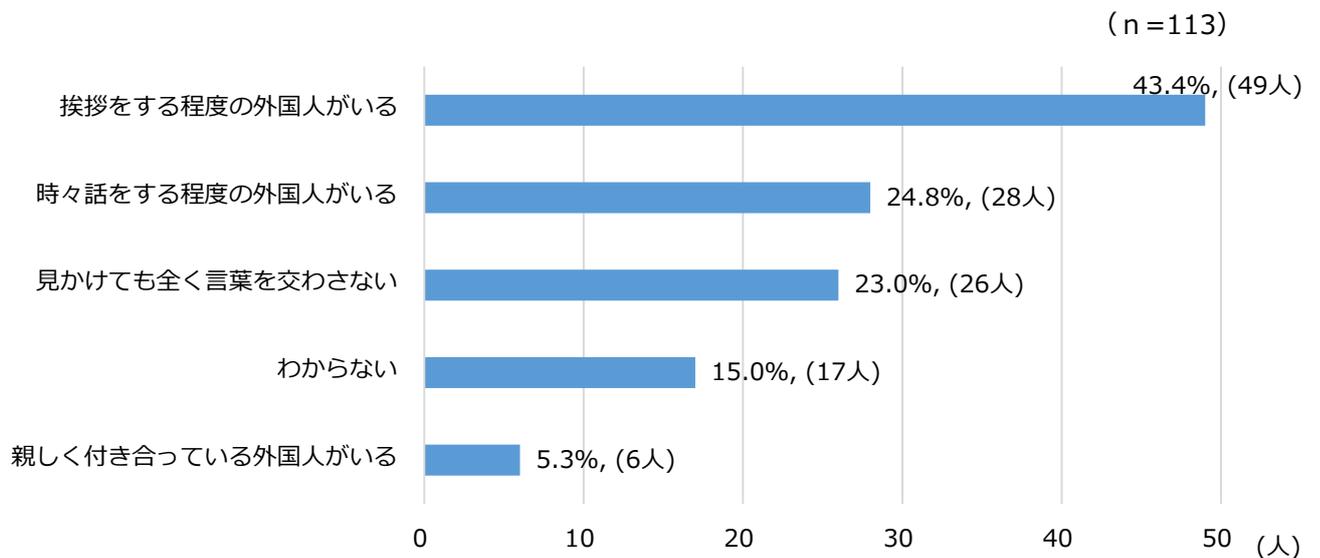
区・自治会・町内会の半数以上に外国人住民が住んでいるようです。



Q1-1 貴区・自治会・町内会の会員と外国人住民はどの程度の交流がありますか。

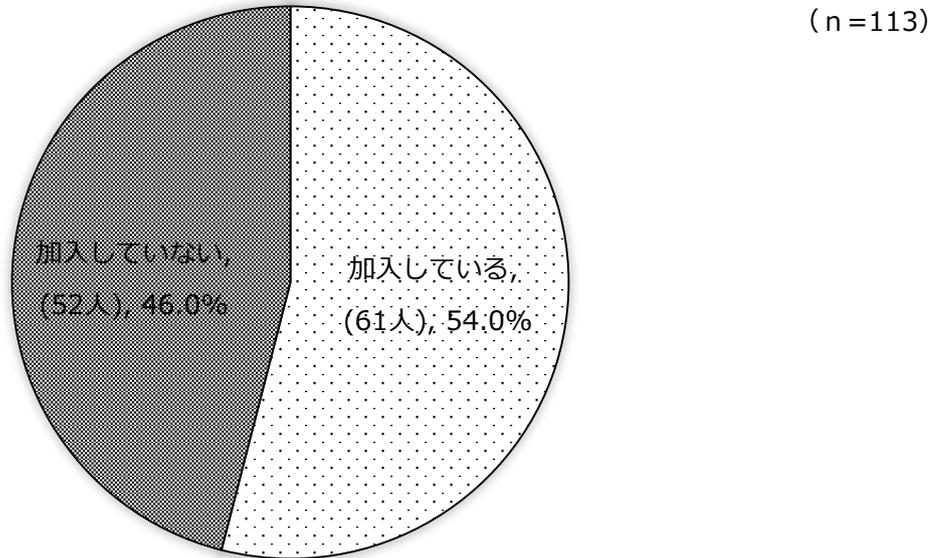
(Q1で「住んでいる」を選択した方・複数選択可)

自治会等内で外国人住民とどのような交流があったかを伺ったところ、「見かけても全く言葉を交わさない」との回答が23.0%ありました。一方で、挨拶程度以上の交流があるとの回答が約73.5%ありました。



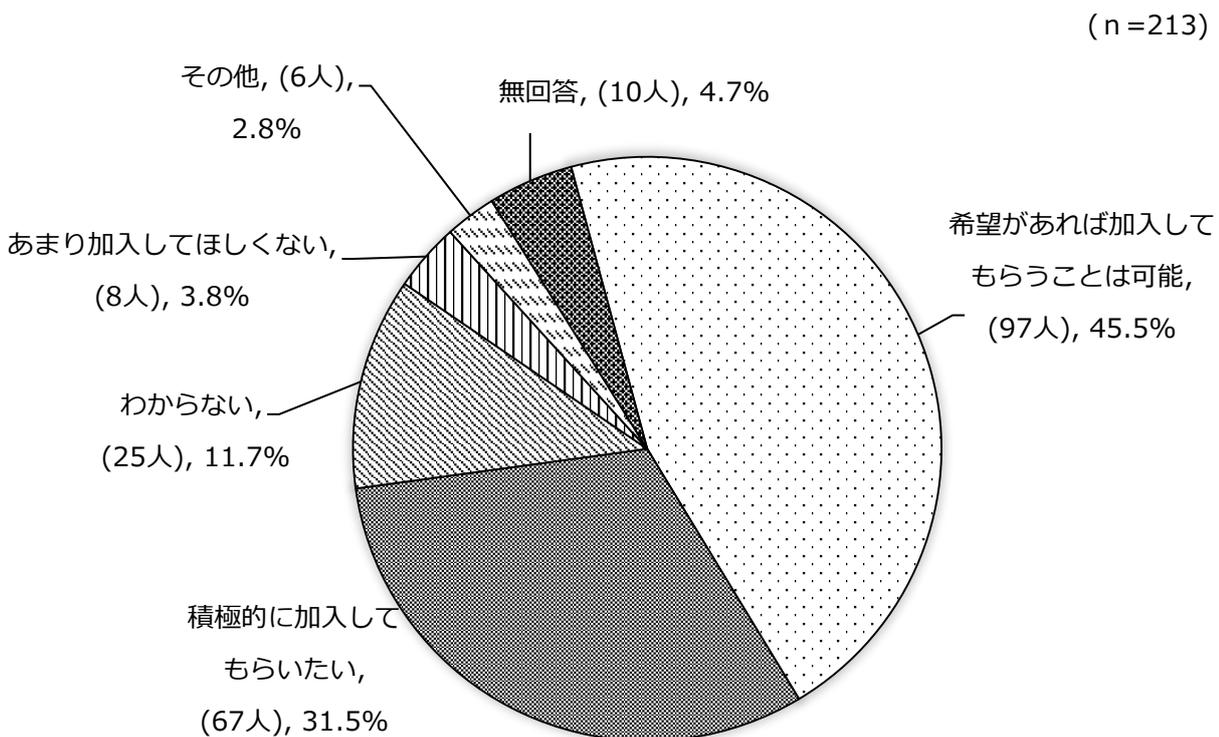
Q1-2 貴区・自治会・町内会に外国人住民は加入していますか。(Q1で「住んでいる」を選択した方)

外国人住民が住んでいると回答した自治会等で、外国人住民が「加入している」と回答したのは 54.0%にのぼります。



Q2 外国人住民の貴区・自治会・町内会への加入について、どのようにお考えですか。

外国人住民の自治会等への加入についてどのように考えているかを伺ったところ、「積極的に加入してもらいたい」が 31.5%、「希望があれば加入してもらうことは可能」が 45.5%となっており、大半は外国人の受け入れに肯定的な考えをもっているようです。

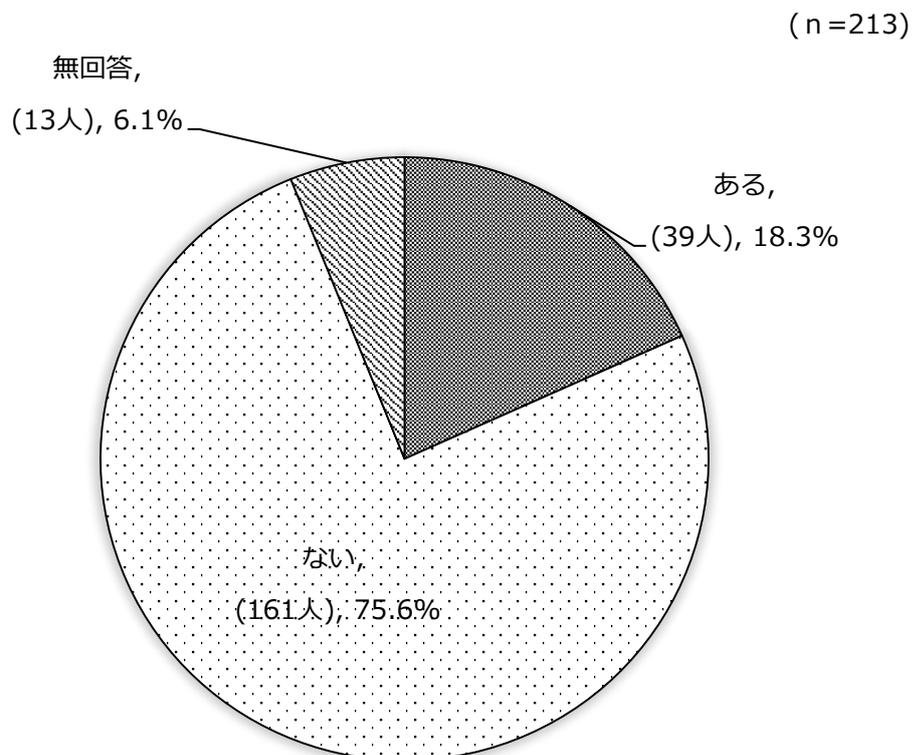


Q 2-1 それはどうしてですか。(Q 2で「あまり加入してほしくない」を選択した方)

- ・ 外国人が来たことで、どう接触していいかわからない。
- ・ 言葉がわからない。
- ・ ほとんどアパートに住んでいるので、町内会との付き合いなしです。
- ・ アパートにグループで住んでいるようで、仕事柄か？昼間の時間には見かけませんが、時々見かけるときには車が用意され、その際に立ち会っても挨拶を交わすことはないです。夜の仕事の時には、仕事着で出歩き、店のカラオケと笑い声は（時には AM3:00 ごろ路上で大騒ぎ）遠慮なしですので、住む世界が違うとこちらは諦めているのが現実です。定かではありませんが外国人の方も数年で入れ替わっているようです。
- ・ コミュニケーションに不安がある。
- ・ 年配者があまり望まない。
- ・ 差別とは違いますが、生活環境が違うので。

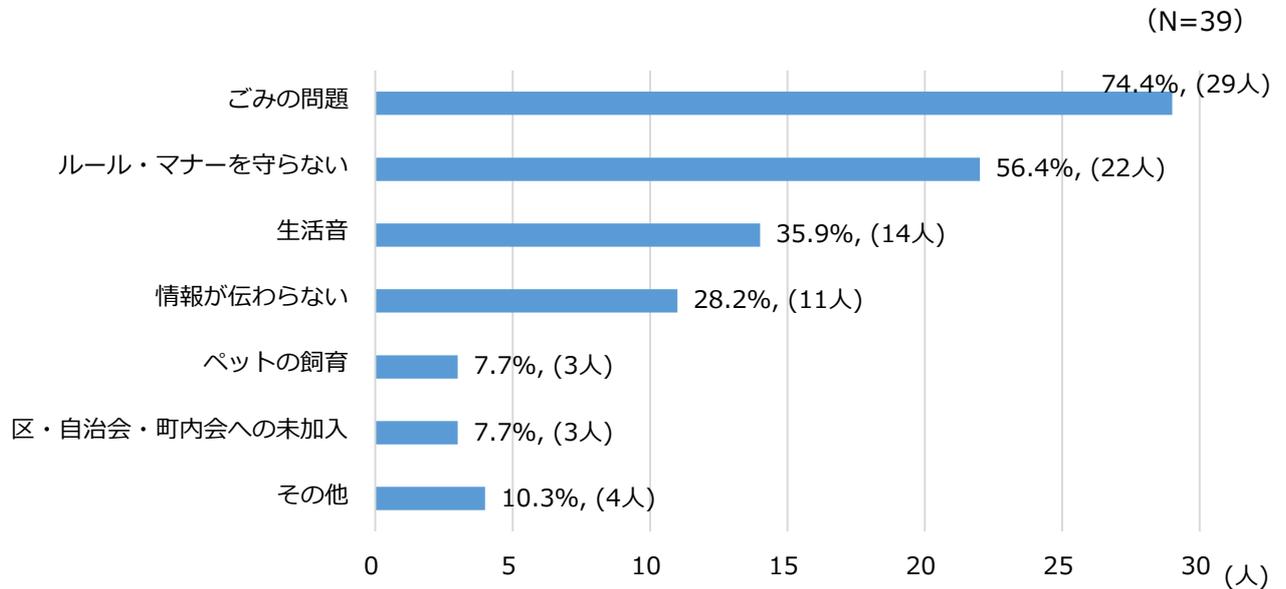
Q 3 外国人住民に関する内容で、地域住民から何か意見や苦情等がありますか。

外国人住民に対する意見や苦情等について、75.6%は「ない」との回答でしたが、一方で意見や苦情等が「ある」との回答が 18.3%ありました。



Q3-1 それはどのような内容ですか。(Q3で「ある」を選択した方・複数選択可)

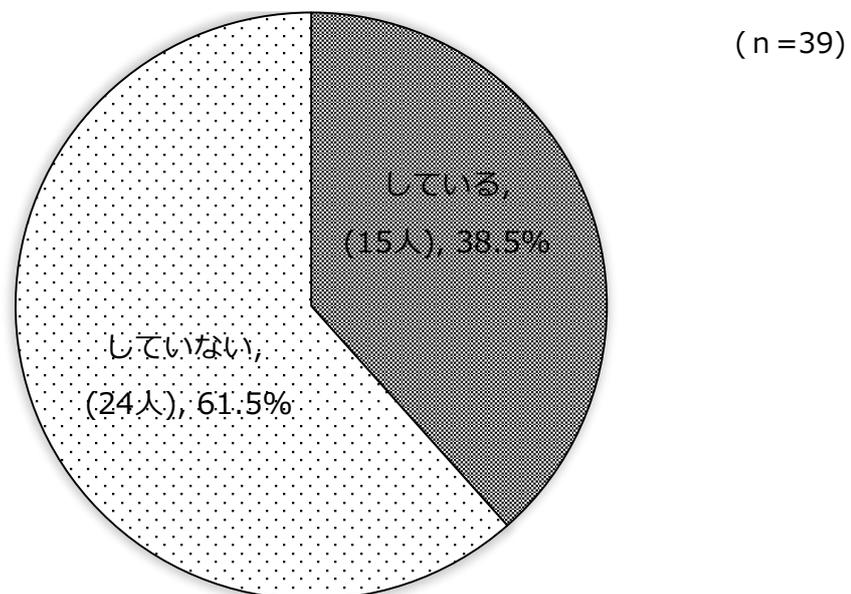
前問で苦情等があると回答した方々に、意見や苦情の内容を伺うと、「ごみの問題」が74.4%と最も多く、次いで「ルール・マナーを守らない」が56.4%、「生活音」が35.9%の順で回答が多く寄せられました。



Q3-2 問題解決のために貴区・自治会・町内会では何か対応をされていますか。

(Q3で「ある」を選択した方)

問3で意見・苦情等があったとした18.3%の自治会等のうち、自ら対応しているとの回答は38.5%で、対応していないのは61.5%でした。



Q4 地域の外国人の方と理解しあい、共に生きていく街づくりを進めるために、ご意見をお聞かせください。

【成田市に対して】

マナー、ルール

- ・ 日本人のマナー（スーパーなどでは大声で話や電話をしない 等）を周知する。
- ・ 市からも、ルールや生活について説明してほしい。（～な生活をしているので〇〇はしないで、△△をしてください 等）
- ・ 言葉が通じない方々には日本（成田市）のマナー（ゴミの出し方、夜間の日常の暮らし方、地域の特色 等）を予め伝えていただければと思います。
- ・ 区、自治会、町内会のルール、マナーを教えること。ごみ、生活音、ペットなどは各区、自治会、町内会で住む前に説明すること。区、町内会、自治会を加入することを条件。
- ・ ルール、マナー等、外国語でホームページだけでなく文書にて個々へ配布してください。（ゴミ収集等）
- ・ アパート住民に対しては、町内会への加入交渉はしておらず、アパートの所有者から会費をいただいております。直接接する機会はありません。よって住民登録の際、ゴミの捨て方、通行方法等、生活上のマナーをしっかりと教えてほしい。
- ・ 制度利用やルール、マナーについて充分説明し理解してもらうこと。
- ・ ゴミの出し方のルール。夜間は静かにしなければならない。駐車場のルールは守る。部屋から臭気を出してはならない。等、日本的なルールを守るように指導してほしい。
- ・ 在住外国人に対して、特にゴミ出しのルールを徹底していただきたい。
- ・ 市民としてのルールを守って頂くことが必要である。住民になったときにそのルールを確認してもらう。
- ・ ルール、マナーの教育が必要になる。
- ・ 地域のルールを守るように指導していただきたい。（入居するときに）成田市民の優遇対応をうまく利用している。
- ・ 暮らしていく中での各マナー教本の整備。
- ・ 市からは、いろいろな言語のゴミのパンフレットをいただき、配布したこともありましたが、全く改善されません。ゴミ収集の方はいつも協力していただき、ありがたいと思っております。最近はゴミ置き場の前を通るだけでため息が出るので見ないようにしています。ゴミ置き場の状況があまりにもひどいのですが、成田市から注意などの介入はできるものなのでしょうか。
- ・ 日本に住むのであれば、そのルールに従ってほしいので転入するときはきちんと説明してあげてください。
- ・ 地域におけるルール、マナー解説パンフレットを作成してほしい。ごみの搬出方法、生活音 等。
- ・ 自国の生活や習慣を紹介できるようになればよいのではないかと。区や市でそういう機会を設けられればよい。
- ・ 日本の習慣、慣習の理解度アップの指導。

情報

- ・ ごみ収集ポスターですが、日本語版が改訂された際、多国語の改訂版ができていなかったが、日本語版を改訂する際に作るべきだ。今ができていないかは不明。
- ・ 町内会の内容や入会案内等のパンフレット配布。
- ・ 外国人が住んでいることを明確に把握するため、市への届け出に基づいて知らせてほしい。
- ・ 母国語での案内。
- ・ 各国語でホームページ等に暮らしに便利なことや、イベントの案内、相談コーナーを設ける。地域のことがわかりやすいように動画もよいと思う。わからないことがあると不安になると思う。
- ・ 他の行政に比べ、外国人への案内等はていねいである。文書等多国語で示されており良いと思うが(英語、中国語、韓国語表記は多く見られる) ベトナム、タイ等の外国人が増えている現状。こちらにも対応していただけたらいいと思う。
- ・ 成田市の外国人への情報提供。
- ・ 地域住民に情報を入れてほしい。
- ・ 犯罪の芽をつむ防犯の徹底。共生するための文化、習慣等の情報提供。
- ・ 生活していく最低の基礎知識を転入の際、わかりやすく説明する会議等を開催してほしい。(今でもやっているかも)

コミュニケーション

- ・ 外国人が加入している自治会に通訳機を貸与する。
- ・ コミュニケーションをとれる対策づくりを考えて実行すること。
- ・ 言葉の壁を取り除く。
- ・ 引っ越して最初の近所へのあいさつなど、そういう習慣のない国の人はわからないので、成田市の職員が同行してあげてはどうでしょうか。
- ・ (一般論として) 回覧板等の市からの情報提供に関して、多言語での対応も必要となるのでは。

交流

- ・ 日本に長く住んでいる人は言葉がわかるので問題ない。やさしく交流する。差別なく。
- ・ 市や地区の行事にも参加する方向が望ましい。
- ・ 外国の方の交流会等を実施してほしい。異文化の勉強会等の実施。
- ・ 交流の場づくりのアイデアの提供。
- ・ 外国人、特に黒人に対して偏見、恐怖感を持たずにこちらから積極的に接して互いに理解するようにスキミングをすることが大事だと思います。
- ・ 外国人も参加のイベントや交流会の開催等を通じて、相互理解を図る。

- ・ 成田市にはいろいろな国の方が住んでいらっしゃると思うので、市主催で交流の場を設けたりしていただけると良いと思います。
- ・ 近隣に住んでいる、働いている外国人の方は多いです。コミュニケーションの場（例えば、祭りとかの企画）を設けることで互いに交流でき、理解し合える。
- ・ 現在、町内会には外国の方はいませんが、もし外国の方がいたら、市としての文化の交流等の機会があれば積極的にすすめていただきたい。
- ・ 市の行事、地域の行事への広報活動を積極的に行ってほしい。

教育

- ・ 日本語学校的なものを開校。日本の文化、風土、成田の情勢などを学べる機会があれば。外国人が居住する町内会長や区長へ事前に情報があればよい。
- ・ 英語教育に力を入れていただきたいです。

自治会の説明

- ・ 不動産会社にも言えることですが、そういう（区・自治会）小さなコミュニティがあることを説明していただくとありがたいです。
- ・ 外国では、自治会・町内会というものはありません。成田市民の届け出の際、これについての説明したものがあれば、入会しやすくなると思います。
- ・ もっと外国人に対して、市主催の説明会（区費、自治会、町内会等について）を実施してほしいです。
- ・ 日本文化、自治会、町内会制度等の説明。
- ・ 外国人と一言で言われていますが、「自治会・町内会」がある国から来たのか・ない国から来たのか？その外国人が「自治会・町内会」を理解しているか？理解していないか？その差は、活動参加に誘っても理解してもらえるか。「成田市に対して」とのことですが、「こういう活動をしている」と知らせるだけでなく、「こういう活動をすることで、それがこうなって、いずれこうなっていく」と、だからみんなで参加して頑張っていると知らせてほしいです。
- ・ 住民登録時に、居住地域にコミュニティがあることを説明し、入会するように促してほしい。この時、入会に好意的な人には、具体的に連絡先を教える。区長へも対象者（人数等）を伝えるようにしてほしい。
- ・ 町内会に加入させる方法を教えてほしい。
- ・ 外国人世帯に対する自治会組織の存在について周知していただきたい。

相談窓口設置

- ・ 外国人が気軽に相談できるように相談窓口の充実を図ってほしい。
- ・ 外国人労働者が必要な時代が来ると思うので、市として専門部課を設置して対応を願う。
- ・ 悩みごと等相談窓口を設置しておくが良い。
- ・ いろんな外国籍の方が相談しに行ける窓口を開設してあげてほしい。言葉の壁があり、説明できない方のため、言葉の堪能なスタッフを用意して対応をお願いしたい。

その他

- ・ 日本人、外国人住民双方が安心して元気に生活できるよう願います。
- ・ 少子高齢化に向かう日本にとって、外国人は魅力的である。ただ住んでもらうのではなく、日本の文化等を理解してもらうことも必要。
- ・ 外国人は来てほしくない、受け入れないでほしい。
- ・ 市単位としては、異文化理解の推進ということでイベント等を実施していますが、広く地域全体を見ますと浸透しているとは言えない状況です。ポイントはそれぞれの自治会において、いかに外国籍の方に加入のためのアプローチをしていくか否かであると思います。
- ・ 区に加入していないので区の事業、美化運動などの協力をお願いできない。
- ・ 数多くあるアパートに、それぞれ部屋ごとにどのような職業について生活しているか、調査して情報を伝えていただきたいと思います。
- ・ 今現在、外国人住民がいまないので考えたことがありません。特になしです。
- ・ ゴミ問題の対策として、アパートオーナー（管理会社含む）にゴミ収集施設（場所）の設置義務を設けてほしい。
- ・ 特になし。今までも他の地域で苦情等を聞いたことがないので、今は大丈夫だと考えている。もし、問題等があったら、話し合い、解消出来なければ市に相談する。
- ・ 住環境等、国際都市としての責任を果たしてほしい。
- ・ 外国人住民を正確に把握するため、定期的に地域自治会長と共に調査を実施。
- ・ アパートに住んでいる外国人が特に多いので、住人の正確な把握が必要かと思います。
- ・ 使用人の言うことをよく聞いてほしいと言ってほしい。
- ・ 下総地区にも、いくつかの会社があります。何人かの外国人の方を使っています。住み込みの方もいます。
- ・ 特に問題なく、町内会のゴルフコンペにも参加している。言葉も日本語上手である。
- ・ 外国人に住居と仕事をあっせんしてほしい。
- ・ 外国人は怖い、おそろしいとかのイメージがあるので払しょくしてほしい。
- ・ 困ったことがあれば気軽に市へ…というようなお知らせを。「わからない」「知らない」と言う方が減ってくれるような対策を。
- ・ 外国人の方々が住民としての義務や責任を果たすならば、権利を主張してもいいと思います。“郷に入れば郷に従え”です。日本人がたとえばアメリカで住む場合、住んでいる人たちや、場所の生活の仕方等に合わせるわけですから、日本にきた方はそうしないと必ず問題が起きます。
- ・ 現状も多くの外国人の方を市内で見かける。質を落とさないためにも、言い方は悪いが門戸はある程度絞っていただきたい。
- ・ 機会があれば担当者が巡回し状況を確認することが望ましい。

- ・ 外国人＝犯罪というイメージが強く、特に当市は未だに保守的思想が強い為、まず住民（日本人）の教育・指導が必要ではないか。
- ・ 共存に努めるよう共に理解できる環境整備をお願いします。
- ・ 外国の方も社会保険に加入してもらい、所得税、住民税も日本人と同じように、差引してもらいたい。
- ・ 空き家があるので積極的に外国人に声をかけてもらいたい。
- ・ ごみ処理方法（周期や分別）について、説明資料を配布してください。

【外国人住民に対して】

マナー、ルール

- ・ 日本人のマナーを学ぶことも大切である。
- ・ ルール、マナーを守ってほしい。
- ・ 日本のモラルを知ってほしい。共生のルールに従ってほしい。
- ・ 言葉がわからなくても、決まりを守る努力や協力をしようとしてほしい。
- ・ 文化は違えど、生活時間の配慮をしてほしい。
- ・ 飲食店で使用したゴミなのか、青いゴミ袋（燃えるゴミ）の袋（下手すると袋の色関係なし）に何でもかんでも詰めて、テキトーに捨てているときが度々見受けられる。
- ・ 日本のルールを守って、心を開く。
- ・ 生活上のルールをきちんと守ってもらいたい。とくにゴミの問題。
- ・ ルールや生活習慣を理解し、積極的に挨拶をすることによって人間関係を作ってもらおう。
- ・ 普通に挨拶ができ、ルール、マナーを守る住民になってほしい。
- ・ いくつかの日本的なルールを守っていれば、平等、自由な社会であることを願っています。コンビニやカーショップなどで普通にお仕事されていますね。
- ・ 日本の文化、仕組みをよく勉強してほしい。
- ・ 積極的に日本国、成田市の居住におけるルールを覚えてほしい。
- ・ ルール・文化をわかってもらいたい。日本に合わせてもらいたい。
- ・ 公園などで集団で大声を出しているときが見受けられる。住宅区域なので慎んでももらいたい。
- ・ 日本に住んでいる以上、日本のルールに従ってほしい。そのように努力をお願いしたいです。
- ・ ゴミ出しのルール等を守る。

- ・ 日本には細かいルールがたくさんあるので、必ず守るようにしてほしい。日本国に来たわけですから、日本人ではないから、自分の国ではやらないとか言ってはいけません。そして従うことです。
- ・ 日本に住み、日本で働き生活している以上、必要最低限地域の風習は守ってほしい。
- ・ ルール、マナー、注意しても従わない。
- ・ 日本国、地区のルールを守る生活をほしい。
- ・ 日本人は個人を大事にすることが多いので、日本の文化、風習など外国人の方に学習してもらえるとよい。（声の大きさなど）
- ・ そのルールに従うべき。
- ・ 外国住民は主にアパート住まいが多く、外で大声で話したり、ゴミ出しのルールを守らないなど近隣住民の迷惑になっている人が多いとの意見あり。
- ・ ゴミ収集日、分別については、習慣の違いもあると思うが、粗大ごみが毎日のように集積場に持ち込まれるのにはまいてしまう。また夜中部屋や外で大騒ぎをしている（毎日ではないが……）管理人に話してもこちら側でもどの部屋の方かわからないので注意のしようがない。同じ国の仲間同士で住んでいるのか、わけのわからないことをしている。（ベランダを通してケーブルをつないだり、ベランダの仕切りに目張りをしたり。）

コミュニケーション

- ・ 近所の方々と積極的に会話をしてほしい。
- ・ 日本語ができれば、日本（成田市）のマナー（ゴミの出し方、夜間の日常の暮らし方、地域の特色等）を伝えさせていただきます。
- ・ 言葉の壁を乗り越えないといけない。
- ・ 文化の違いがあり、理解し合うまでは時間がかかると思います。
- ・ 話し合い及びコミュニケーション等できるだけとって理解していく。
- ・ 分からないことがあったら近所の人に聞いてどんどんコミュニケーションをとることが大事ではないかと思う。
- ・ 町内、隣近所等へ日常のコンタクトが（双方）あれば。
- ・ 地域住民（隣家）等に挨拶してほしい。（内容説明など。）
- ・ 挨拶からのコミュニケーションを推奨する。
- ・ 苦情等の情報の伝達の方法。
- ・ コミュニケーションですかね。
- ・ 目で挨拶程度なので、話しかける努力があればいいと思う。（お互いに。）
- ・ 日本語を理解してほしい。
- ・ ある程度日本語で話せるとうれしい。妻が外国の方で夫が日本人の場合は一緒に参加してほしい。

- ・ 言葉の壁がまず第一で、通訳を派遣する体制を作ってください。
- ・ もっと日本語を勉強してほしい。
- ・ 日本語が話せない人が多くみられるので、注意などは組織からの通達が良いようだ。

交流

- ・ なるべく地域住民との交流を積極的に行動し理解できないこと等は、行政や区長、民生委員に相談してほしい。
- ・ 町内会のイベント等に積極的に参加してほしいので、町内会でもイベントの案内等で声掛けしています。それで参加している方もいます。
- ・ せっかく日本に住むことになったので、いろいろなことに楽しく参加してほしいと思う。国の文化の違い、生活様式の違いを理解して、仲良くトラブルにならないようにしてほしい。自国の文化なども地域の人たちに理解してもらえ活動もよいと思う。
- ・ 交流会等に多くの方に参加してほしい。
- ・ いろいろな国の方たちと出会い、文化交流を深めることができればいいと思います。
- ・ コミュニティ活動への積極的参加。
- ・ 地域の行事に参加する。

自治会

- ・ 美化活動等に積極的に参加してほしい。(人手不足のため。)
- ・ 住んでいる以上は自治会の規則に従いお互い理解し楽しく生活できるよう、町内会へも積極的に加入していただきたい。
- ・ 参加意識の醸成をはかる。
- ・ 自治会の行事に参加するようにしていただきたい。
- ・ 自治会等の行事への積極的な参加・交流。
- ・ 区の行事に積極的に参加すること。
- ・ 集会などに積極的に出席していただきたい。
- ・ 対象者は町内会に加入しており、特に問題はない。
- ・ これからもずっと共同作業(草刈、美化運動)に出席していただきたい。

その他

- ・ 住んでほしくない。
- ・ 地域に即した対応をお願いしたい。
- ・ 周りに気を使ってほしい。

- ・ 今は新型コロナウイルスで集まって話すことができません。
- ・ 町内会の規律を守ってくれればどこの外国人であろうと、問題ないと思う。
- ・ 結婚したり、国籍を移して町内会に積極的に参加している外国人も知っています。仕事として住んでいる外国人もいるわけで、どちらも「外国人住民」です。私（他の日本人）には、その方がどちらなのかが判らないです。そして「判らないと（外国人には）気を付ける!？」バリアを無意識に張っています。
- ・ 税金をきちんと納めていただきたい。
- ・ よく日本のシステムを理解していただく気持ちが大事。（しかし、日本人もできないので無理でしょうが。）
- ・ 本地区では、日本人の夫や妻と結婚していることで、地域との関係も違和感が全くありません。短期就労滞在者などの方々もおり、難しい対応もありますが、多くの方々が、経済的に恵まれず、安定した生活を送れていない状況で、地域に受け込み活動されていくことはきびしいのではないのでしょうか。
- ・ 日本の文化を知ってほしい。

各種学校・企業等ヒアリング調査結果

各種学校・企業等ヒアリング調査結果

目次

第1部 ヒアリング調査概要

1. 調査目的.....	67
2. 調査対象・抽出方法.....	67
3. 調査方法.....	67
4. 調査実施期間.....	67

第2部 ヒアリング調査結果

◆ 各種学校

【生徒】	68
【校内で使用する文書について】	68
【多言語対応について（言語による直接対応）】	68
【日常生活支援】	69
・全般	69
・住居探し.....	70
・日常生活.....	70
・経済状況.....	70
・就職状況.....	71
・アルバイト状況	71
・地域住民との交流.....	72
・学校へ苦情（留学生に関する事）	72
【校内での人間関係やコミュニケーションの工夫】	72
【成田市にあるとよい施策】	73
【多文化共生のための課題、改善点】	74

◆ 企業

外国人を雇用した理由.....	75
外国人従業員に対して実施している（していた）支援.....	76
外国人雇用のメリット.....	76
外国人従業員を活用する際、課題・困っている点.....	76
外国人従業員に対し、求める日本語能力.....	77
外国人雇用に係る今後の採用方針.....	78
外国人労働者が日常生活で困っていた場合の関わりについて.....	78
外国人労働者が「社内」で円滑にコミュニケーションをとれるための支援や工夫.....	78
外国人労働者が「地域コミュニティ」になじめるような支援や工夫など.....	79
外国人労働者を活用する上で、今後、市に対して望む行政サービス.....	79

第1部 ヒアリング調査概要

1. 調査目的

成田市多文化共生指針の策定にあたっての基礎資料とするため、市内在住の外国人（留学生・就労者など）に関わる支援者を調査し、外国人を取り巻く環境や実態等を把握するために実施しました。

2. 調査対象・抽出方法

外国人を擁する市内の各種学校や事業所など 10 団体

3. 調査方法

市内各種学校、事業所等を訪問し、ヒアリング調査を実施しました。

【市内各種学校】

アンケートを送付し、回答のあった団体の中からヒアリング実施校を抜粋。

【市内事業所】

本市の各部署より外国人従業員を擁する団体の情報のあったもののうち、調査協力に応じた事業所で実施。

4. 調査実施期間

令和2年10月16日（金）～ 令和2年11月27日（金）

第2部 ヒアリング調査結果

市内各種学校、事業所等の区分ごとに同じ質問をし、聞き取った内容の要約を記載した。

◇ 各種学校

【生徒について】

- ・とても勤勉で優秀な生徒が多い。
- ・自国で実習を積んでから来日する人が多い。
- ・現地の日本語学校を経て来日してくる。
- ・生徒の年齢は様々で、現地で大学を出た人は30代、または20代前半。
- ・1年次で20歳の生徒がいる。18歳で来日後、約2年間日本人学校で勉強した後に入学してきている生徒と、海外で日本語を学んでから入学している生徒がいる。
- ・アジア諸国には、福祉や介護に関する概念がない国がある。内戦等で高齢者が少ないせいでもあり、そのような環境から介護分野を希望して来るので、留学生は大変意識が高い。
- ・日本語能力試験レベルN3程度であればなんとかなるが、それに至らない程度のレベルだと授業についていくのに大変である。
- ・国費留学生は、おおむね大学に行く。
- ・大体の生徒が就学ビザで来日し、日本語学校に入校する。

【校内で使用する文書について】

- ・基本的に日本語が中心で、授業で使用する教材は多言語対応することができないが、入学前の募集段階での資料には多言語対応したものはある。
- ・学校や寮でのルールなどは多言語文書で対応。その他基本的な日常生活や学習に関することは日本語を使用しており、伝わらないところは多言語でフォローしている。
- ・基本的に、すべて日本語を用いている。
- ・日本語教材を使用しているが、漢字が壁であり、教職員が手書きでふりがなをふっている。読解にも、個人差がある。
- ・生徒の求めに応じ、教科書などに記載された漢字にふりがなをふるなど対応。

【多言語対応について（言語による直接対応）】

- ・外国人生徒のレベルが高いため、意識せずに普通の日本語で対応。
- ・授業では担任が外国人生徒からの質問・要望に答えている。
- ・日本人の生徒との間で、共通の趣味の話などをしながら習得しているようである。

- ・専門的、または特殊な内容はやさしい日本語でも難しい。
- ・日常生活はやさしい日本語で対応している。
- ・来日前に、現地で日本語学習をかなりしている者が多いが、現地教師によるものであるため、来日後に教科書で学んだ日本語とのギャップに混乱する生徒が多い。
- ・分からない日本語があれば、日本語でさらに説明する。
- ・基本的には授業はすべて日本語。
- ・授業は日本語で行う。外国人生徒は日本人生徒とは別教室で授業を行う。
- ・外国語を話す職員はいないため、日本語で対応している。
- ・外国語を用いる場合は基本的に英語で対応可能としている。入学手続き時、なまりがひどい時や現地の言葉で対応が必要な時は、電話ではなく eメールでやり取りをしている。
- ・便宜上、外国語が必要な時もあるが、基本、生徒は日本語を使用している。
- ・日本語が一定のレベルがないと授業についていくことは難しい。日本語以外の言語を使つての授業は行われず、板書も日本語で行われることを前提にご了解いただいた上で入校してもらっている。日常生活に支障のある日本語レベルで入校した生徒は、早々にやめざるを得なくなるがあった。
- ・日本語で支援をするということは相手側の公用語を把握してからでないとできない。一つひとつ当てにならない翻訳ソフトを使って、相手と確認をしながらでは不都合が多い。入学後、数学が弱いというのであれば、中学校とか高校まで戻って授業を行うということや数式を思い出してもらおうということはするが、日本語そのものを授業の中で教えるということはなかなか手が回らない。
- ・いくつかの言い回しを変えることで理解できる子であれば、学校で支援ができるため、長期にわたり通学することができる。その線引きというのがなかなか事前に推し量ることは難しい。
- ・外国語を話す職員はあまりいない。
- ・英語と中国語を話せるスタッフがいるが、外国語を話すスタッフが不在の際にはその旨伝え、担当者に伝言を残すなど工夫をしている。
- ・日本語以外は敢えて話さない。日本語で日本語を教えている。学生が日本語を積極的に使っている。
- ・生徒の日本語のレベルが高く、街中でも日本語で通用すると思われる。

【日常生活支援】

・全般

- ・入国前に生活に関する説明書類（トラブルの多いマナーの例（騒音、自転車、近隣住民との共生支援）など）を郵送し、来日前に生活に関する必要書類を理解したことを確認するサインをもらう。
- ・入国後は、日本での生活に関するオリエンテーションを教職員や成田警察署の協力のもと行う。オリエンテーションには、多言語の日本生活での必要事項を HP から紹介することもある。
- ・留学ビザなどの手続等について、書類作成等の手伝いをする。

・住居探し

- ・ 新入生の住居探しの支援をしている。
- ・ 当初は寮に入ったとしても、多くの生徒はアルバイトのしやすい市街に引っ越す。
- ・ 同じ国の生徒同士 4 名ほどで共同生活をする者が多い。
- ・ 入校当初は学生寮に住むことが多いが、日本の生活に慣れると、友人と共にアパートを借りることが多い。
- ・ 学生寮はあるが、自分で住むところを探せる人は自由としている。
- ・ 日本に来て半年から 1 年後には、自力で家を見つけて自立していくことが多い。
- ・ 学生から申し出があれば住居探しのサポートをするが、多くの生徒は自分で探して交渉している。
- ・ 成田市近郊は、一時期外国人に家を貸さないという時期もあったが、今は空き家が多いのか外国人専用の集合住宅があるくらいである。

・日常生活

- ・ コロナの濃厚接触者として自宅待機の者がいた。
- ・ 手続き等の必要書類関連の質問をされる。
- ・ 近隣とのトラブル（騒音パーティー、漏水、掃除、駐輪など…）
- ・ コロナの為に帰国が決まっていたのに帰れなかった。
- ・ ビザの切り替えができなくアルバイトもできず困っているという相談があった。
- ・ 生活面で相談を受けることはない。

・経済状況

- ・ 途中で学費の支払いが困難になる生徒もおり、学費の相談が多く、離脱していく生徒も少なくない。
- ・ 学費の相談は多く、担任が直接受けていることはあると思う。
- ・ 学費の支払いが困難な学生について、特例で授業料の保留をすることはできるが、卒業式までに全納しなければ卒業資格を与えることはできない。外国人ということで特別扱いをすることができない。さらに、卒業できないと入管でビザが下りない。
- ・ 国費での留学生はおらず、全て私費による留学となっている。
- ・ バイトで学費を稼いでいる留学生がほとんどだが、生活が大変でもバイト先がない現状がある。
- ・ 学生の母国に職員が赴き、面接で選抜された者が来日し、入校する。
- ・ 入管の手続きの際に最重要な確認事項であるため、選抜時は高額な学費と生活費の工面が両親にできるか確認する。入管に半年前に書類提出し、3か月前に審査開始されるなど、かなり厳しい審査により入国許可が下りる。また、学生の母国によって基準が変わる。
- ・ 在校中は週 2 8 時間のアルバイト就労が認められている。不法超過時間労働の連絡が学校にくることもある。

- ・先輩などコミュニティからの古い情報に基づく仕事の紹介で不法になるケースもあるが、入管の規定も変わることがあるので、学校側でも指導はしている。
- ・管理責任は学校側にも問われる。
- ・アルバイトがないという悩みがコロナを機に増えた。空港、ホテルなどアルバイトに恵まれた成田市であったが今は苦しい。
- ・経済的にひっ迫しているという話は事務には届いていない。比較的母国でお金持ちの家庭であるということは聞いている。
- ・学費の支払いが遅れてしまうという相談は受けた際、延納を案内することはある。
- ・ある程度授業についていけるという高い日本語能力から、母国でそれなりの生活をしていたという学生であると推測できる。

・就職状況

- ・卒業生と就職先がマッチするのは8割くらいで、学校へ就職後のトラブル相談もある。
- ・就職先としては成田以外が多い。
- ・千葉県内で受け入れてくれるところに採用してもらっている。
- ・外国人を積極的に受け入れてくれる会社に入社することが多い。
- ・外国人だから積極的にということではなく、本校だから受け入れてくれるという企業がある。
- ・日本語の授業についていけるだけの生徒なので、就職面接などでも、普通に受け答えができる。
- ・日本語の授業がきちんと受けられている生徒は、ある程度の専門的な質問ができて対応するだけの語学力が身につけている。
- ・卒業後は基本的に生活圏を変えたくないとの気持ちから、日本国内（空港関係業務）在留が多い。
- ・ビザ更新の問題から、採用内定を得るのが厳しい状況があるが、これは留学生本人の問題ではなく、採用側の認識不足の問題であるとも思える。
- ・昨年は内定が数多くとれていたが、今年はほとんどとれない。成田に来る外国籍留学生は、空港を目指してきているが、今はとても難しい。
- ・成田に留学してきた人は、卒業後も成田に働くことを希望している人が多い。就職しても生活圏を変えたくないという人が多い。

・アルバイト状況

- ・学生はコンビニやラーメン屋などでバイトしており、日本語を覚えるために接客業が多い。
- ・コロナ禍の中、外国人生徒は心無い言葉を浴びせられて傷つく事がある。
- ・学生は、アルバイト等の経験から、日本人が嫌いになる時期がある。
- ・成田空港はアルバイトの時給が高い。このため、市外から入学してくる生徒も成田に移り住むケースが多い。
- ・留学生の就労時間 28 週時間、夏休みは週 40 時間になる。入管の担当者により、時間だけでなく、収入額でも確認されることがある。空港は時給単価が高いので、週 28 時間であっても、結構稼げることもあり、入管の担当者より労働時間について質問されることがある。

・地域住民との交流

- ・コロナ以前は文化祭（ふるさと祭り 11月）を開催し交流の機会があった。
- ・交流イベントなどがあると相互理解が深まると思われる。
- ・生徒たちは日本語で話す内容を聞き取ることはできても、自分の思いを話し表現することの方が難しいことが多い。そのあたりを理解し、日本語で話しかけるなどするとコミュニケーションが深まるかもしれない。
- ・日本人は冷たいという声を聞く。人間的な冷たさでなく地域性や警戒心からと思われる。
- ・大阪や東京ではまた対応が違い、地方は排他的に感じる。
- ・表現の仕方が地域によって違うが、留学生はそここのところがわからない。
- ・学校の先生はやさしいから、地域住民とのギャップに苦しむ。
- ・日本人の友達にもなじんでいる。
- ・学生は、成田の祇園祭に多くが参加し、日本人と話をしている。彼らは歌ったり踊ったり（母国の踊り）をととても好む。日本でも歌舞伎の行事や各種のイベントなどでの交流を通じて、相互理解を深めるのが大切と思う。
- ・騒音苦情にしても、彼らには悪気はなく、お互いの誤解を生んでいるのが実態のようだ。アジア人は顔つきが日本人に似ているがものの考え方は全く違う。
- ・日本のように、あいまいな言い回しや本音と建前があるわけではなく、皆 白黒はっきりというような国柄を感じる。

・学校へ苦情（留学生に関すること）

- ・時々ある。駐車場その他の場所での騒音に関するものがある。
- ・騒音のもとになる祖国の祭りは彼らにとって非常に大切なようで、日本にいるからといって祭りの日に関わらないということはある得ないようだ。
- ・騒ぐ（音を出して盛り上がる）ということがいわば当たり前のような風土がある。しかし、日本には日本の決まりや常識があるので、その点は注意するよう指導している。

【校内での人間関係やコミュニケーションの工夫】

- ・文化や価値観の違う多国籍の学生をまとめるための工夫として、校内では日本語使用を徹底している。各々の自国の言語を許すと統制が取れないのではないかと思う。
- ・街中においても、日本では日本人もまずは日本語で外国人とコミュニケーションをとる姿勢も必要かと思われる。
- ・多国籍の生徒の間でのトラブル（物の貸し借りや言動など）も校内ではごく稀にある。
- ・人としての人間性や常識より、国民性や母国の価値観や文化が影響しているように思う。
- ・国により、血の気が多く喧嘩っ早いなど感じることもある。
- ・外国人は横や縦のつながりも強く、コミュニティで助け合うこともあるが、反対に自覚なしに

犯罪に巻き込まれることもあるため、不法労働や口座の売買など、学校側でも関わらないよう指導している。

- ・若い子は国籍関係なく仲良くなる。日本語でコミュニケーションがとれているようだ。
- ・学校内で留学生に対する偏見はない。若い人は特に順応性がある。
- ・今の生徒は、日本人に溶け込んでいるため、学校としても生徒が外国人という感覚があまりない。
- ・校内の生徒間交流は非常に盛んで、日本人生徒も留学生に偏見など持ってはいない。
- ・学校内で文化の違いによるトラブルはない。
- ・留学生間では、英語を解する者と解さない(国の)者との間で、年に1回程度いさかいが生じるのを見かける。暴力を伴うようなものではない。
- ・学校内でサマーキャンプをした時などは、自分の特技を発表しあうなどをし、交流していた。
- ・日本語を歌で覚えることが多いのかもしれない。
- ・外国人は言葉が伝わらないだけで、悪気はない。
- ・一般的に日本人は静かで外国人は騒ぐように見えるが、年齢層が影響しているのか、生徒については日本人の方がうるさい。

【成田市にあるとよい施策】

- ・経済的な理由での離脱者防止の為に、アルバイト規定時間の緩和があるとよい。
- ・国家戦略特区の特例を利用して大卒者の就職活動に力を入れていきたい。
- ・学生募集にも有効で国によっては大卒者が多いところもあるのでよい提案ができる。
- ・外国人と日本人が交流できる場があるといい。
- ・国際市民フェスティバル(文化会館10月)や地区のイベント、中央公民館でも文化交流の催しがあり、参加したいと思っている。
- ・病院などで使われている機械翻訳は完璧でないにしろ、問題解決に貢献できることもある。
- ・コンサートなど、国際的な催しがあるといい。各々の国の歌やダンスを披露し楽しみ国際理解を深める催しはどうか。外国人は日本人のみんなに見てもらおうと自信につながるようだ。
- ・国際都市成田ならではの国際交流の催しが、国際理解に良いと思う。空港の中央広場などで行うのもどうか。
- ・成田市が、就職先という部分が外国人を受け入れたいという企業の情報があればいい。
- ・企業がどういうビジョンで外国人を受け入れたいかということを教えてもらえれば、学校で就職の手伝いがしやすい。
- ・外国人が、より日本語を学びたいと思えるようなことをした方がいい。
- ・日本語を理解し、日本で働いてもらえるような環境づくりをしたほうがいいのではないか。
- ・留学生等に空き家を貸し出すなど、生活コストを抑える支援をしてもらいたい。

- ・会社の規模により、採用できる外国人の人数が変わってしまうが、それを知らない会社がとても多い。そのあたりを分かりやすく周知することができればいいと思う。留学生が就職する企業(受け入れ側)へのレクチャーが必要。
- ・現実に即した入管制度の緩和があるとよいが、緩和は現実問題難しいのかもしれない。
- ・悪い人が基本の制度が多すぎるため、普通の留学生に対して厳しい制度が多い。
- ・生徒は生活苦であることが多い。コロナ禍の影響か、アルバイトがないことが影響している。
- ・市で留学生を支援するようなアルバイトのあっせんをしてくれるといいのだが。とにかく働き口が欲しい。働く場所がたくさん欲しい。

【多文化共生のための課題、改善点】

- ・外国人の協力が必要となる少子化時代である現在の社会背景を日本人側も理解することが必要。
- ・外国の文化や習慣の違いを地域の方々にも理解していただきたい。そのために交流の機会が有効かと考えている。
- ・外国人に対する怖いなどといった日本人の固定観念を変えることも必要。
- ・外国人側にも日本独自のルールやマナーは守ってもらうように発信し、周知させることが必要で、その役割と責任は学校側にもあると考えている。
- ・日本人に偏見の目があり、その見方を変える必要がある。
- ・日本の留学生の労働は週 28 時間以内に抑制されているが、これは厳しい。韓国などは、一定年数内にいくら働いてもいい仕組みだし、このままでは留学先として日本は選ばれなくなるのではないか。中国・韓国・インドなどは日本を反面教師にした政策をとっており、韓国はいろいろ問題がある中で外国人にはとても人気が高い。賃金の単価ではなく、介護ではなくホームヘルパーとしての資格だが、5～6年のビザがある。
- ・外国人が留学先として選ぶのはアメリカやイギリス。そこに行けない人が日本を選ぶ現状。日本はサービスの質を求める傾向にあり、外国人が就労するにはとてもハードルが高い。
- ・最近の若い子は、学校など成長過程で外国人に接した経験があるからうまくコミュニケーションがとれていると思う。ゲームなども通信だから世界を近くに感じているかもしれない。
- ・何事も、経験やふれあいは大事。
- ・外国人はその国のお祭りの日を大切に。お祭りの日は騒ぐもの。それをやめさせることは難しい。このため国際交流協会などで、例えばスリランカデーなどその国ごとのお祭りの日にイベントをやるなどはいかがか。そんな時、学校にも声をかけてもらえればいいと思う。
- ・海外で黒人に対する偏見があるように、日本の中にも黒人に対して偏見はある。話せばとてもいい子なのに、見た目が怖く見られ、避けられる傾向がある。
- ・交流ができればいいのではないか。
- ・近年福祉の分野に興味を持つ高校生が減っている。近隣の高校に入校説明会等に行くが福祉に興味を持つ生徒は1～2名程度である。意識が高い施設は以前より外国人を採用している。これからはどの施設も外国人に目を向けざるを得ない状況になっている。
- ・相互理解の為の交流機会がより必要。

- ・海外から見ると、日本人はコミュニケーション障害にも見える。日本の企業はすぐに謝罪してしまい、客と対等に交渉しない。NO と言えない文化は国際的に対応できない。
- ・争い事や意見対立は日本ではタブーになっている。
- ・日本人は面倒くさいことは、簡単に謝ってすませてしまい、コミュニケーションをとらない。このような文化には人間味のないように感じる。
- ・制度が外国人に見えるようにした方がいい。
- ・成田市のホームページ対応言語を見ると、必要な言語がない。
- ・一般的に少ない言語でも、公立学校に入れてもらった方がいいのではと思うが、どこまで対応した方がいいのかが課題。
- ・日本のアンケートの選択肢は、あいまいで彼らの世界では理解できないと思う。
- ・日本人なら協力してやろうということでアンケートに応じることがあるが、彼らはとにかく面倒なことは嫌がり、応じるうえでは何かの見返りを前提とする。
- ・アンケートは「YES」か「NO」で回答できるようにした方がよく、単純でないといけない。「～と思う」など、あいまいな表現はよくない。
- ・アンケートの表紙にたくさん字があるのはダメ。設問ごとにジャンプさせるのは分かりにくい。
- ・アンケートのボリュームは A4 一枚程度がいい。

◇ 企 業

外国人を雇用した理由

- ・人材不足を受け、外国人を雇用するために自社で現地（バリなど海外）日本語学校を設置した。
- ・実習生制度ができて、3年目くらいから外国人従業員を受け入れている。中には技術を純粋に学びたい者がいるが、ほとんどの技能実習生は生活の為に働きに来ている。実習生は、給料の大半を仕送りしているようだ。
- ・技能実習生受け入れ制度のない時代から EPA の制度で受け入れをしていた。人材不足の解消だけでなく、法人の理念として『多様性を受け入れる』とあることもあり、国際化の進む社会において日本人のみの職場は、違和感がある。
- ・いくつか施設をもっているが、当初から設置している施設では、EPA の制度が始まった当初から受け入れをしている。
- ・特に外国人に特化した募集をしているわけではなく、外国語ができると尚可という募集に応募された方々の中に、日本語に支障がなく接客接遇に対応できる外国人の方がいた。国籍により給与面で差をつけているわけではないため、コスト面で安い人材を必要とするなどの理由は全くない。
- ・以下のような場合、日本人の接客より外国人のお客様には外国人が対応した方がよい場合がある。
 - ・母国語での商品説明が必要な時、お客様の声としては信頼がおけるとの評価あり。
 - ・難しい商品説明ができコンサルティングセールスができる。
 - ・商品の成分や、高額商品などの販売時には母国語での説明が求められる。
 ただし、外国人従業員（自国）ばかりで対応をすると、日本の風習での買い物を楽しんでもらいにくくなる。日本的なきめ細やかな接客スタイルも求められる現場なので、日本風と自国の文化の両輪で対応することで販売が促進する。

外国人従業員に対して実施している（していた）支援

- ・日常生活の物資の調達（電化製品や自転車など）や、市役所での手続きなども支援している。
- ・特に特別な支援はしていないが、寮を用意している。寮費は安価で、Wi-Fi 設備、電気ガスと冷暖房をまかなっている。ただの従業員とは考えずに、家族を自国に置いて働きにきている実習生が生活しやすいよう配慮している。
- ・受け入れ段階で、日本人従業員に対して宗教や外国人従業員を受け入れる意義などを周知する勉強会を開催している。EPA の受け入れ団体で勉強会があり、先に受け入れている団体に経験談をシェアしてもらっている。
- ・外国人従業員に対し、接客マナーのフォロー研修を行っている。専属の外国人スタッフを設置し、カスタマーサービスを推進する教育制度を設けている。

外国人雇用のメリット

- ・外国人従業員は、みんなから好かれている。日本人より仕事が丁寧で、同じ系列の他施設でも評判がよい特定の国籍もある。
- ・日本人のマナー力向上においても、外国人従業員は模範的な働き方になっている。
- ・現在雇用している外国人従業員は、よく働き、急遽しなければならなくなった残業も苦にしない。
- ・以前は自国へ生活費を送金する目的で働く者が多かったが、今は自国での住宅購入費（土地購入）の為に働く者も多い。
- ・丁寧な対応ができる外国人従業員が多く、お客様から高評価を得ている。
- ・他者に敬意をはらい受け答えや笑顔がよく人気がある特定の国籍もある。
- ・外国人従業員の働きぶりを見ることで、日本人従業員も学ぶことができる。
- ・宗教や国籍によってある、断食などの文化の違いを社員も学び、事業所内で多様性を受け入れることが社員全体に広がっている。
- ・お互いの文化を学び、多様性を知るきっかけとなり、従業員が寛容になる。（いろいろな人が受け入れられるようになる。）
- ・外国人従業員の丁寧な対応が、日本人従業員への刺激となり、従業員が寛容な気持ち（雰囲気）を作っている。

外国人従業員を活用する際、課題・困っている点

- ・大家さんによって、住宅が決まりにくいことがある。これは地域にもよるが、他市町村より成田市は住むところを見つけやすかった。
- ・困っていることは特にないが、国民性をよく理解することが大切。極端な例を挙げれば、おなかがすいて、お金がなければ、豚を殺してたべてしまうことも国や地域によって許されているところもある。日本人も昔は地域によっては同じことがあったと理解した上で、現在に日本の状況に合わせてもらうことも大切である。
- ・都合の悪いところがあれば、改善をするようにしている。ちょっとした気遣いをしている。

- ・文化の違いを受け入れているが、宗教により特定の曜日に礼拝に行くため、シフトを組みにくい時がある。
- ・日本語の習得度に個人差があり、外国人従業員に責任のある仕事を任せるタイミングを計るのが難しい。
- ・事業所内で文化の違いでぶつかることはない。
- ・派遣の外国人スタッフについては、細かいことが把握しにくい。
- ・雇用後、現場に入ってから語学面や異文化理解の面でギャップが大きいことがあるが、外国人従業員の人数が多いこともあり、教育が行き届きにくい。
- ・日本語のレベルが十分でなく、現場でクレームの発生等、業務上支障がある場合がある。
- ・出身の国・地域により従業員同士で差別がある場合がある。

外国人従業員に対し、求める日本語能力

- ・仕事上、会話の機会が多く日常会話レベルが求められるが、現在の技能実習生で日本語能力に問題を感じたことはない。
- ・ネイティブの日本人とは違う言い回しをすることがあるが、会話で困るほど意味が分からなかったことはない。
- ・読み書きもほぼ問題ないが、漢字は難しそう。報告書作成時など、日本語の文法は難しいようで、指導が必要なこともある。
- ・辞書を持ち歩いて報告書など書いている。
- ・技能実習生は、日本語能力検定 N3 を取らないと 2 年しか日本にいられない。
- ・母国で資格をもつ者なので、基礎知識があり、日本語も習得が早いようだ。
- ・社長自ら外国語を学び、歩み寄りつつ相互理解を深める努力をしている。
- ・人により日本人同様のレベルで、責任のある仕事を任せることができる。
- ・採用は、現地でコミュニケーション力等をみて採用している。
- ・来日 1~2 年目の資格勉強中の従業員は、日常生活には困らないが専門用語は難しい。
- ・EPA 来日前と後に半年間、合計 1 年間日本語を学んできている。読み書きについては、漢字やカタカナは難しそう。
- ・業務上必要な記録を ICT 化している。外国人従業員は予測変換で対応しているようだ。
- ・日本語の漢字は難しいが、カタカナも外国人にとって難しいようである。(カタカナは読むことはできるが、書くことはむずかしいとのこと)
- ・接客を行うにあたり、日本語能力だけでなく、文化やエチケットなどの違いの理解が求められる。

外国人雇用に係る今後の採用方針

- ・海外から受け入れ予定だったが、コロナの影響で採用予定が進まない。
- ・雇用を始めた当初、お客様からの評判が心配だったが、評判はとてよく、外国人だからといって苦情がきたことは一度もない。また、初めてご利用のお客様に、外国人従業員の紹介などもおこなっている。
- ・外国人に特化した採用はこれまで同様しない。募集した結果、応募のあった人材に優秀な外国人が多くいれば、採用の比率も上がる。
- ・本採用の外国人従業員の雇用期間は長い。派遣の方は短期の方が多い傾向がみられる。

外国人労働者が日常生活で困っていた場合の関わりについて

- ・イスラム教徒の礼拝場所の確保、断食に対する配慮など理解をするようにしている。
- ・監理団体の視察が月1回あり、雇用当初は文化の違いなどサポートしてもらったが、本人たちがとてもしっかりしているので、今のところ問題はない。
- ・買い物などを手助けしている。スーパーなどに同行し、洋服屋などは2か月に1度みんなで行くようにしている。
- ・外国人労働者が増えてきたこともあり、外国人をサポートする職員を社内に配置することを検討している。
- ・日本語やマナーをよく知っている外国人社員がほとんどで、それほど問題はない。
- ・新卒社員向けの社宅があり、新卒に外国人がいれば社宅に入ることが多い。

外国人労働者が「社内」で円滑にコミュニケーションをとれるための支援や工夫

- ・他部署の外国人の方々や社員と買い物や食事など交流や気分転換の機会をもつようにしている。
- ・外国人材受け入れ時、特に社内研修等も行わなかったが、外国人本人たちの素質で社内がつましく回った。
- ・言葉や文化を理解すること、相手の言葉を覚えることで相手も心を許し理解につながるのではないかと。中国人は朝おはようといさつはせず、朝ご飯食べた？と聞く。細かにも文化は違う。
- ・買い物に連れて行く、外国語を覚えるなど、雇う方からもコミュニケーションを図るなど、従業員に対し理解を示す。
- ・外国人社員の採用の意義や、文化の違いを事前に勉強会がある。
- ・EPAの日本の受け入れ機関である国際厚生事業団で学んだ内容を勉強会に活かしている。
- ・受け入れの際に、懇親会や顔合わせなどを行っている。母国の食事をふるまってくれるなど、外国人側からの企画もある。

- ・日本人の若手社員を現地説明会に連れていき、現地の生活がわかるような機会を作っている。
- ・法人内でオリエンテーションを実施している。
- ・日本語のレベルが高い外国人従業員が多いため、支援等の必要性が今までない。

外国人労働者が「地域コミュニティ」になじめるような支援や工夫など

- ・特に問題なく、本人は馴染んでいるような印象がある。地元の人からのクレームもなく、今のところ支援の必要性を感じていない。
- ・外国人の方から積極的に挨拶をしているためか、地域の方からの評判がよい。
- ・アパートなど入居の際には、近隣はもちろん自治会長さんにも外国人の人たちが入居してきたことをお知らせしている。

外国人労働者を活用する上で、今後、市に対して望む行政サービス

- ・自国の食材を探すのに困ると聞いている。
- ・他の同郷の方々との交流会やイベントなどがあると喜ぶと思う。
- ・同郷の仲間と交流する機会がなかなかないので、情報交換するためのコミュニティがあるとよい。
- ・中華街などは商売の為の場所なので、コミュニティとは言い難い。
- ・同郷の者が集まれる機会があるとよいと思われる。
- ・実習生の日常会話レベルのブラッシュアップできる場があるといい。
- ・実習生に文化やマナーについての周知研修があるといい。

用語について

多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

ALT

外国語を母国語とする外国語指導助手。Assistant Language Teacher の略。

監理団体

主務大臣からの許可を受け、技能実習生の受入れやその活動及び受入企業へのサポートなどを行う非営利団体。

経済連携協定（EPA = Economic Partnership Agreement）

貿易の自由化に加え、投資、人の移動、知的財産の保護や競争政策におけるルール作り、様々な分野での協力の要素などを含む、幅広い経済関係の強化を目的とする協定のこと。その協定に基づいた経済交流として、介護分野などで人材を受け入れている。

公益社団法人 国際厚生事業団（JICWELS）

日本国内の医療法人、社会福祉法人等を対象に、経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者のあっせん等の業務を行う日本の唯一の受入れ調整機関。

情報通信技術（ICT = Information and Communication Technology）

パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットなど、様々な形状のコンピュータを活用したコミュニケーションを指す。情報処理だけではなく、通信技術を利用した産業やサービスの総称。